

仙台市文化財調査報告書第414集

# 大野田遺跡・元袋遺跡・伊古田遺跡ほか

—仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書IV—

2013年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会



仙台市文化財調査報告書第414集

# 大野田遺跡・元袋遺跡・伊古田遺跡ほか

—仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書IV—

2013年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会



# 序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃から多大なご理解とご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

富沢駅周辺地区は仙台市東南部、太白区大野田に広がる田園地帯でありましたが、地下鉄南北線の開業を契機として、道路網の整備や宅地化が急速に進む様相がみられる地域がありました。そのような中で、平成6年度から進められてまいりました富沢駅周辺土地区画整理事業につきましても、関係する遺跡が14遺跡に上り、平成25年度を最終調査年度として、発掘調査を実施してまいりました。

今回刊行いたします発掘調査報告書Ⅳは、平成19年度から平成21年度にかけて実施した7遺跡の調査の成果を中心にまとめたものです。

先人達の残した貴重な文化遺産をこれから「まちづくり」の中で保護し、保存活用を図りながら市民の宝として永く後世に伝えていくことが、現代に生きる私たちの責務であると考えております。

平成11年度に刊行いたしました発掘調査報告書Ⅰ、同じく23年度に刊行いたしました発掘調査報告書Ⅱ、本年度に刊行いたしました発掘調査報告書Ⅲと共に、ここに報告する調査成果が広く活用され、地域の歴史を解明していくための貴重な資料となり、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、仙台市では、平成23年3月11日の東日本大震災からの復興に向け、「ともに、前へ仙台～3・11からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。未曾有の大震災から2年を迎えたが復興はまだ道半ばといえます。

そうした中、本報告書の刊行にあたりまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成25年3月

仙台市教育委員会

教育長 青沼 一民



## 例　　言

1. 本書は仙台市教育委員会による「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う、大野田遺跡・元袋遺跡・伊古田遺跡・伊古田B遺跡・皿屋敷遺跡・袋前遺跡・下ノ内遺跡の発掘調査報告書である。区画整理事業に伴う本調査は平成7年4月より開始され、現在（平成25年）も継続中である。本書では平成19年度から平成21年度までの調査成果の一部について報告する。
2. 報告書作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、国際文化財株式会社が行った。
3. 調査区のグリッド配置は測量基準線の設定にあたり、事業地内の測量基準点（X=-198.400km・Y=3.800km）を原点とし、東西・南北両方向に10×10mグリッドを組んだ。各調査区の測量はこの基準線上に設定した杭をもとに行なった。測量杭には原点からの方向と距離を組み合わせた数値を「E 100・S 100」のように表示した。E 100は測量基準点から東に100m、S 100は南に100mを意味し、国家座標上ではX=-198.500km・Y=3.900kmとなる。なお、遺構図上に表示したグリッドの数値も同様の値を示している。
4. 本書の作成及び編集は仙台市教育委員会文化財課調査指導係 結城慎一、主濱光朗、荒井 格、工藤信一郎、渡部 紀、鈴木 隆、水野一夫、庄子裕美の監理のもと、国際文化財株式会社が行った。
5. 本書の執筆は下記のとおりである。

第1章第1節・第3節・第4節………	主濱光朗
第1章第2節・第2章第1節………	工藤 司（国際文化財株式会社）
第2章第2節～第8節………	工藤 司・土橋尚起・渡部裕司（国際文化財株式会社）
第3章 ……	工藤 司
6. 伊古田B遺跡4A1・4A2・4B2・4C区採取試料の分析・執筆は株式会社古環境研究所に依頼した。
7. 石器・石製品の石材鑑定については東北大学名誉教授蟹澤聰史氏に依頼し、肉眼で鑑定を行った。
8. 調査成果はすでに現地説明会資料、遺跡見学会資料、宮城県遺跡調査成果発表会資料等で一部紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
9. 調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は仙台市教育委員会で一括保管している。

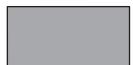
## 凡　　例

1. 本書の土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原：1975、1997）を使用した。
2. 国土交通省国土地理院発行の地形図を使用した場合は図中に示した。
3. 図中及び本文中に記載の方位の北は座標北を示している。なお、図中でE・Sを付した座標値は区画整理事業地内に設定された測量基準点（X=-198.400km・Y=3.800km）からの距離（m）を示し、EはY座標値・SはX座標値に対応する。
4. 図版中のレベルは海拔標高を示す。
5. 座標値及び海拔標高については、平成23年3月11日の東日本大震災前のものを使用している。
6. 層位名は基本層位をローマ数字、遺構内堆積土については算用数字を使用し、さらに細分される場合はアルファベットを付した。
7. 図版・表等の番号は大野田遺跡・元袋遺跡・伊古田遺跡・伊古田B遺跡・皿屋敷遺跡・袋前遺跡・下ノ内遺跡の報告毎に付している。
8. 本書の検出遺構については次の略号を使用し、遺跡毎に発見順に番号を付した。

SB=掘立柱建物跡	SD=溝跡	SE=井戸跡	SI=竪穴住居跡・竪穴遺構	SK=土坑
SR=河川跡	SX=性格不明遺構・その他の遺構	P=ピット・柱穴		

なお、小溝状遺構群についてはローマ数字と算用数字の組み合わせで示した。

9. 遺構図に使用したスクリーン・トーンは以下の通りである。



柱痕跡



焼土範囲・焼面

10. 本書の出土遺物の分類と登録には次の略記号を使用し、分類毎に登録番号を付した。

A=縄文土器 B=弥生土器 C=土師器（非ロクロ） D=土師器（ロクロ） E=須恵器  
G=平瓦 I=陶器・土師質土器 J=磁器 Ka=打製石器 Kb=磨製石器 Kc=礫石器 Kd=石製品  
Ke=その他の石器 N=金属製品 P=土製品

11. 遺物観察表において（ ）は復元値を示している。なお、器高の計測は原則として断面とした。

12. 遺構一覧表において（ ）は推定、〔 〕は検出長を示している。

13. 土器の実測図に使用したスクリーン・トーンは、以下のとおりである。これ以外については、その都度図中に示した。



地文部分(縄文土器展開図)



黒色処理

14. 土製品の実測図に使用したスクリーン・トーンは、その都度図中に示した。

15. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーン・トーンは以下のとおりである。



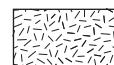
節理



マメツ



敲打痕



火ハネ



付着物



被熱による変色



二重パティナ



光沢

16. 石器の分類と登録記号は次ページのとおりである。

## 石器分類

石 器	K	打製石器 Ka	石鎌	有茎 平基 凹基 その他	Ka-a1 Ka-a2 Ka-a3 Ka-a4	※石匙、不定形石器、二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片、剥片については、石刃状の縦長剥片に分類番号の後ろにI（ローマ数字の1）を入れる。
			尖頭器	有茎 無茎 その他	Ka-b1 Ka-b2 Ka-b3	
		石錐	棒状 つまみ付き その他		Ka-c1 Ka-c2 Ka-c3	
		石匙	縦型 横型 その他		Ka-d1,Ka-d1I Ka-d2,Ka-d2I Ka-d3,Ka-d3I	
		不定形 石器	削器（石器の側縁に鋭角の刃部を持つもの） 撃器（石器の端部に鈍角の刃部を持つもの） 鋸歯縁石器（鋸歯状の刃部を持つもの） ノッチ（抉入状の刃部を持つもの） 円形撃器（石器の全周縁に刃部を持つもの） R F（石器の一部に刃部加工が見られるもの） U F（石器の刃部に使用痕〔摩滅、光沢〕が見られるもの）		Ka-e1,Ka-e1I Ka-e2,Ka-e2I Ka-e3,Ka-e3I Ka-e4,Ka-e4I Ka-e5,Ka-e5I Ka-e6,Ka-e6I Ka-e7,Ka-e7I	
		石箒	半両面加工 両面加工		Ka-f1 Ka-f2	
		打製石斧			Ka-g	
		楔形石器（両極剥離による二次加工が明瞭に認められるもの）				Ka-h
		異形石器				Ka-i
		二次加工のある剥片（刃部加工を目的としていない二次加工）				Ka-j,Ka-jI
		微細剥離痕のある剥片（微細な剥離痕を有する剥片）				Ka-k,Ka-kI
		剥片			Ka-l,Ka-lI	
		石核			Ka-m	
		磨製石器 Kb	磨製石斧 蛤刃石斧 石鑿 環状石斧 磨製石鎌 石庖丁		Kb-a Kb-b Kb-c Kb-d Kb-e Kb-f	
		礫石器 Kc	磨 磨 + 凹 磨 + 敲 磨 + 凹 + 敲 凹 凹 + 敲 敲 砥石		Kc-a1 Kc-a2 Kc-a3 Kc-a4 Kc-b1 Kc-b2 Kc-c Kc-d	
		石製品 Kd	砥石 石棒 垂飾 玉類（管玉・勾玉・小玉） 石製模造品 石製紡錘車 石臼 容器 石錐 石皿 浮子 不明		Kd-a Kd-b Kd-c Kd-d Kd-e Kd-f Kd-g Kd-h Kd-i Kd-j Kd-k Kd-x	
		その他 Ke				

# 本文目次

序文  
例言  
凡例

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡周辺の環境	1
1. 遺跡の位置と地理的環境	1
2. 遺跡周辺の歴史的環境	1
第3節 調査経過	4
第4節 報告書の作成	4
第2章 本調査報告	6
第1節 富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡の基本層序	6
第2節 大野田遺跡	9
1. 調査要項	9
2. 1区東区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	9
(2) 深堀区の調査	12
3. 1区西の調査 (1) IV層検出の遺構と遺物	13
(2) V層検出の遺構と遺物	19
(3) 遺構外出土の遺物	24
4. まとめ	25
写真図版	27
第3節 元袋遺跡	33
1. 調査要項	33
2. 3A区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	33
3. 3B区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	34
(2) 遺構外出土遺物	38
4. まとめ	39
写真図版	41
第4節 伊古田遺跡	45
1. 調査要項	45
2. 3区の調査 (1) III層検出の遺構と遺物	45
(2) IV層検出の遺構と遺物	47
(3) V層検出の遺構と遺物	50
(4) 遺構外出土遺物	56
4. まとめ	57
写真図版	59
第5節 伊古田B遺跡	68
1. 調査要項	68
2. 4A1区の調査 (1) III層検出の遺構と遺物	68
(2) IVb層検出の遺構と遺物	70
(3) IVc層検出の遺構と遺物	72
(4) 遺構外出土遺物	72
3. 4A2区の調査 (1) IIIa層検出の遺構と遺物	80
(2) IIIb層検出の遺構と遺物	84
(3) IVc層検出の遺構と遺物	84
(4) V層検出の遺構と遺物	91
(5) 遺構外出土遺物	92

4. 4 A 3 区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	98
5. 4 B 1 区の調査	(1) IV b 層検出の遺構と遺物	99
	(3) 遺構外出土遺物	99
6. 4 B 2 区の調査	(1) IV b 層検出の遺構と遺物	101
	(3) V層検出の遺構と遺物	103
7. 4 C 区の調査	(1) III層検出の遺構と遺物	108
	(3) IV c 層検出の遺構と遺物	108
8. 4 D 区の調査	(1) IV c 層検出の遺構と遺物	112
9. 自然科学分析		114
10. まとめ		124
写真図版		129
第6節 III屋敷遺跡		141
1. 調査要項		141
2. 1 区の調査		141
3. まとめ		141
写真図版		143
第7節 袋前遺跡		146
1. 調査要項		146
2. 5 区の調査		146
3. まとめ		147
第8節 下ノ内遺跡		148
1. 調査要項		148
2. 本節の構成		148
写真図版		215
第3章 総 括		257

引用参考文献  
報告書抄録

## 挿 図 目 次

### 第1章

- 第1図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡と周辺の遺跡 ..... 2  
 第2図 グリッド及び調査区配置図 ..... 3

### 第2章

#### 第1節

- 第1図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡  
 (南部) 基本層序位置図 ..... 6  
 第2図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡  
 (南部) 基本層序 ..... 7  
 第3図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡  
 (北東部) 基本層序位置及び基本層序 ..... 8

### 第2節

- 第1図 大野田遺跡1区東区V層遺構配置図 ..... 10  
 第2図 S I 1 竪穴遺構平面図・断面図 ..... 11  
 第3図 S D 2・19・20溝跡断面図 ..... 11  
 第4図 S D 2 溝跡出土遺物 ..... 11  
 第5図 小溝状遺構群断面図 ..... 12  
 第6図 深堀区出土遺物(1) ..... 12  
 第7図 深堀区出土遺物(2) ..... 13  
 第8図 大野田遺跡1区西区IV層遺構配置図 ..... 14  
 第9図 S K 28・34~37・40・41・45・49土坑平面図・断面図 ..... 16  
 第10図 S K 53・54・56・57・59土坑平面図・断面図 ..... 17

第11図	S K 60・71・80・81土坑
平面図・断面図	18
第12図	S D 32・61・67溝跡断面図
···	19
第13図	小溝状遺構群断面図
···	19
第14図	大野田遺跡1区西区V層遺構配置図
···	20
第15図	S K 21・29～31・39土坑平面図
断面図	22
第16図	S D 22～27・38・43・48・
76～79溝跡断面図	22
第17図	S D 24溝跡出土遺物
···	23
第18図	小溝状遺構群断面図
···	24
第19図	遺構外出土遺物
···	24
第3節	
第1図	元袋遺跡3A区V層遺構配置図
···	33
第2図	S K 1～3土坑平面図・断面図、
S R 4河川跡断面図	34
第3図	元袋遺跡3B区V層遺構配置図
···	35
第4図	S I 1竪穴住居跡平面図・断面図
···	36
第5図	S I 1竪穴住居跡出土遺物
···	36
第6図	S K 2土坑平面図・断面図
···	37
第7図	S K 2土坑出土遺物
···	37
第8図	S X 7性格不明遺構断面図
···	37
第9図	S D 3～6溝跡断面図
···	38
第10図	遺構外出土遺物
···	38
第4節	
第1図	伊古田遺跡3区III層遺構配置図
···	46
第2図	S K 3土坑平面図・断面図
···	47
第3図	S X 2性格不明遺構平面図・断面図
···	47
第4図	S D 1溝跡断面図
···	47
第5図	伊古田遺跡3区IV層遺構配置図
···	48
第6図	S I 4竪穴遺構平面図・断面図
···	49
第7図	S K 7土坑平面図・断面図
···	49
第8図	S D 5・6・18・21・22溝跡断面図
···	50
第9図	小溝状遺構群断面図
···	50
第10図	伊古田遺跡3区V層遺構配置図
···	51
第11図	S I 8竪穴住居跡平面図・断面図
···	52
第12図	S I 8竪穴住居跡掘り方平面図
···	53
第13図	S I 8竪穴住居跡出土遺物
···	54
第14図	S I 26竪穴住居跡平面図・断面図
···	55
第15図	S I 26竪穴住居跡出土遺物
···	55
第16図	S D 24・25溝跡断面図
···	56
第17図	遺構外出土遺物（1）
···	56
第18図	遺構外出土遺物（2）
···	57

第5節	
第1図	伊古田B遺跡4A1区III層遺構配置図
···	69
第2図	S K 7土坑平面図・断面図
···	70
第3図	S D 1～6溝跡断面図
···	70
第4図	S D 1・5溝跡出土遺物
···	70
第5図	伊古田B遺跡4A1区IVb層
遺構配置図①	71
第6図	伊古田B遺跡4A1区IVb層
遺構配置図②	73
第7図	小溝状遺構群断面図
···	74
第8図	IVb層水田跡断面図
···	74
第9図	伊古田B遺跡4A1区IVc層
遺構配置図	75
第10図	伊古田B遺跡4A1区V層
遺構配置図	76
第11図	S B 53掘立柱建物跡平面図
断面図	77
第12図	S K 48～52土坑平面図・断面図
···	78
第13図	S D 54・55溝跡断面図
···	78
第14図	遺構外出土遺物
···	79
第15図	S X 1土壙墓平面図・断面図
···	80
第16図	S X 1土壙墓出土遺物
···	80
第17図	伊古田B遺跡4A2区IIIa層
遺構配置図・プラント・オパール	
分析試料採取地点断面図	81・82
第18図	S K 4土坑平面図・断面図
···	83
第19図	S D 2・3・5・6溝跡断面図
···	83
第20図	伊古田B遺跡4A2区IIIb層
遺構配置図	85・86
第21図	伊古田B遺跡4A2区IVc層
遺構配置図	87・88
第22図	S I 74竪穴住居跡平面図・断面図
···	89
第23図	S I 74竪穴住居跡出土遺物（1）
···	90
第24図	S I 74竪穴住居跡出土遺物（2）
···	91
第25図	S I 74竪穴住居跡出土遺物（3）
···	92
第26図	S I 74竪穴住居跡出土遺物（4）
···	93
第27図	小溝状遺構群断面図
···	94
第28図	伊古田B遺跡4A2区V層
遺構配置図	95・96
第29図	遺構外出土遺物
···	97
第30図	伊古田B遺跡4A3区V層
遺構配置図	98
第31図	S K 1土坑平面図・断面図
···	98
第32図	伊古田B遺跡4B1区IVb層

遺構配置図	99
第33図 小溝状遺構群断面図	100
第34図 伊古田B遺跡4B1区V層 遺構配置図、遺構外出土遺物	100
第35図 伊古田B遺跡4B2区IVb層 遺構配置図	102
第36図 小溝状遺構群断面図	103
第37図 伊古田B遺跡4B2区IVc層 遺構配置図	104
第38図 水田跡平面図・断面図	105
第39図 S D 16・42溝跡断面図	105
第40図 小溝状遺構群断面図	106
第41図 伊古田B遺跡4B2区V層 遺構配置図、S D 48溝跡断面図	107
第42図 遺構外出土遺物	108
第43図 伊古田B遺跡4C区Ⅲ層遺構配置図、 S D 1溝跡断面図、プラント・オパール 分析試料採集地点断面図	109
第44図 伊古田B遺跡4C区IVb層遺構配置図、 小溝状遺構群断面図	110
第45図 伊古田B遺跡4C区IVc層 遺構配置図	111
第46図 小溝状遺構群断面図	112
第47図 遺構外出土遺物	112
第48図 伊古田B遺跡4D区IVc層 遺構配置図	113
第49図 小溝状遺構群断面図	114
第50図 伊古田B遺跡4A1区の プラント・オパール分析結果	116
第51図 伊古田B遺跡4A2区の プラント・オパール分析結果	118
第52図 伊古田B遺跡4B2区・4C区の プラント・オパール分析結果	121
第6節	
第1図 Ⅲ屋敷遺跡1区遺構配置図	142
第2図 Ⅲ屋敷遺跡1区基本層序模式図	142
第7節	
第1図 袋前遺跡5区IVb層遺構配置図、 S D 1・2溝跡断面図	146
第8節	
第1図 I層下面河川跡、溝跡出土遺物	149
第2図 I層出土遺物	150
第3図 II層出土遺物	150
第4図 IV層出土遺物(1)	150
第5図 IV層出土遺物(2)	151
第6図 V層S I 72竪穴住居跡 出土遺物(1)	151
第7図 V層S I 72竪穴住居跡出土遺物(2)	152
第8図 V層S I 76竪穴住居跡出土遺物(1)	152
第9図 V層S I 76竪穴住居跡出土遺物(2)	153
第10図 V層S I 76竪穴住居跡出土遺物(3)	154
第11図 V層S I 78竪穴住居跡出土遺物	154
第12図 V層S I 79竪穴住居跡出土遺物	155
第13図 V層S I 80竪穴住居跡出土遺物	155
第14図 V層S I 104竪穴住居跡 出土遺物(1)	156
第15図 V層S I 104竪穴住居跡 出土遺物(2)	157
第16図 V層S I 160竪穴住居跡出土遺物	157
第17図 V層土坑出土遺物	157
第18図 V層性格不明遺構出土遺物	158
第19図 V層溝跡出土遺物	158
第20図 V層出土遺物	158
第21図 VI層出土遺物(1)	159
第22図 VI層出土遺物(2)	160
第23図 VI層出土遺物(3)	161
第24図 VI層出土遺物(4)	162
第25図 VI層出土遺物(5)	163
第26図 VI層出土遺物(6)	164
第27図 VI層出土遺物(7)	165
第28図 VI層出土遺物(8)	166
第29図 VI層出土遺物(9)	167
第30図 VI層出土遺物(10)	168
第31図 VI層出土遺物(11)	169
第32図 VI層出土遺物(12)	170
第33図 VI層出土遺物(13)	171
第34図 VII層土坑出土遺物(1)	171
第35図 VII層土坑出土遺物(2)	172
第36図 VII層土坑出土遺物(3)	173
第37図 VII層S X 158埋設土器	173
第38図 VII層S X 159埋設土器	174
第39図 VII層出土遺物(1)	175
第40図 VII層出土遺物(2)	176
第41図 VIIb層出土遺物(1)	176
第42図 VIIb層出土遺物(2)	177
第43図 VIIb層出土遺物(3)	178
第44図 VIIb層出土遺物(4)	179

第45図	VIII層出土遺物（1）	179
第46図	VIII層出土遺物（2）	180
第47図	VIII層出土遺物（3）	181
第48図	VIII層出土遺物（4）	182
第49図	VIII層出土遺物（5）	183
第50図	VIII層出土遺物（6）	184
第51図	VIII層出土遺物（7）	185
第52図	VIII層出土遺物（8）	186
第53図	VIII層出土遺物（9）	187
第54図	VIII層出土遺物（10）	188
第55図	VIII層出土遺物（11）	189
第56図	VIII層出土遺物（12）	190
第57図	VIIIb層・VIIIc層出土遺物	190
第58図	IX層S I 163堅穴住居跡出土遺物	191
第59図	IX層S I 169堅穴住居跡 出土遺物（1）	192
第60図	IX層S I 169堅穴住居跡 出土遺物（2）	193
第61図	IX層S I 169堅穴住居跡 出土遺物（3）	194
第62図	IX層S I 170堅穴住居跡 出土遺物（1）	194
第63図	IX層S I 170堅穴住居跡 出土遺物（2）	195
第64図	IX層S I 170堅穴住居跡 出土遺物（3）	196
第65図	IX層S I 176堅穴住居跡 出土遺物（1）	196
第66図	IX層S I 176堅穴住居跡	
	出土遺物（2）	197
第67図	IX層S I 176堅穴住居跡 出土遺物（3）	198
第68図	IX層S I 179堅穴住居跡出土遺物	199
第69図	IX層S I 180堅穴住居跡 出土遺物（1）	199
第70図	IX層S I 180堅穴住居跡 出土遺物（2）	200
第71図	IX層S I 180堅穴住居跡 出土遺物（3）	201
第72図	IX層S I 180堅穴住居跡 出土遺物（4）	202
第73図	IX層S I 194堅穴住居跡出土遺物	202
第74図	IX層S I 195堅穴住居跡埋設土器	203
第75図	IX層土坑出土遺物（1）	203
第76図	IX層土坑出土遺物（2）	204
第77図	IX層土坑出土遺物（3）	205
第78図	IX層S X 161埋設土器	205
第79図	IX層S X 173埋設土器	206
第80図	IX層S X 174埋設土器	207
第81図	IX層性格不明遺構出土遺物	208
第82図	X層出土遺物	209
第83図	I～V層出土縄文時代の遺物（1）	209
第84図	I～V層出土縄文時代の遺物（2）	210
第85図	I～V層出土縄文時代の遺物（3）	211
第86図	I～V層出土縄文時代の遺物（4）	212
第87図	I～V層出土縄文時代の遺物（5）	213
第88図	I～V層、古代の遺構出土 縄文時代の遺物	214

## 表 目 次

第1章	
第2節	
第1表 周辺の遺跡一覧表	2
第3節	
第2表 富沢駅周辺 調査区一覧	5
第3表 富沢駅周辺 遺跡別調査次数	5
第2章	
第2節	
第1表 遺構一覧表（1）	25
第2表 遺構一覧表（2）	26

第3節	
第1表 遺構一覧表	39
第4節	
第1表 遺構一覧表	58
第5節	
第1表 仙台市伊古田B遺跡4A1区の プラント・オパール分析結果	117
第2表 仙台市伊古田B遺跡4A2区の プラント・オパール分析結果	117
第3表 仙台市伊古田B遺跡4B2区・4C区の	

プラント・オパール分析結果	120
第4表 遺構一覧表（1）	125
第5表 遺構一覧表（2）	126
第6表 遺構一覧表（3）	127

第7表 遺構一覧表（4）	128
第7節	
第1表 遺構一覧表	147

## 写 真 図 版 目 次

### 第2章

#### 第2節

写真図版1 大野田遺跡（1）	29
写真図版2 大野田遺跡（2）	30
写真図版3 大野田遺跡（3）	31
写真図版4 大野田遺跡出土遺物	32

#### 第3節

写真図版1 元袋遺跡（1）	43
写真図版2 元袋遺跡（2）	44

#### 第4節

写真図版1 伊古田遺跡（1）	61
写真図版2 伊古田遺跡（2）	62
写真図版3 伊古田遺跡（3）	63
写真図版4 伊古田遺跡（4）	64
写真図版5 伊古田遺跡（5）	65
写真図版6 伊古田遺跡（6）	66
写真図版7 伊古田遺跡3区出土遺物	67

#### 第5節

写真図版1 伊古田B遺跡（1）	131
写真図版2 伊古田B遺跡（2）	132
写真図版3 伊古田B遺跡（3）	133
写真図版4 伊古田B遺跡（4）	134
写真図版5 伊古田B遺跡（5）	135
写真図版6 伊古田B遺跡（6）	136
写真図版7 伊古田B遺跡（7）	137
写真図版8 伊古田B遺跡出土遺物（1）	138
写真図版9 伊古田B遺跡出土遺物（2）	139
写真図版10 伊古田B遺跡出土遺物（3）	140

#### 第6節

写真図版1 皿屋敷遺跡（1）	145
----------------	-----

#### 第8節

写真図版1 下ノ内遺跡出土遺物（1）	217
写真図版2 下ノ内遺跡出土遺物（2）	218
写真図版3 下ノ内遺跡出土遺物（3）	219
写真図版4 下ノ内遺跡出土遺物（4）	220
写真図版5 下ノ内遺跡出土遺物（5）	221

写真図版6 下ノ内遺跡出土遺物（6）	222
写真図版7 下ノ内遺跡出土遺物（7）	223
写真図版8 下ノ内遺跡出土遺物（8）	224
写真図版9 下ノ内遺跡出土遺物（9）	225
写真図版10 下ノ内遺跡出土遺物（10）	226
写真図版11 下ノ内遺跡出土遺物（11）	227
写真図版12 下ノ内遺跡出土遺物（12）	228
写真図版13 下ノ内遺跡出土遺物（13）	229
写真図版14 下ノ内遺跡出土遺物（14）	230
写真図版15 下ノ内遺跡出土遺物（15）	231
写真図版16 下ノ内遺跡出土遺物（16）	232
写真図版17 下ノ内遺跡出土遺物（17）	233
写真図版18 下ノ内遺跡出土遺物（18）	234
写真図版19 下ノ内遺跡出土遺物（19）	235
写真図版20 下ノ内遺跡出土遺物（20）	236
写真図版21 下ノ内遺跡出土遺物（21）	237
写真図版22 下ノ内遺跡出土遺物（22）	238
写真図版23 下ノ内遺跡出土遺物（23）	239
写真図版24 下ノ内遺跡出土遺物（24）	240
写真図版25 下ノ内遺跡出土遺物（25）	241
写真図版26 下ノ内遺跡出土遺物（26）	242
写真図版27 下ノ内遺跡出土遺物（27）	243
写真図版28 下ノ内遺跡出土遺物（28）	244
写真図版29 下ノ内遺跡出土遺物（29）	245
写真図版30 下ノ内遺跡出土遺物（30）	246
写真図版31 下ノ内遺跡出土遺物（31）	247
写真図版32 下ノ内遺跡出土遺物（32）	248
写真図版33 下ノ内遺跡出土遺物（33）	249
写真図版34 下ノ内遺跡出土遺物（34）	250
写真図版35 下ノ内遺跡出土遺物（35）	251
写真図版36 下ノ内遺跡出土遺物（36）	252
写真図版37 下ノ内遺跡出土遺物（37）	253
写真図版38 下ノ内遺跡出土遺物（38）	254
写真図版39 下ノ内遺跡出土遺物（39）	255
写真図版40 下ノ内遺跡出土遺物（40）	256



# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査に至る経緯

仙台市南部地域でも都市化の進展に伴って、副都心構想をはじめとする都市環境の整備事業が進展しつつある。大野田地区周辺は高速鉄道南北線の開業以降、道路網の整備や宅地化が急速に進む地域であった。このような中、土地区画整理事業を具体化する協議が始まり、平成5年10月13日付で「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業」(以下、本報告書では「本事業」とする。)に係わる埋蔵文化財の調査依頼が都市整備局より提出された。本事業は同年12月14日付で都市計画決定がなされた。調査依頼に対する回答は、平成6年2月8日付で本事業地内の都市計画道路及び区画道路の部分等を対象に発掘調査を実施することを回答した。

本事業予定地は市内でも特に多くの遺跡が集中して分布する地域で、大野田遺跡、元袋遺跡、六反田遺跡、伊古田遺跡、春日社古墳、王ノ壇古墳、鳥居塚古墳、大野田古墳群、下ノ内遺跡、王ノ壇遺跡、皿屋敷遺跡、袋前遺跡の12遺跡が知られており、遺跡の時代も縄文時代から近世まで広範囲に及んでいた。

平成6年9月から平成7年11月までの期間、本事業地内で試掘調査を実施し、六反田遺跡の範囲を北東側へ拡大し、伊古田遺跡の南東に伊古田B遺跡を新規に登録した。春日社古墳は、大野田古墳群では王ノ壇古墳と並んで、墳丘の残存する古墳であったが、都市計画道路「郡山・折立線」のルート変更により、路線敷きに入り、試掘調査の結果を受けて、本調査後墳丘は消滅することとなった。本発掘調査は試掘調査と並行して平成7年5月から実施した。

また、袋前遺跡の平成13年度の2A・B区の調査以降、古代の大型掘立柱建物跡や大溝が発見され、更に平成16年度の大野田古墳群9A区、平成19年度の六反田遺跡4B区で、大型掘立柱建物跡が検出され、大溝が方形に巡る範囲内に大型掘立柱建物跡が規則的に配置された状況が明らかになった。さらに平成21年度に国庫補助事業による遺構確認調査が実施され、多賀城以前の陸奥国府である郡山遺跡に関連する重要な古代官衙の遺構群であることが明らかになったとして、同年7月に大野田官衙遺跡として、新規に登録し、本事業地内の遺跡数は14遺跡となった。

## 第2節 遺跡周辺の環境

### 1. 遺跡の位置と地理的環境

伊古田遺跡、大野田古墳群、下ノ内遺跡を含む大野田地区は、仙台市の南部、名取川下流の北岸部にあたる。河口から約8.8kmに位置し、太白区富沢四丁目、大野田字元袋・袋前・イコタ・千刈田・塚田・宮・宮脇・王ノ檀・五反田・六反田・竹松・皿屋敷に所在する。これらの地点はJR長町駅の南西～南南西約1～1.7kmにあたり、遺跡は東西約800m・南北約450mの範囲に分布する。

仙台市域の地形は、西部の丘陵地帯と東部の海岸平野に二分され、海岸平野の中で大野田地区を含む地域は郡山低地と呼称されている。南縁を名取川、北縁を広瀬川に囲まれた沖積地で、北西縁は青葉山丘陵で囲まれているほか、太白山に源を発する笊川などの小河川が低地内を曲流している。このため、これら河川の影響を強く受け、沖積地の中でも自然堤防・旧河道・後背湿地が複雑に入り組んだ地形となっている。

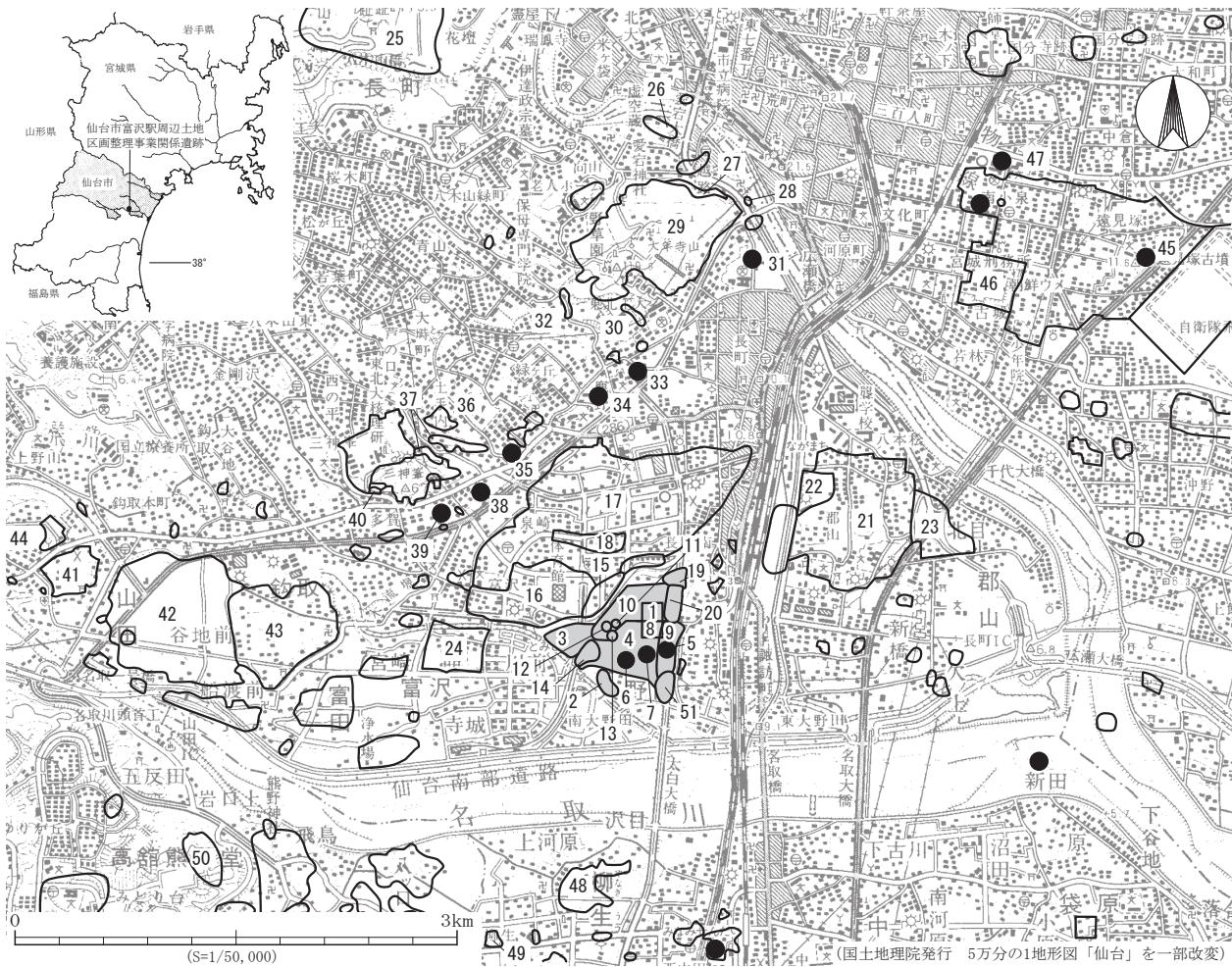
標高は約12mで、遺跡の構成土壤はシルト・粘土質シルト・砂質シルトが主体をしめる。調査以前の土地利用は水田畠地もしくは宅地である。

### 2. 遺跡周辺の歴史的環境

大野田地区を中心とした名取川下流域は仙台市内でも数多くの遺跡が分布する地域であり、近年の土地開発に伴い発掘調査例も増加している。

大野田地区の周辺には、先史時代では後期旧石器時代の湿地林や焚き火跡のほか、弥生時代中期の水田跡が発見された富沢遺跡、縄文時代早期の竪穴住居跡や縄文時代後期・弥生時代後期の墓域が発見された下ノ内浦遺跡、縄文時代中期～後期の遺構・遺物が多数発見された伊古田遺跡・六反田遺跡・下ノ内遺跡がある。古墳時代では大野田古墳群で春日社古墳や王ノ壇古墳、前方後円墳の鳥居塚古墳をはじめとし、40基以上の円墳が確認されている。また、

## 第2節 遺跡周辺の歴史的環境



※ ●は古墳

第1図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡と周辺の遺跡

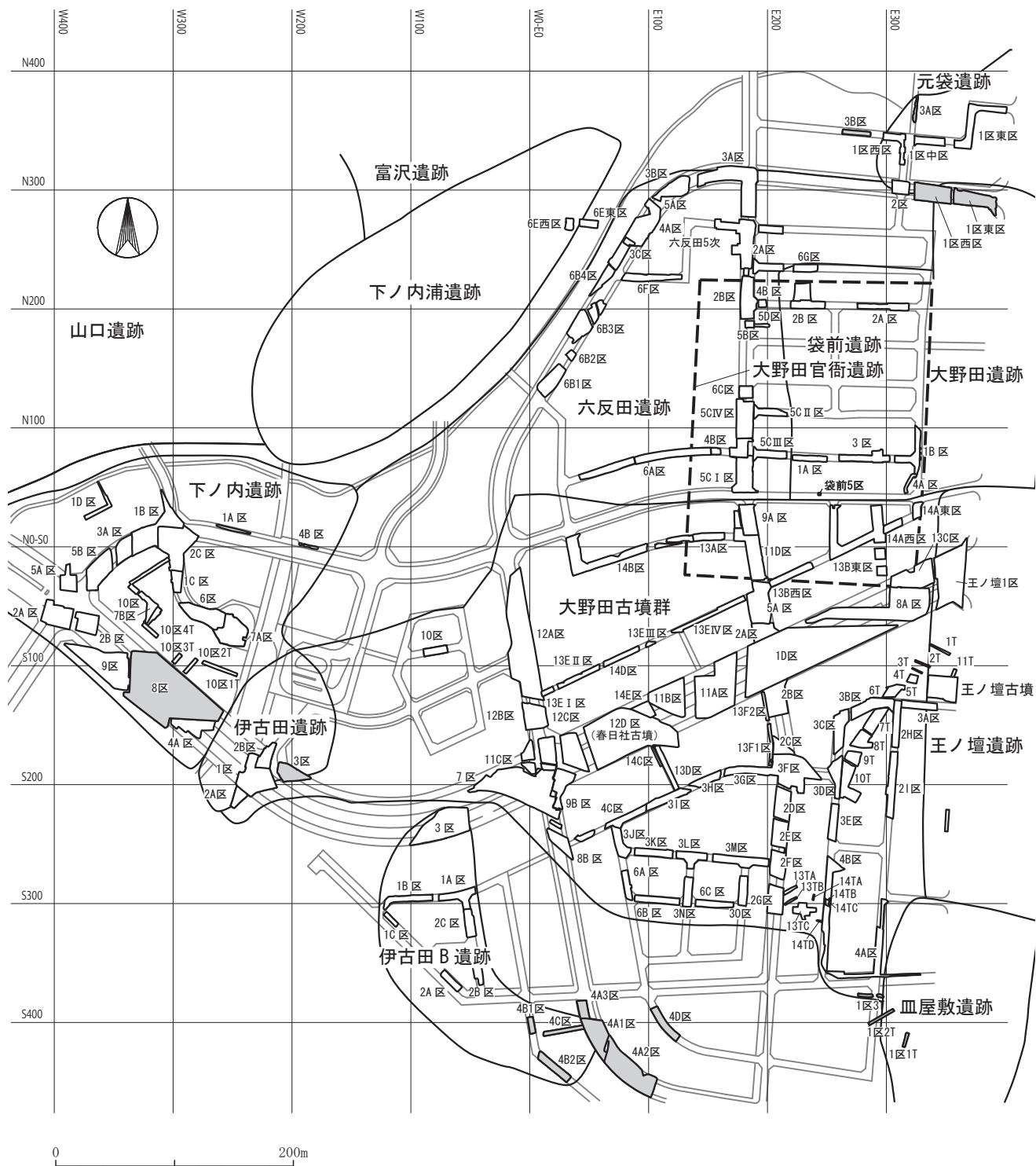
第1表 周辺の遺跡一覧表

No	遺跡名	立地	種別	時代
1	袋前遺跡	自然堤防	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
2	伊古田B遺跡	自然堤防	畝跡他	古墳・奈良～平安
3	下ノ内遺跡	自然堤防	集落跡・墓跡	縄文(中～晩)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
4	大野田古墳群	古墳・集落跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世	
5	王ノ壇古墳	自然堤防	古墳	古墳
6	春日社古墳	自然堤防	古墳	古墳
7	鳥居塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
8	大野田官衙遺跡	官衙跡	古墳～奈良	
9	王ノ壇遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	縄文(後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
10	六反田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(中～晩)・弥生・古墳・奈良・平安・近世
11	五反田古墳	自然堤防	古墳	古墳
12	五反田石棺墓	自然堤防	墓跡	古墳
13	五反田木棺墓	自然堤防	墓跡	古墳
14	伊古田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文～平安
15	下ノ内浦遺跡	自然堤防	集落跡・墓跡・水田跡	縄文(早～前・後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
16	山口遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡・水田跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世
17	富沢遺跡	後背湿地	集落跡・水田跡・散布地	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
18	泉崎浦遺跡	自然堤防・後背湿地	水田跡・墓地	縄文(後)・弥生・古墳・平安
19	元袋遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	奈良～平安・中世・近世
20	大野田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(後)・弥生(中)・古墳・奈良・平安・中世・近世
21	郡山遺跡	自然堤防	官衙関連・寺院跡・集落跡	縄文(後)・弥生(中)・古墳・奈良・平安・中世・近世
22	西台畠遺跡	自然堤防	集落跡	縄文・弥生(中)・古墳・奈良・平安・中世・近世
23	北目城跡	自然堤防	城館跡・集落跡・水田跡	縄文(後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世

No	遺跡名	立地	種別	時代
24	富沢館跡	自然堤防	城館跡	中世
25	仙台城跡	丘陵	城館跡	近世
26	愛宕山横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良
27	大年寺山横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳
28	宗禪寺横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良
29	茂ヶ崎城跡	丘陵	城館跡	中世
30	茂ヶ崎横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良
31	兜塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
32	二ッ沢横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良
33	一塚古墳	丘陵麓	古墳	古墳
34	二塚古墳	丘陵麓	古墳	古墳
35	砂押古墳	丘陵	古墳	古墳
36	土手内遺跡	丘陵	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
37	土手内横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良
38	金洗沢古墳	丘陵麓	古墳	古墳
39	裏町古墳	丘陵麓	古墳	古墳
40	富沢窯跡	丘陵斜面	窯跡	古墳・奈良・平安
41	山上ノ台遺跡	丘陵	集落跡	旧石器・縄文(早～後)・奈良・平安・中世・近世
42	山田条里遺跡	後背湿地	屋敷跡他	縄文・平安・近世・近代
43	上野遺跡	丘陵	集落跡	縄文・奈良・平安・近世
44	北前遺跡	丘陵	集落跡	縄文・平安・近世
45	遠見塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
46	若林城跡	自然堤防	城館跡・古墳・集落跡	古墳・平安・中世・近世
47	法領塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
48	柳生台畠遺跡	自然堤防	散布地	奈良・平安・中世
49	松木遺跡	自然堤防	集落跡	平安・中世・近世
50	熊野堂横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良
51	皿屋敷遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡・屋敷跡・水田跡・散布地	縄文(後)・奈良・平安・中世・近世

伊古田遺跡、下ノ内遺跡、袋前遺跡では古墳時代前期～中期の集落跡が確認されている。古代では本事業に伴う発掘調査により大野田古墳群、袋前遺跡、六反田遺跡の3遺跡にまたがる大野田官衙遺跡が発見されている。中世～近世では屋敷跡や奥大道と推定される道路跡が検出された王ノ壇遺跡、近世では堀跡や屋敷跡が検出された元袋遺跡がある。

このように、本事業地内だけをみても各時代の遺構・遺物が多数確認されており、発掘調査の結果、大野田地区を含む周辺地域で先史時代から近世にいたるまで連継と続いている人々の活動の痕跡が明らかになりつつある。なお、大野田地区及び周辺地域の歴史的環境の詳細は『下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか -仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書II-』(仙台市教委 2011b)を参照されたい。



第2図 グリッド及び調査区配置図

## 第3節 調査経過

本事業に伴う本調査は、平成7年5月、大野田古墳群1A区から着手した。平成10年度までに調査を終了した大野田古墳群1～4区(2・3区で鳥居塚古墳第2次調査を実施)、王ノ壇遺跡1区、六反田遺跡1区、伊古田B遺跡1区、袋前遺跡1区のうち、平成10年度に着手した伊古田B遺跡1区、袋前遺跡1区を除く調査成果は平成12年度に「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書I(第243集)」として報告した。平成11年度から下ノ内遺跡1～5区、12年度から大野田古墳群5～9区、13年度から袋前遺跡2・3区、14年度から伊古田B遺跡2・3区の調査を16年度までに実施し、15年度には王ノ壇古墳の調査を行った。王ノ壇古墳は公園として整備されることから一部を除いて遺構の確認調査にとどめ、掘り込み調査は実施していない。以上の平成11～16年度の調査成果に伊古田B遺跡1区、袋前遺跡1区と平成19年度に主体部から革盾が発見された春日社古墳第2次調査、平成21年度までに明らかとなった大野田官衙遺跡の成果を加えて、平成23年度に「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書II(第390集)」として報告した。この革盾は、保存処理され、一般に公開されている。平成17年度から元袋遺跡1・2区、六反田遺跡2～4区、伊古田遺跡1・2区、大野田古墳群10～12区、下ノ内遺跡6～8区、袋前遺跡5区の調査を行った。この大野田古墳群12D区の調査に春日社古墳2次調査が含まれており、この成果は12D区全体の成果から切り離して速報的に報告書IIで報告した。これらの平成17年度～19年度の調査成果のうち、元袋遺跡1・2区、六反田遺跡2～4区、大野田古墳群11・12区の成果を除いた調査成果をまとめて「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書III(第413集)」として報告した。平成20～21年度には大野田遺跡1区、元袋遺跡3区、六反田遺跡5・6区、伊古田遺跡3区、伊古田B遺跡4区、大野田古墳群13・14区、下ノ内遺跡9・10区、皿屋敷遺跡1区の調査を行った。本書では、以上の平成20～21年度の調査成果のうち、大野田遺跡1区、元袋遺跡3区、伊古田遺跡3区、伊古田B遺跡4区、皿屋敷遺跡1区の調査成果と、平成19年度に調査した袋前遺跡5区の調査成果、平成19・20年度に調査した下ノ内遺跡8区の出土遺物(基本層I層下面～IX層上面検出遺構出土石器およびVI～IX層出土石器を除く)を加えて「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書IV(第414集)」として報告する。今後、平成22～24年度の調査成果をまとめて報告することを予定している。

## 第4節 報告書の作成

### 報告書の作成

本報告書は「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書」の第4冊目となり、第2表、第3表に示した、網掛けの部分を対象としている。各発掘調査の要項は、第2章の各節に記述している。当初、報告書の作成は平成22・23年度の予定であったが、平成23年3月11日の東日本大震災により、滞った22年度の業務を平成23年度に実施し、報告書の刊行は24年度とした。報告書の作成体制は以下のとおりである。

#### ・平成22年度

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

専門員 結城慎一 主査 主濱光朗 主任 工藤信一郎 渡部 紀  
主事 鈴木 隆 水野一夫 庄子裕美

整理組織：国際文化財株式会社

主任調査員 秋本雅彦 土岐耕司 調査員 矢島博文 調査補助員 稲垣森太 大橋忠明

整理期間：平成22年10月8日～平成23年3月31日

#### ・平成23年度

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

主査 主濱光朗 主任 工藤信一郎 主事 鈴木 隆 水野一夫 庄子裕美

整理組織：国際文化財株式会社

主任調査員 工藤 司 調査員 鵜久森 彬

整理期間：平成23年9月22日～平成24年3月30日

・平成24年度

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

主査 主濱光朗 荒井 格

整理組織：国際文化財株式会社

主任調査員 工藤 司 調査員 土橋尚起 調査補助員 渡部裕司

整理期間：平成24年6月21日～平成25年3月29日

第2表 富沢駅周辺 調査区一覧

調査年度	大野田 3次調査	元袋 4次調査	六反田 5次調査	伊古田 3次調査	春日社古墳 2次調査	王ノ壇古墳 2次調査	鳥居塚古墳 2次調査	大野田 古墳群 5次調査	下ノ内 6次調査	王ノ壇 2次調査	皿屋敷 2次調査	袋前 1次調査	伊古田B 1次調査
H 7								1					
H 8							2次-1	2		1			
H 9			1				2次-2	3		道路遺構			
H 10								4				1	1
H 11									1				
H 12								5	2				
H 13								6	3			2	
H 14								7	4				2
H 15						2次		8	5			3	
H 16								9				4	3
H 17		1	2	1				10	6				
H 18			3	2				11	7				
H 19		2	4		2次			12・11D	8			5	
H 20	1	3	5					13	9		1		
H 21			6A・B・E～G	3				14	10				4
H 22		4	6B・6C・6D・7	4				15				6	5
H 23			7F・2・8D	4A・5				16					
H 24			8B・8C・9	6				16A・1・17					

※網掛け部分が本報告書掲載調査区。大野田官衙遺跡に関係する調査は、六反田遺跡 2B・5C・6A 区、大野田古墳群 5A・9A・13B・13C・14B 区、袋前遺跡 2A・2B・3 区で、その他の国庫補助事業による調査がある。それらの成果を合わせて報告書II(第390集)で報告した。

第3表 富沢駅周辺 遺跡別調査次数

調査 次数	大野田	元袋	六反田	伊古田	春日社古墳	王ノ壇古墳	鳥居塚古墳	大野田 古墳群	下ノ内	王ノ壇	皿屋敷	袋前	伊古田B
1次	川柳線・整理中	共同住宅・103集	共同住宅・34集	共同住宅・83集	市道・108集	川柳線・249集	市道・108集	市道・108集	地下鉄・136集	川柳線・249集	川柳線・249集	当区画整理関係	当区画整理関係
2次	消防署・252集	共同住宅・188集	地下鉄・199集	地下鉄・193集	当区画整理関係	当区画整理関係	当区画整理関係	コミセン・41集	共同住宅・未報告	当区画整理関係	当区画整理関係	個人住宅・301集	共同住宅・326集
3次	当区画整理関係	川柳線・272集	給食室・72集	当区画整理関係			個人住宅・392集	共同住宅・83集	共同住宅・未報告	共同住宅・238集			
4次		当区画整理関係	共同住宅・102集				個人住宅・392集	共同住宅・138集	共同住宅・未報告	共同住宅・238集			
5次		店舗付住宅・301集	当区画整理関係				個人住宅・392集	当区画整理関係	共同住宅・163集	共同住宅・268集			
6次		共同住宅・341集	個人住宅・392集					個人住宅・266集	当区画整理関係				
7次			個人住宅・392集					G S・287集	共同住宅・266集				
8次			個人住宅・392集					はぎの苑・290集	共同住宅・320集				
9次			校舎・398集					共同住宅・291集					
10次								個人住宅・301集					
11次								個人住宅・301集					
12次								個人住宅・326集					
13次								共同住宅・319集					
14次								保育所・339集					
15次								国庫・347集					
16次								保育所・372集					
17次								たんぽぽ・355集					
18次								複合施設・364集					
19次								個人住宅・371集					

※第2・3表のアミ掛け表示は、本報告書で報告があることを示す。

## 第2章 本調査報告

### 第1節 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の基本層序

本報告書における富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の調査は、6遺跡 16調査区に及ぶ。これらの調査区は、いずれも近・現代の土地造成や畑・水田耕作によって少なからず削平されているものの、各調査区で遺存状況の良好な地点の土層を基本層序とし、検討した。以下、各層の特徴について記載する。なお、本事業地内における各遺跡の位置関係から、便宜的に伊古田遺跡、伊古田B遺跡、皿屋敷遺跡を南部、大野田遺跡、元袋遺跡、袋前遺跡を北東部と記載することもある。

I層：現代の畑・水田耕作土で、地点により最大4層に細分される。Ia層は締りのない暗褐色・灰黄褐色等の褐色系の砂質・粘土質を含むシルトで、層厚は3～56cmである。大野田遺跡1A・1B区においては旧水田耕作土である。

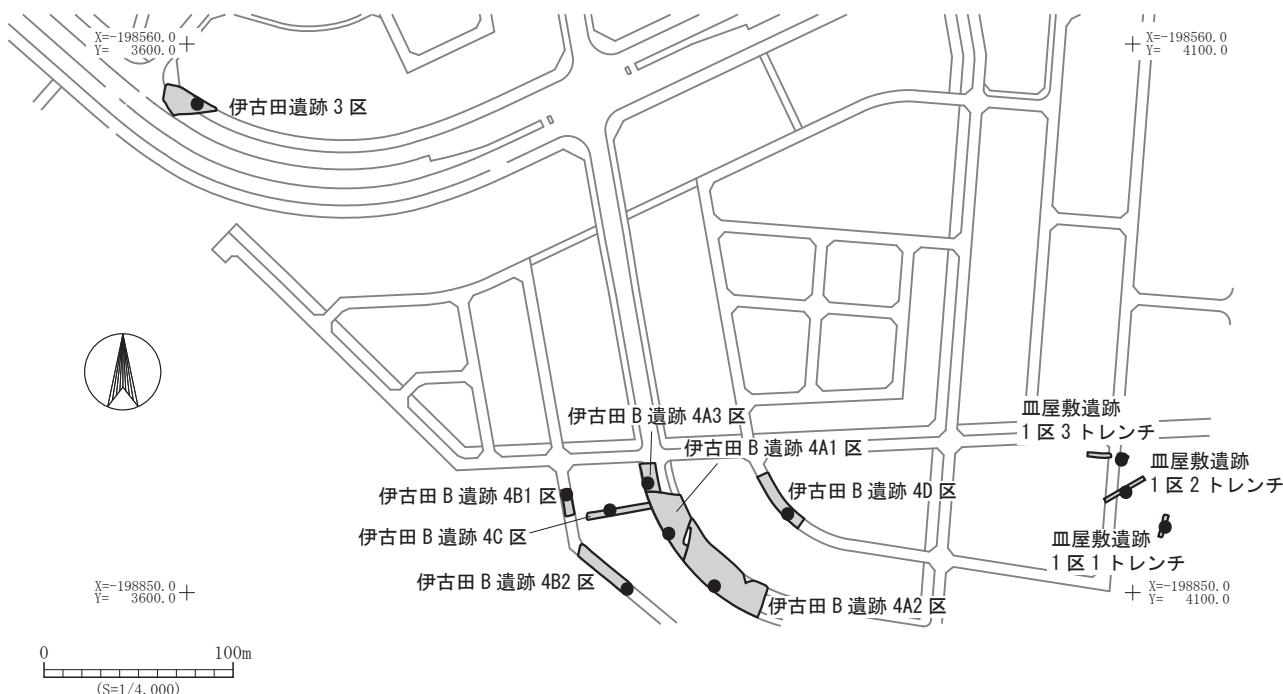
Ib層は締りのない黒褐色・黄褐色等の褐色系のシルトないし粘土質シルトで、Ia層とは色調のわずかな違いで区別される。層厚4～40cmの旧水田耕作土で、大野田遺跡1A・1B区においては水田下層の床土である。

Ic層は部分的に酸化鉄を含む黄灰色もしくはにぶい黄褐色のシルトないし粘土質シルトである。伊古田B遺跡4A1・4A2区でのみ確認され、Ib層とは含有物の違いで区別される。層厚は3～26cmである。

Id層は伊古田B遺跡4A1区でのみ確認された層全体に酸化鉄を含む黄灰色粘土質シルトで、Ic層とは含有物の疎密で区別される。層厚は3～16cmである。

II層：元袋遺跡3A区を除き、酸化鉄を含む黒ないし暗褐色・黄褐色等の褐色系シルトないし粘土質シルトで、層厚は3～25cmである。

元袋遺跡3A区は他の調査区と様相が異なり、4層に細分される。Ia層は炭化物や焼土粒を含む褐灰色粘土質シルトで層厚は3～27cm、Ib層はにぶい黄褐色粘土質シルトで層厚は17～30cm、Ic層は小礫を含む褐色粘土質シルトで層厚は23～43cm、Id層はにぶい黄褐色細砂で層厚は3～21cmである。このIIa～IId層は近世の整地層としてさらに細分される可能性が考えられるが、調査段階では判然としなかったことからI層の下位に確認された層として便宜的に層名を付している。



第1図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡（南部）基本層序位置図

III層：古代以降の遺構検出面である。灰黄褐色・にぶい黄褐色・褐色等、褐色系のシルトないし粘土質シルトで、層厚は3～53cmである。南部の各調査区は、灰白色火山灰、酸化鉄の含有量の違いで2層に細分される。III a層は灰白色火山灰を含む層で、層厚は2～25cm、III b層は灰白色火山灰を含まずIII a層に比べて酸化鉄の含有量が多く、層厚は6～31cmである。

IV層：南部・北東部共に土質は粘土もしくは粘土質シルトで共通するが、色調は、南部が黒褐色・暗褐色・灰黄褐色・暗オリーブ褐色等の褐色系のほか褐灰色・灰黄色と調査区により様々であり、北東部は黒褐色ないし暗褐色である。層厚は5～60cmで、伊古田B遺跡の各調査区は3層、袋前遺跡は2層に細分される。IV a層はマンガン粒を含む褐灰色・灰黄色・にぶい黄褐色ないし暗褐色の粘土もしくは粘土質シルトで層厚は8～41cm、IV b層は黒褐色・暗褐色・灰黄褐色・暗オリーブ褐色等の褐色系の粘土もしくは粘土質シルトで層厚は3～36cm、伊古田B遺跡では酸化鉄・マンガンを含む。また、同遺跡4A1区では水田耕作土で、下面是凹凸が顕著である。IV c層は伊古田B遺跡のみで確認され、黒色ないし黒褐色シルトないし粘土質シルトでV層を粒状に含む。層厚は2～42cmである。

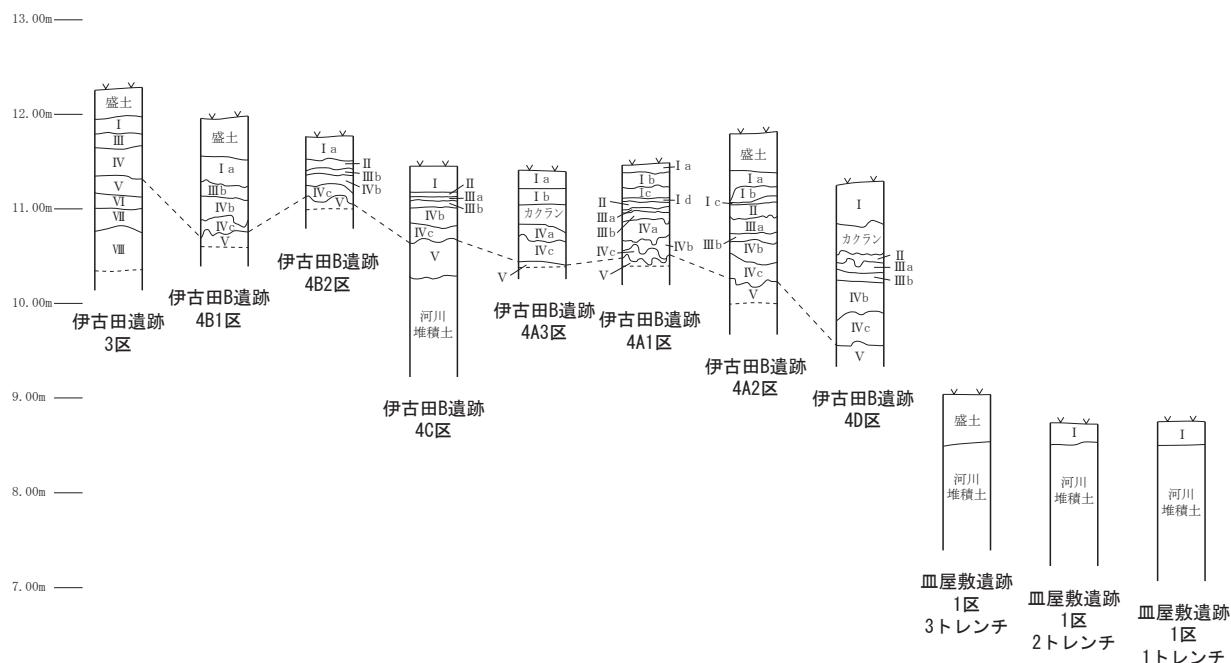
V層：古墳時代～古代の遺構検出面である。南部ではにぶい黄褐色ないし褐色の砂質もしくは粘土質シルト、北東部ではにぶい黄褐色・暗灰黄色の粘土ないし粘土質シルトで、層厚は6～47cmである。

VI層：大野田遺跡1区東区、元袋遺跡3A・3B区、伊古田遺跡3区で確認された。褐灰色・暗オリーブ褐色ないし褐色の粘土質シルトで、層厚は8～28cmである。

VII層：大野田遺跡1区東区、元袋遺跡3B区、伊古田遺跡3区で確認された。黄褐色もしくはオリーブ褐色の粘土質シルトである。層厚は25～60cmである。大野田遺跡1区東区では3層に細分され、VII a層は灰オリーブ褐色シルトで層厚は25～60cm、VII b層は灰オリーブ黒色粘土質シルトで層厚は2～12cm、VII c層暗灰黄色粘土質シルトで層厚は5～28cmである。

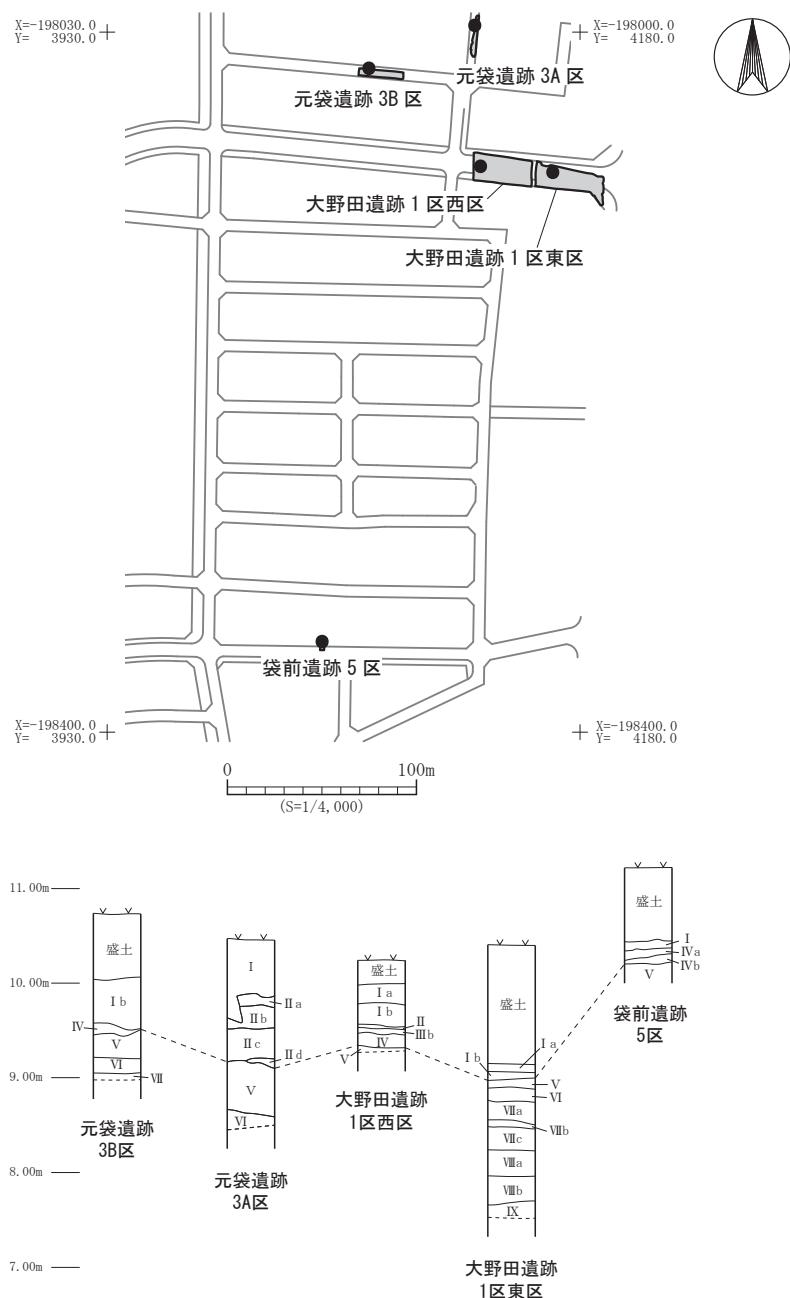
VIII層：大野田遺跡1区東区で確認された。色調の違いで2層に細分される。VIII a層は暗オリーブ灰色粘土で層厚は50～56cm、VIII b層は緑黒色粘土で層厚は16～27cmである。いずれもグライ化が顕著である。

IX層：大野田遺跡1区東区で確認された。暗緑灰色砂でグライ化が顕著である。層上部のみの確認で、層厚は不明である。



第2図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡（南部）基本層序

## 第1節 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の基本層序



第3図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡（北東部）基本層序位置および基本層序

## 第2節 大野田遺跡

### 1. 調査要項

- (1) 遺跡名：大野田遺跡（宮城県遺跡登録番号 01094）
- (2) 所在地：仙台市太白区大野田字袋前
- (3) 調査面積：約 839m<sup>2</sup>（1区東区・1区西区）
- (4) 調査主体：仙台市教育委員会
- (5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員：小泉博明・廣瀬真理子（派遣調査員：馬場由行・日紫喜勝重／国際文化財）
- (7) 調査期間
  - （野外調査）：平成 20 年 10 月 21 日～平成 21 年 3 月 23 日
  - （整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。
    - ・平成 22 年度：平成 22 年 10 月 8 日～平成 23 年 3 月 31 日
    - ・平成 23 年度：平成 23 年 9 月 22 日～平成 24 年 3 月 30 日
    - ・平成 24 年度：平成 24 年 6 月 21 日～平成 25 年 3 月 29 日

### 2. 1区東区の調査

1区東区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴遺構 1 基、溝跡 1 条、小溝状遺構群 2 群、ピット 24 基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。また、V層上面検出遺構の調査終了後、調査区内の 2箇所に深掘区を設定し、下層の状況を確認するための調査を行った。

#### （1）V層検出の遺構と遺物（第1図）

##### 1) 竪穴遺構

###### SI1 竪穴遺構（第2図、図版1）

[位置] E370・N290 グリッドに位置する。

[重複関係] 小溝状遺構 I -1・II -1、P8 と重複関係にあり、小溝状遺構より新しく、P8 より古い。

[規模・形態] 東西 3.27m、南北 2.99m である。平面形は北壁東側が 20cm 程張り出す不整隅丸方形である。

[主軸方位] 東壁基準で N3°-W である。

[堆積土] 6 層に分層した。基本層V層を粒状に含むオリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。

[壁面] 急角度で立ち上がり、壁高は西壁で床面から 55cm である。

[底面] 掘り方底面の基本層V層を直接底面としている。

[施設] 南東隅で検出した SK1 は、貯蔵穴状の施設と考えられる。平面形は一辺約 80cm の隅丸方形、断面形は逆台形で、深さ 29cm である。底面は中央がわずかに窪み、壁面は緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] 堆積土から、縄文土器、土師器、須恵器の小破片が出土している。

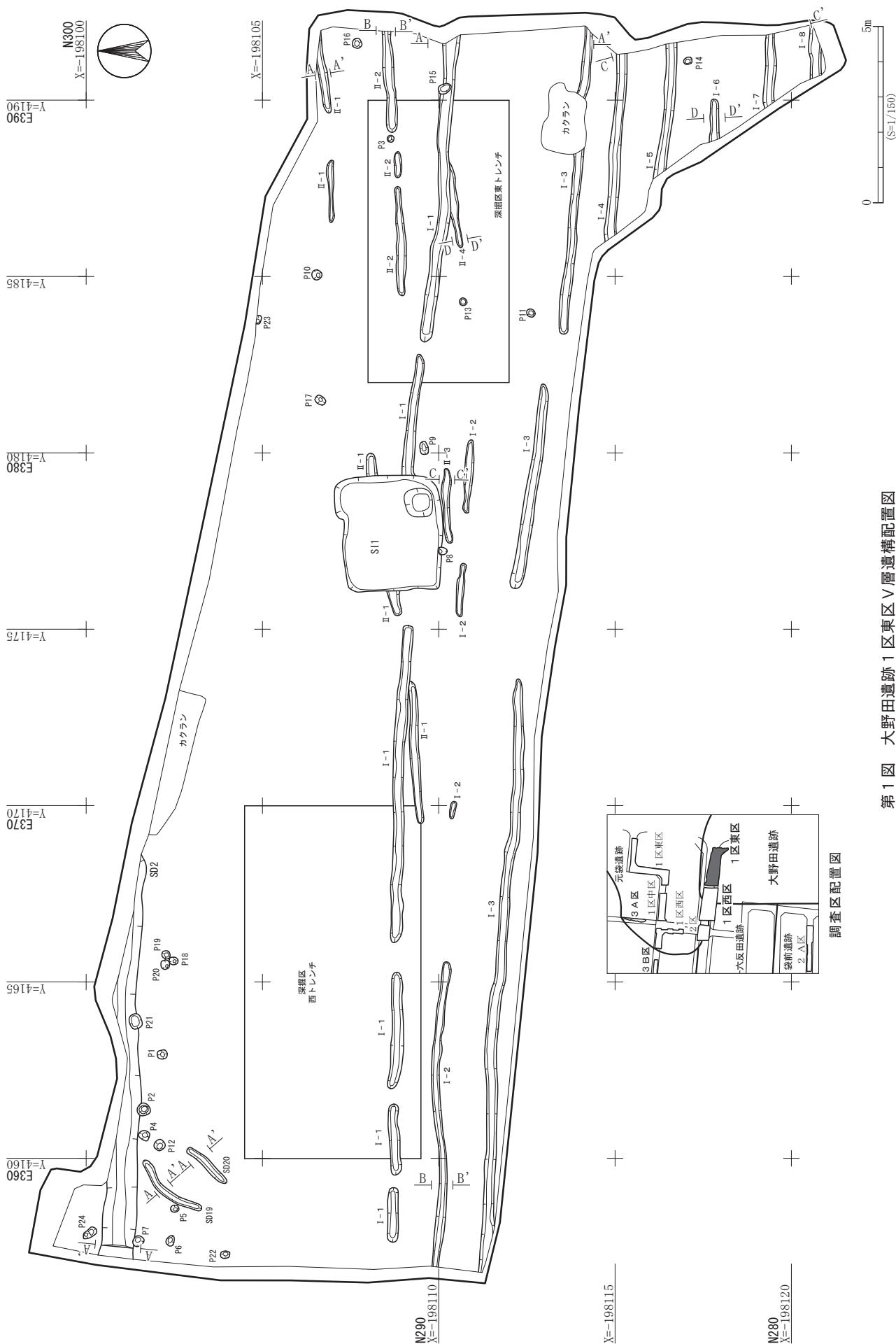
##### 2) 溝跡

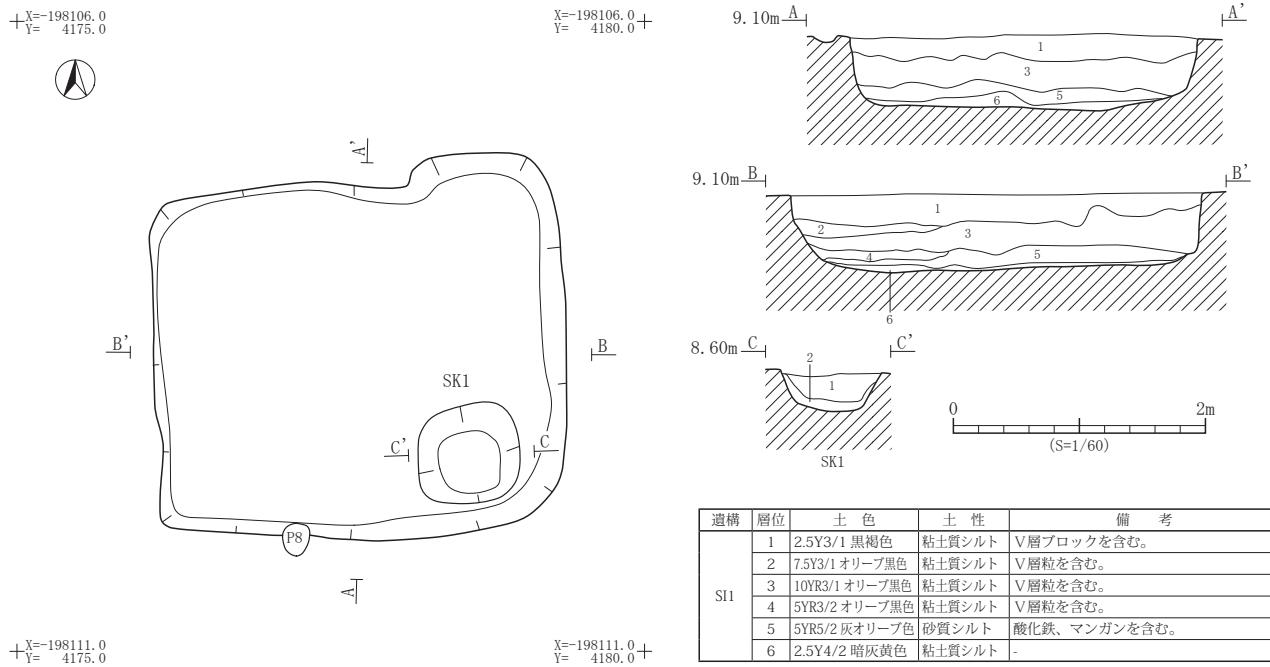
SD2 溝跡（第3・4図、図版1・5）E360～370・N290 グリッドで検出した。本遺跡1区西区で検出した SD24 溝跡と同一の溝跡である。P2・4・7・21 と重複し、本遺構が古い。東西両側共に調査区外へ延び、西側は1区西区 SD24 に連続する。方向は N-87°-E で、検出長 18.42m、幅 82～162cm、深さ 46cm である。断面形は U 字形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器、須恵器の破片が出土し、須恵器甕の胴部破片 1 点を第4図に図示した。

SD19 溝跡（第3図）E350・N290 グリッドで検出した。方向は N-12～53°-E で弧状に延び、長さ 2.20m、幅 20～24cm、深さ 7～13cm である。断面形は U 字形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

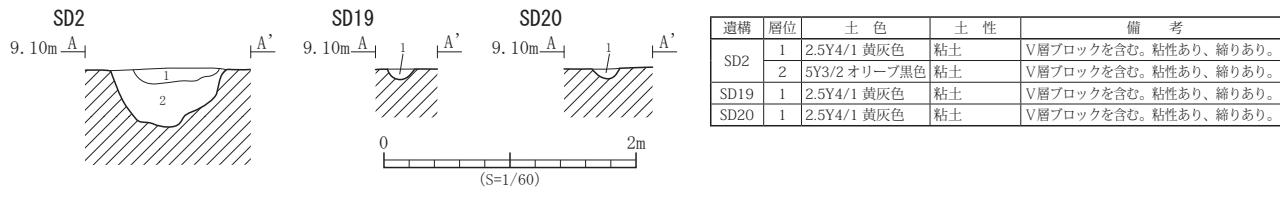
SD20 溝跡（第3図、図版1）E350～360・N290 グリッドで検出した。方向は N-43°-E で、長さ 1.46m、幅 20～24cm、深さ 6～9cm である。断面形は U 字形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

## 第2節 大野田遺跡1区東区

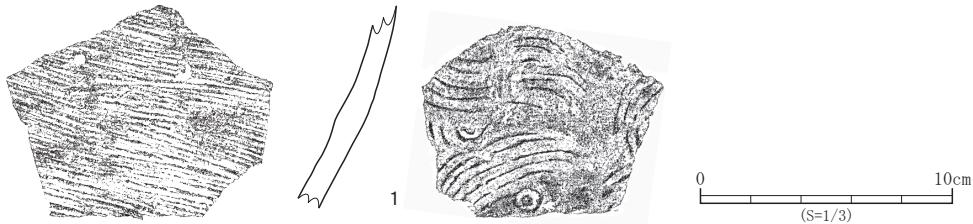




第2図 S I 1 壓穴遺構平面図・断面図



第3図 S D 2 · 19 · 20 溝跡断面図



No.	登録番号	区	出土遺構	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-1	1区東	SD2	1	須恵器	甕	× × × 現 8.0	平行タタキ	当て具痕(青海波文)	4-1	

第4図 S D 2 溝跡出土遺物

### 3) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係から I · II 群に分けられる。また、重複関係から II 群→ I 群の変遷がたどれる。

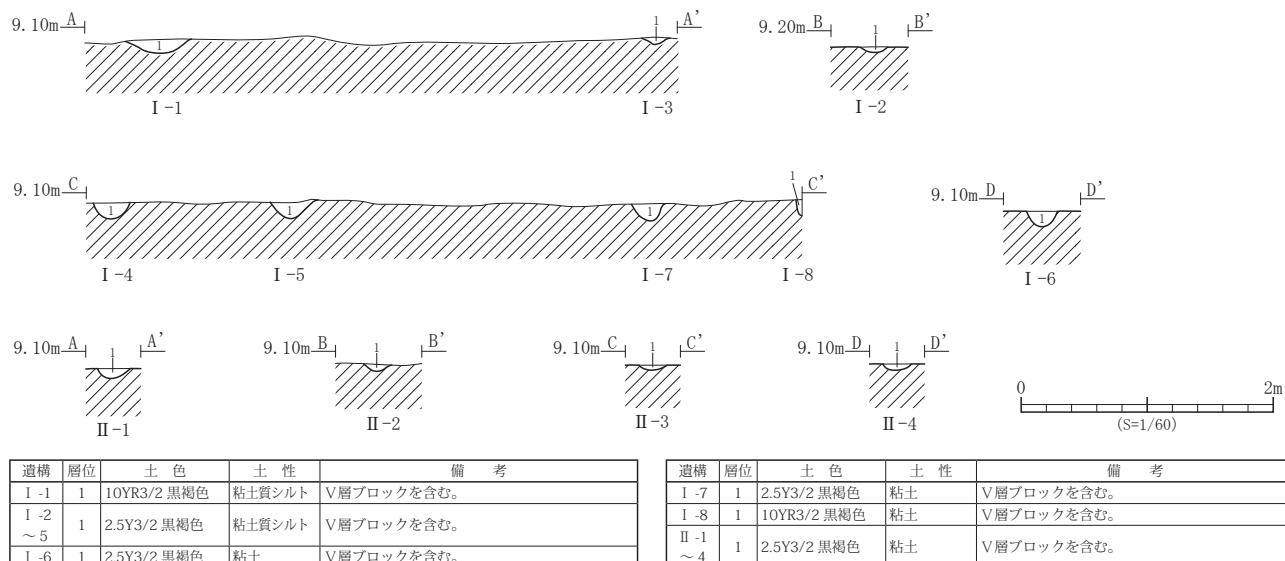
I 群（第5図、図版1） E350～390・N280～290 グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、8条の小溝で構成される。方向は N-84～90°-E で、検出長 1.18～30.25m、幅 8～47cm、深さ 3～12cm である。小溝の間隔は 75cm 程である。堆積土は单層である。遺物は I -3 から土師器の小破片が出土している。

II 群（第5図、図版1） E350～390・N280～290 グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群で、4条の小溝で構成される。方向は N-76～87°-W で、検出長 1.40～8.20m、幅 8～20cm、深さ 3～7cm である。小溝の間隔は 75cm 程である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

### 4) ピット（第1図）

24基のピット（P1～24）を検出した。調査区全域に散漫な分布状況を示す。遺物は P8・10・24 から土師器の小破片が出土している。

## 第2節 大野田遺跡1区東区

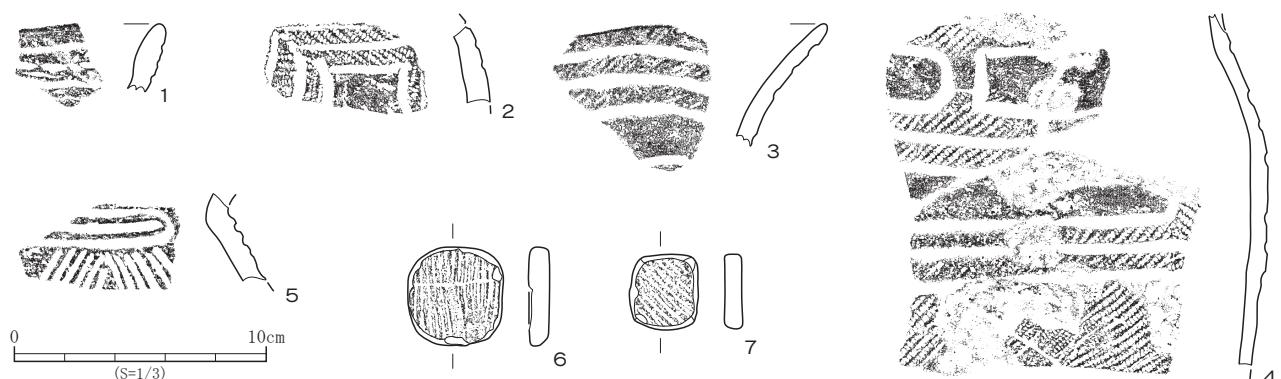


第5図 小溝状遺構群断面図

### (2) 深掘区の調査（第1・6・7図、図版4）

深掘区は調査区内の東西2箇所に設定し、それぞれ東トレンチ・西トレンチとした。1.70m程掘り下げ基本層IX層まで確認したが、遺構は検出されず、基本層VI～VII層の各層で、縄文土器片、土製品、石器、石製品が少量出土した。それらのうち、縄文土器5点、土製品2点、石器1点、石製品1点を第6・7図に図示した。

第6図1～5は縄文土器深鉢片である。1は横位の平行沈線間に刺突文が施文され、2～4は広義の磨消縄文手法により文様が施文される。5は頸部～肩部片で平行沈線文が施文される。6・7は縄文土器胴部片を素材とした土製円盤である。第7図1は石核である。打面転移を繰り返しながら剥片剥離作業が行われている。2は石皿である。大型で扁平な多孔質の安山岩を素材とし、敲打後に磨り整形されている。

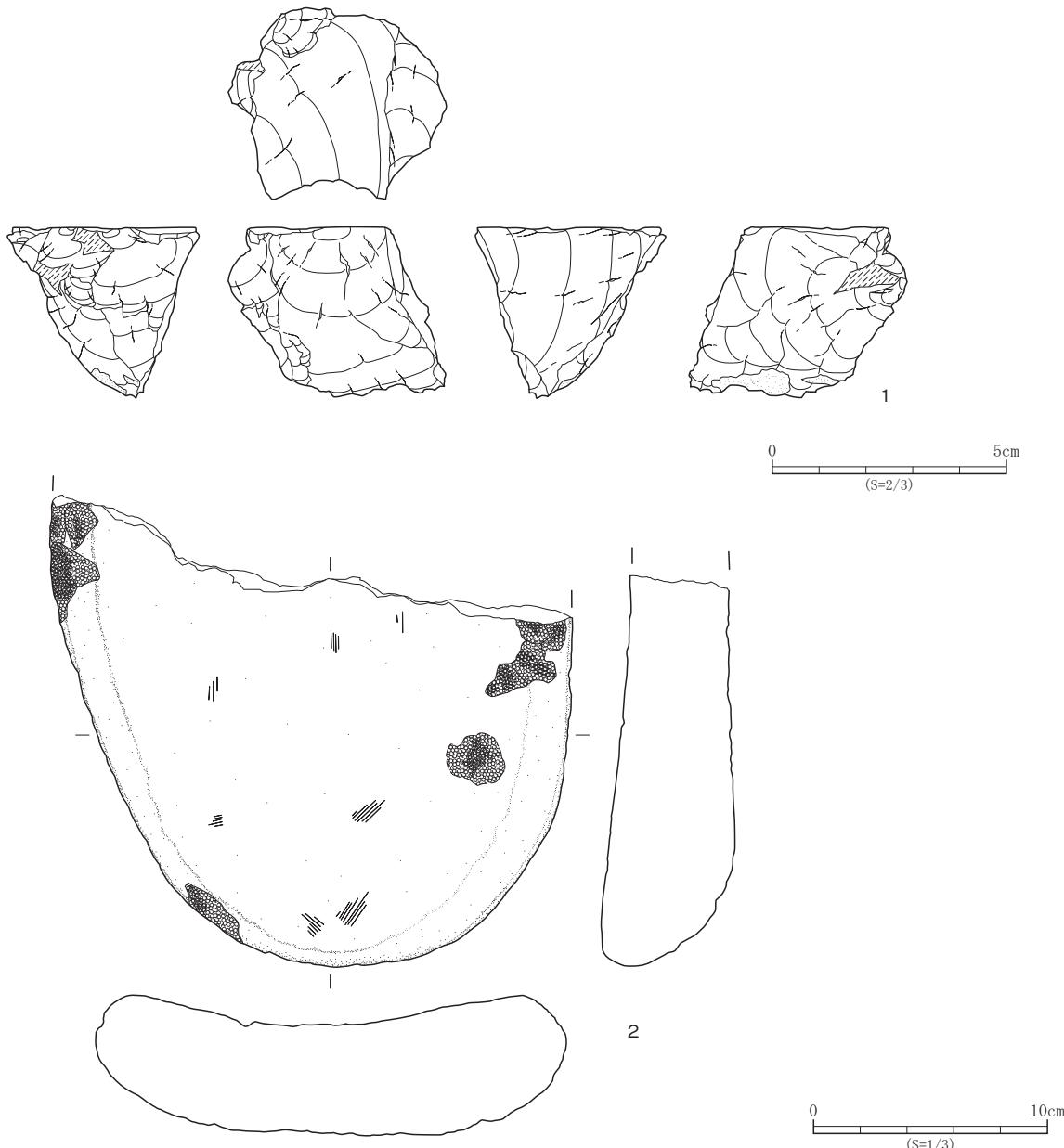


No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-2	1区東	西トレンチ	VI	縄文土器	深鉢	口縁部・波状口縁・沈線文・刺突文 内面 - ミガキ		4-2
2	A-3	1区東	西トレンチ	VII	縄文土器	深鉢	胴部・沈線文・RL縄文 内面 - ナデ		4-3
3	A-4	1区東	西トレンチ	VII	縄文土器	深鉢	口縁部・波状口縁・沈線文・LR縄文 内面 - ナデ・ミガキ		4-4
4	A-5	1区東	西トレンチ	VII	縄文土器	深鉢	胴部・沈線文・LR縄文 内面 - ミガキ		4-6
5	A-6	1区東	東トレンチ	VII	縄文土器	深鉢	胴部・沈線文 内面 - ミガキ		4-5
No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
6	P-1	1区東	東トレンチ	VII	土製品	土製円盤	櫛描文	38×38×9mm 14.9g	4-7
7	P-2	1区東	東トレンチ	VII	土製品	土製円盤	櫛描文	27×30×7mm 8.1g	4-8

第6図 深堀区出土遺物（1）

### 3.1区西区の調査

1区西区では基本層IV層（古代の遺構検出面）において、土坑18基、溝跡1条、小溝状遺構群1群、ピット8基を検出した。基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑5基、溝跡3条、小溝状遺構群3群、ピッ



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	石 材	長さ×幅×厚さ (cm)	重さ (g)	備 考	写真図版
1	Ka-m-1	1区東	西トレンチ	VII	打製石器	石核	玉髓	3.6 × 4.7 × 4.1	55.7		4-9
2	Kd-j-1	1区東	東トレンチ	VIII	石製品	石皿	安山岩	(16.6) × (21.9) × 5.5	(3128.72)	成形石皿、上部欠損。	4-10

第7図 深堀区出土遺物（2）

ト 96 基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

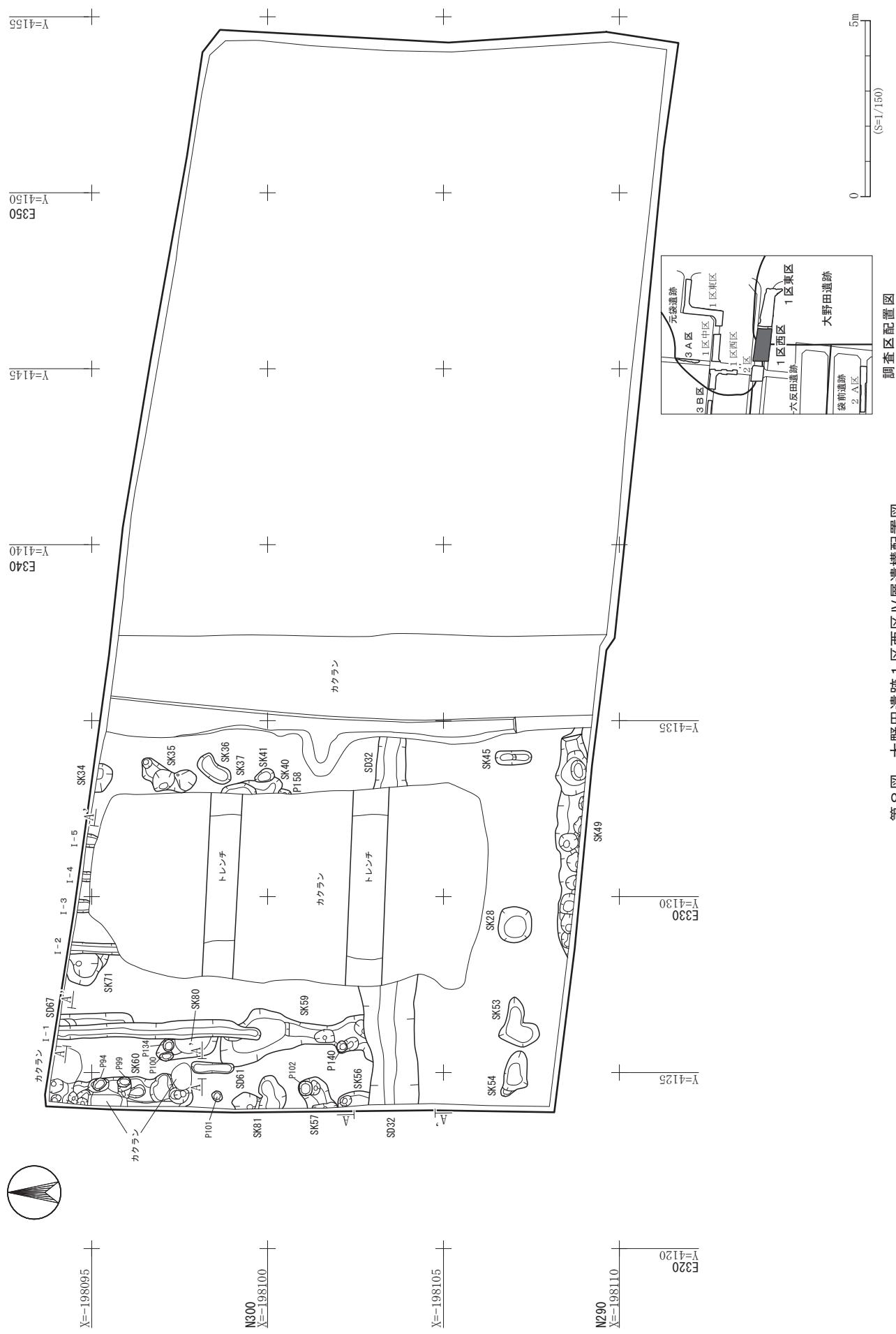
#### （1）IV層検出の遺構と遺物（第8図）

##### 1) 土坑

SK28 土坑（第9図） E320・N290 グリッドで検出した。平面形は不整な円形で、規模は径 95cm、深さ 42cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

SK34 土坑（第9図） E330・N300 グリッドで検出した。北側の調査区外に延びる。平面形・長軸方向共に不明であるが円形を基調としたものであると考えられる。検出した規模は東西 80cm、南北 42cm、深さ 48cm で、壁面は東側が急角度に、西側は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物

## 第2節 大野田遺跡1区西区



第8図 大野田遺跡1区西区IV層遺構配置図

調査区配置図

は出土していない。

**SK35 土坑（第9図）** E330・N300 グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向は N-39°-E である。規模は長軸 158cm、短軸 56cm、深さ 26～59cm で、壁面は北東側が急角度に、南西側が緩やかに立ち上がる。断面は北東側がピット状に落ち込む柄杓状で、底面は起伏がある。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SK36 土坑（第9図）** E330・N300 グリッドで検出した。平面形は不整橢円形で、長軸方向は N-37°-E である。規模は長軸 108cm、短軸 47cm、深さ 17cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SK37 土坑（第9図）** E330・N300 グリッドで検出した。SK40 と重複関係にあり、本遺構が新しい。西側を攪乱に削平されているが、平面形は円形を基調としたものと考えられる。長軸方向は不明である。検出した規模は東西 36cm、南北 100cm、深さ 10cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形と思われ、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SK40 土坑（第9図）** E330・N290～300 グリッドで検出した。SK37・41 と重複関係にあり、本遺構が古い。西側を攪乱に削平されており、平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西 56cm、南北 138cm、深さ 10～67cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形と思われ、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SK41 土坑（第9図）** E330・N290～300 グリッドで検出した。SK40 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整橢円形で、長軸方向は N-27°-W である。規模は長軸 58cm、短軸 38cm、深さ 39cm で、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SK45 土坑（第9図）** E330・N290 グリッドで検出した。平面形は橢円形で、長軸方向は南北正方位である。規模は長軸 104cm、短軸 40cm、深さ 35～44cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は段差があり、北側が南側より 10cm 低い。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SK49 土坑（第9図、図版2）** E320～330・N290 グリッドで検出した布掘り状の土坑である。西側の調査区外に延び、東側は攪乱に削平されている。平面形は不整形で、長軸方向は N-78°-E である。検出した規模は長軸 6.46 m、短軸 78cm、深さ 10～86cm で、壁面は起伏を持ちながら緩やかに立ち上がる。断面形は不整形で、底面は凹凸が激しく、深さ 30～60cm 程のピット状の落ち込みが東西方向に並ぶ。堆積土は基本層V層をブロック状に含む黒褐色粘土質シルトを主体とし、13 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

**SK53 土坑（第10図）** E320・N290 グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向は N-70°-E である。規模は長軸 144cm、短軸 105cm、深さ 29cm で、壁面はやや急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

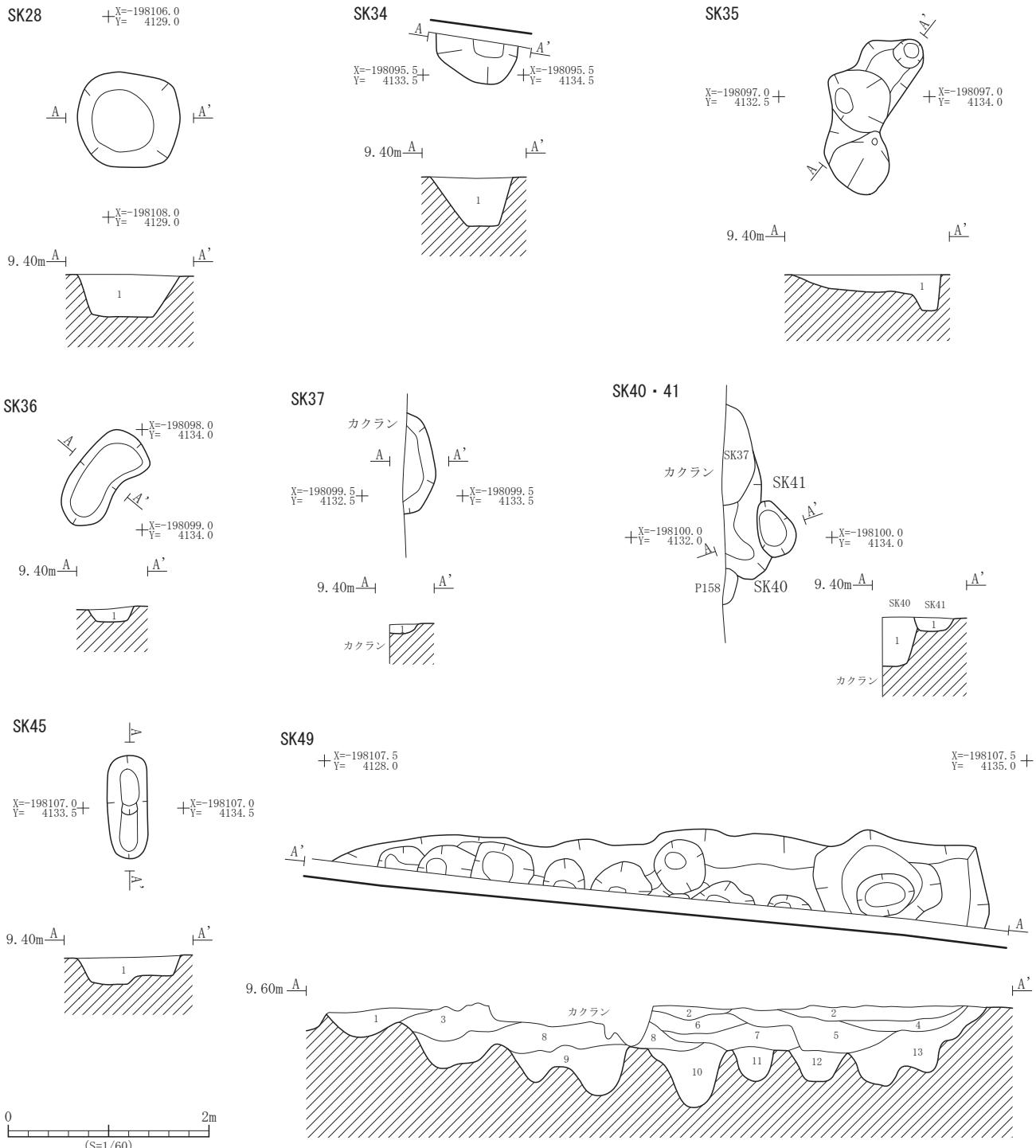
**SK54 土坑（第10図）** E320・N290 グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向は N-69°-E である。規模は長軸 138cm、短軸 72cm、深さ 8～25cm で、壁面は緩やかに立ち上がり、北西側は一部テラス状となる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SK56 土坑（第10図、図版2）** E320・N290 グリッドで検出した。SK57、SD32 と重複関係にあり、SK57 より新しく SD32 より古い。西側の調査区外に延びており、平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西 40cm、南北 111cm、深さ 52cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 4 層に分層される。遺物は出土していない。

**SK57 土坑（第10図）** E320・N290 グリッドで検出した。SK56 と重複関係にあり、本遺構が古い。西側の調査区外に延びており、平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西 90cm、南北 70cm、深さ 24～41cm で、壁面は起伏を持ちながら急角度に立ち上がる。断面形は概ね U 字形で、底面は概ね平坦である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

**SK59 土坑（第10図、図版2）** E320・N290～300 グリッドで検出した。SD32・61・63、P140 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はほぼ南北正方位である。検出した規模は東西 53cm、南北 4.51 m、深さ 31～71cm で、壁面は急角度に立ち上がる。底面は凹凸が激しく、ピット状に落ち込む箇所もみられる。堆積土は基本層V層をブロック状に含む黒褐色粘土ないし粘土質シルトを主体とし、13 層に分層される。遺物は出

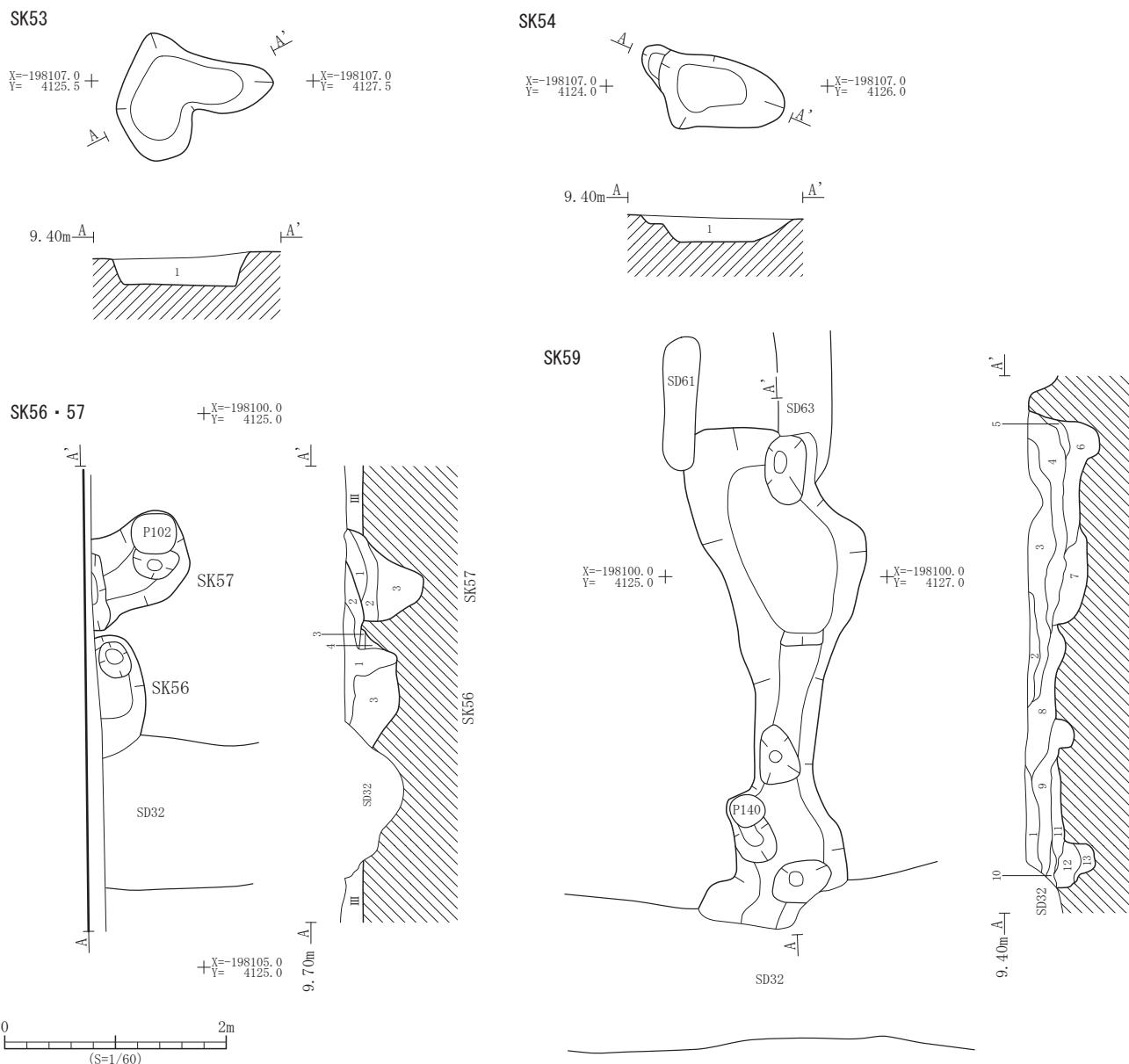
## 第2節 大野田遺跡1区西区



遺構	層位	土色	土性	備考
SK28	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK34	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK35	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK36	1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土	V層粒を含む。
SK37	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK40	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK41	1	10YR2/2 黒褐色	粘土	-
SK45	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK49	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	V層粒を含む。粘性なし、縮りあり。
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、縮りあり。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、縮りあり。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK49	4	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	V層粒を含む。粘性あり、縮りあり。
	5	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、縮りあり。
	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、縮りあり。
	7	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、縮りあり。
	8	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、縮りあり。
	9	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、縮りあり。
	10	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、縮りあり。
	11	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、縮りあり。
	12	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、縮りあり。
	13	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、縮りあり。

第9図 SK 28・34～37・40・41・45・49 土坑平面図・断面図



遺構	層位	土色	土性	備考
SK53	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK54	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK56	1	2.5Y5/1 灰黄褐色	粘土質シルト	V層粒を含む。粘性あり、締りあり。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	3	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	4	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
SK57	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	2	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	3	2.5YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
SK59	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土	V層ブロック、褐灰色粘土質シルトを含む。粘性あり、締りあり。
	2	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	V層ブロック、褐灰色粘土質シルトブロックを含む。粘性あり、締りあり。

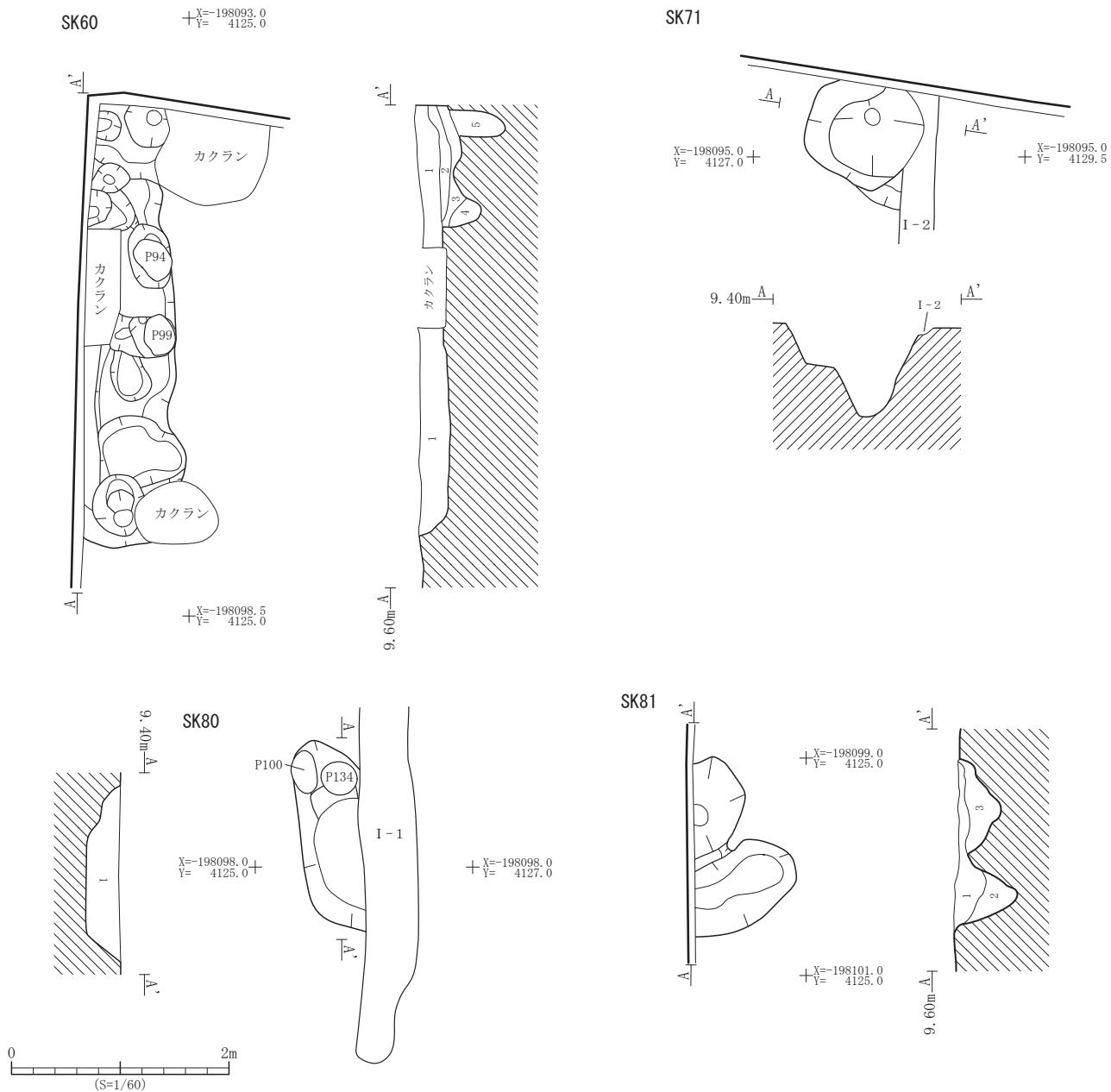
遺構	層位	土色	土性	備考
SK59	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	V層ブロック、黒褐色粘土質シルトブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	V層ブロック、灰黄褐色粘土質シルトブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	9	10YR5/2 黄褐色	粘土	V層ブロック、黒褐色粘土質シルト粒を含む。粘性あり、締りあり。
	10	10YR2/2 黑褐色	粘土	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	11	2.5Y3/2 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	12	2.5Y3/1 黑褐色	粘土	V層粒を含む。粘性あり、締りあり。
	13	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	V層ブロック、褐灰色粘土質シルトブロックを含む。粘性あり、締りあり。

第10図 SK53・54・56・57・59 土坑平面図・断面図

土していない。

**SK60 土坑（第11図）** E320・N300 グリッドで検出した。P94・99 と重複関係にあり、本遺構が古い。西側および北側の調査区外に延びており、平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西 55cm、南北 4.10 m、深さ 31～74cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。底面は凹凸が激しく、ピット状に落ち込む箇所もみられる。堆積土は 5 層に分層される。遺物は出土していない。

## 第2節 大野田遺跡1区西区



遺構	層位	土色	土性	備考
SK60	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性なし、締りあり。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	3	10R4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	4	2.5Y3/2 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りなし。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りなし。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK80	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	2	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
SK81	3	2.5Y3/2 黑褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りなし。

第11図 SK 60・71・80・81 土坑平面図・断面図

**SK71 土坑（第11図）** E320・N300 グリッドで検出した。小溝状遺構 I -2 と重複関係にあり、本遺構が古い。調査区の北側に延びており、平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西 1.07m、短軸 98cm、深さ 87cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は漏斗状である。遺物は出土していない。

**SK80 土坑（第11図）** E320・N300 グリッドで検出した。小溝状遺構 I -1、P100・134 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西 55cm、南北 1.62m、深さ 60cm で、壁面は緩やかに立ち上がり、北側はテラス状となる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SK81 土坑（第11図、図版2）** E320・N290～300 グリッドで検出した。西側の調査区外に延びており、平面

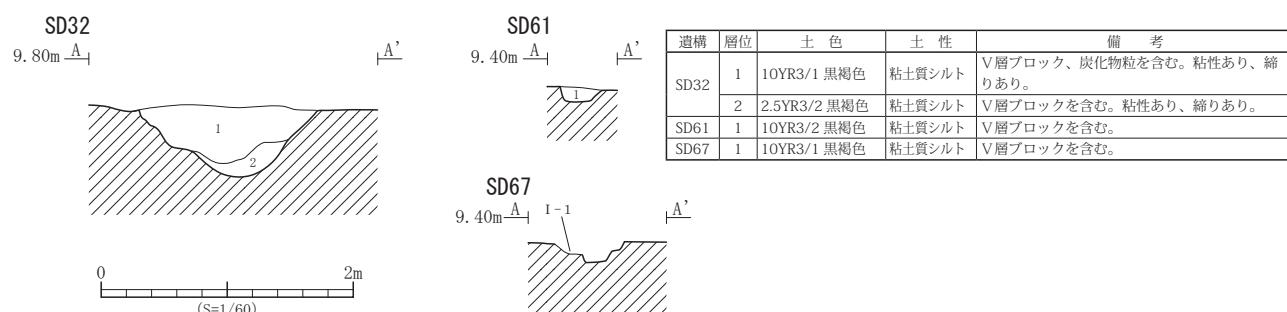
形は不整形で、長軸方向は不明である。検出した規模は東西 95cm、南北 1.52m、深さ 39～57cm で、壁面は起伏を持ちながら緩やかに立ち上がる。底面は凹凸が激しく、土坑が南北に連なったように落ち込む。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

### 2) 溝跡

SD32 溝跡（第 12 図、図版 2） E320～330・N290 グリッドで検出した。西側の調査区外に延び、東側は搅乱により削平されている。SK56・59 と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は N-88°-E で、検出長 10.56 m、幅 76～164cm、深さ 57cm である。断面形は概ね V 字状である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器の高環脚部と思われる破片が出土している。

SD61 溝跡（第 12 図） E320・S300 グリッドで検出した。SK59 と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は南北正方位で、長さ 1.19m、幅 29～33cm、深さ 9～12cm である。断面形は箱形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

SD67 溝跡（第 12 図） E320・S300 グリッドで検出した。北側の調査区外へ延びる。小溝状遺構 I -1 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-5°-W で、検出長 2.80m、幅 28～32cm、深さ 35～74cm である。断面形は漏斗形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

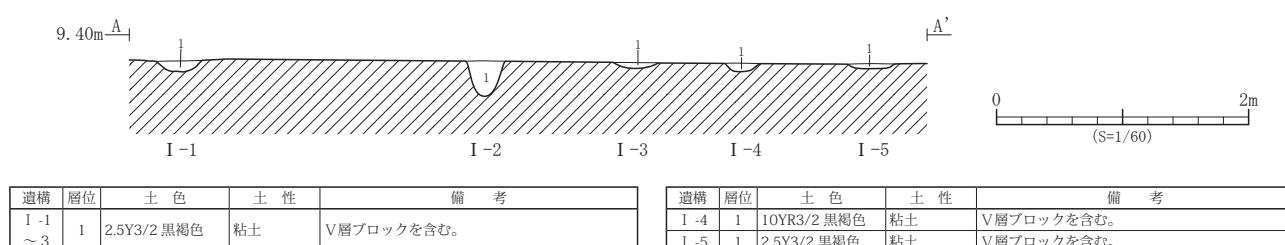


第 12 図 S D 32・61・67 溝跡断面図

### 3) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、1 群を検出した。

I 群（第 13 図） E320～330・N300 グリッドで検出した南北方向の遺構群で、5 条の小溝で構成される。方向はほぼ南北正方位で、検出長 0.22～5.75m、幅 28～42cm、深さ 4～41cm である。小溝の間隔は、50cm～2.0m である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。



第 13 図 小溝状遺構群断面図

### 4) ピット（第 8 図）

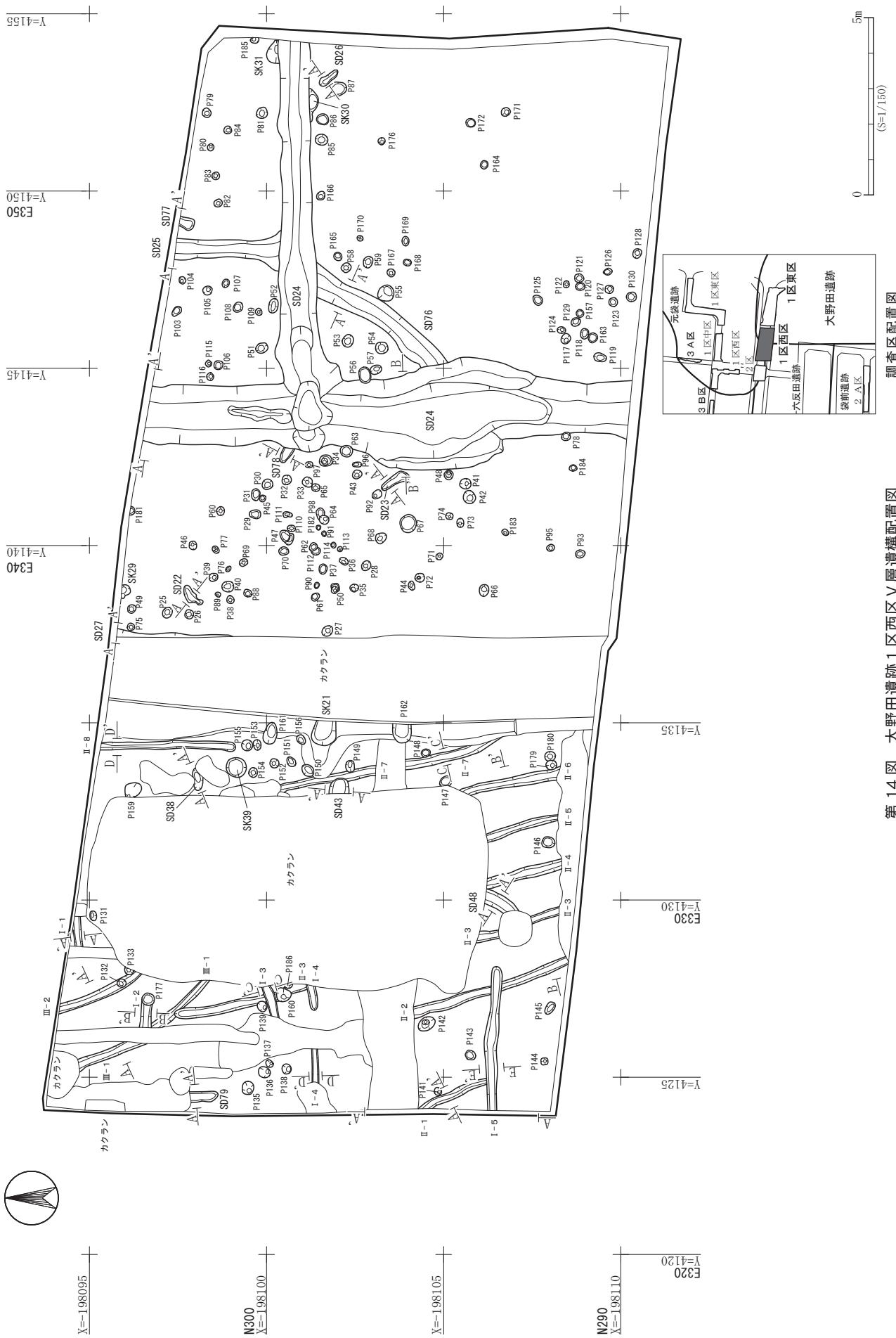
8 基のピット（P94・99・100～102・134・140・158）を検出した。調査区内に散漫な分布状況を示している。遺物は出土していない。

### (2) V層検出の遺構と遺物（第 14 図）

#### 1) 土坑

SK21 土坑（第 15 図） E330・N290 グリッドで検出した。東側は搅乱により削平されている。平面形は橢円形

## 第2節 大野田遺跡1区西区



第14図 大野田遺跡1区西区V層遺構配置図

調査区配置図

を基調としたものと推定され、東西方向に長軸を持つ。検出した規模は東西 68cm、南北 68cm、深さ 28cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は堆積土から土師器坏片が出土している。

**SK29 土坑（第 15 図）** E330・N300 グリッドで検出した。北側の調査区外へ延びる。平面形は不整形で、長軸方向は不明である。検出した規模は東西 38cm、南北 24cm、深さ 15cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SK30 土坑（第 15 図）** E330・N300 グリッドで検出した。SD24 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向は不明である。検出した規模は東西 92cm、南北 24cm、深さ 36cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SK31 土坑（第 15 図）** E330・N300 グリッドで検出した。SD24 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向は不明である。検出した規模は東西 63cm、南北 32cm、深さ 42cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SK39 土坑（第 15 図）** E330・N300 グリッドで検出した。平面形は円形で、規模は直径 55cm、深さ 13cm である。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

### 3) 溝跡

**SD22 溝跡（第 16 図）** E330・N300 グリッドで検出した。方向は N-42°-E で、長さ 68cm、幅 10～30cm、深さ 13cm である。断面形は逆台形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SD23 溝跡（第 16 図）** E330・N290 グリッドで検出した。方向は N-31°-W で、長さ 85cm、幅 20～34cm、深さ 8cm である。断面形は逆台形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SD24 溝跡（第 16・17 図、図版 2・4）** E340～350・N280～300 グリッドで検出した。南北および東西方向に「T」字状に延びる溝である。東・南・北側はいずれも調査区外へ延び、そのうち東側は本遺跡 1 区東区 V 層 SD2 に連続する。SK30・31、SD25・76・78、P2・7・21・63・78 と重複関係にあり、各土坑および溝跡より新しく、各ピットより古い。方向は南北部分が N-1°-E、東西部分が N-88°-E である。規模は、南北部分が検出長 13.65 m、幅 1.42～3.10 m、深さ 58～132cm、東西部分が検出長 12.02 m、幅 79～170cm、深さ 41～68cm である。断面形は逆台形を基調とするが、分岐点付近の底面は東西部分では段差がつき、深くなっている。南北部分では溝状あるいは土坑状に落ち込む箇所もみられる。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器、土師器、須恵器、石器が出土しており、第 16 図に土師器 1 点、礫石器 2 点を図示した。1 は土師器坏である。平底状の底部から膨らみを持つ体部へと緩やかに内湾し、口縁部上端がわずかに外反して口唇部にいたる。内外面共にヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。2・3 は礫石器である。共に複数の面が使用されており、2 は磨面と敲打痕が、3 は磨面と敲打の累積による凹痕と敲打痕が複合して観察される。

**SD25 溝跡（第 16 図、図版 2）** E340～350・N300 グリッドで検出した。北側の調査区外へ延び、南側は SD24 の東西部分と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-1°-E で、約 3.8 m 西に位置する SD24 の南北部分と並行する位置関係にある。検出長 3.10 m、幅 50～110cm、深さ 25～35cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

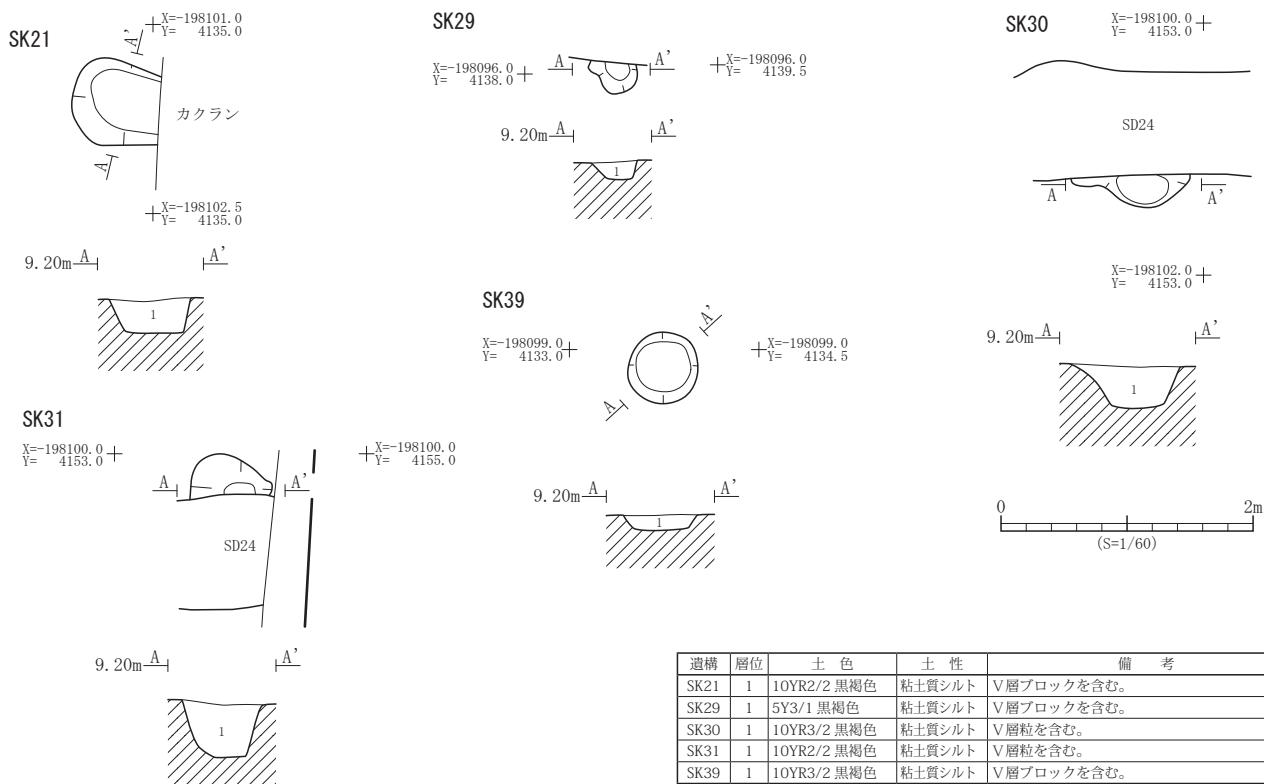
**SD26 溝跡（第 16 図）** E350・N290 グリッドで検出した。方向は N-39°-W で、長さ 63cm、幅 19～25cm、深さ 11～17cm である。断面形は箱形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SD27 溝跡（第 16 図）** E330・N300 グリッドで検出した。南北方向の溝で北側は調査区外へ延びる。調査区内では大部分が搅乱で削平されており、東辺の一部のみが遺存する。検出長 3.52 m、幅 22cm、深さ 22cm である。断面形は不明である。堆積土は单層である。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

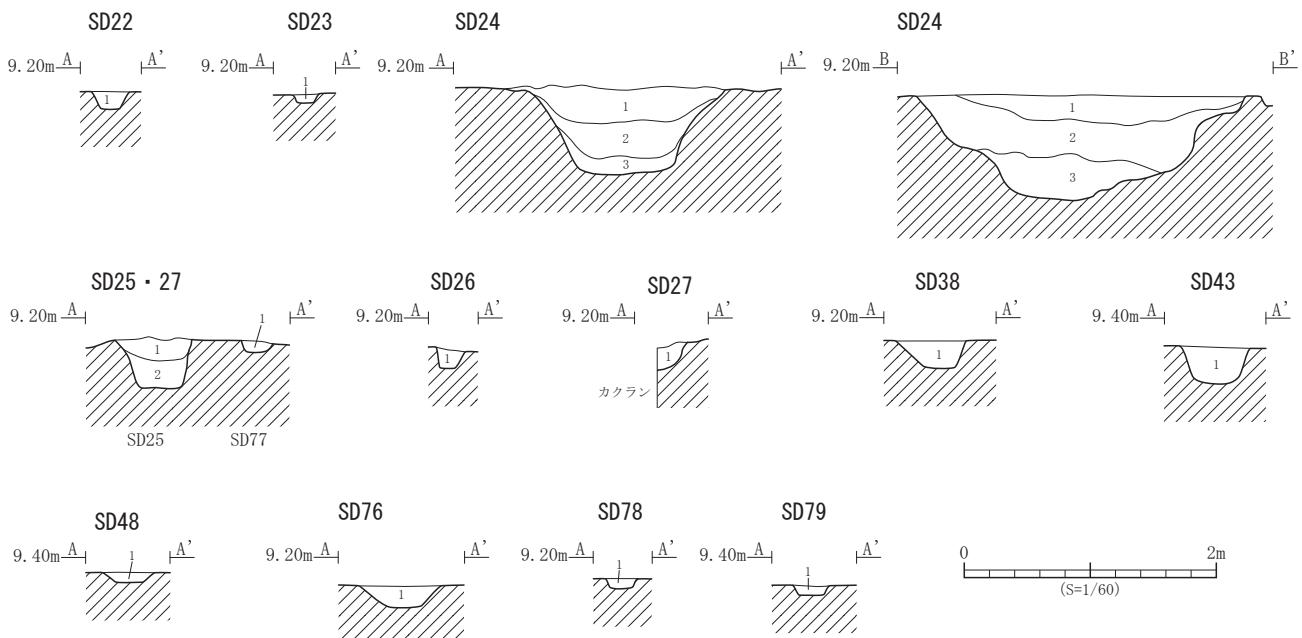
**SD38 溝跡（第 16 図）** E330・N300 グリッドで検出した。北側と南東側の一部を搅乱により削平されている。方向は N-79°-E で、検出長 62cm、幅 23～27cm、深さ 22cm である。断面形は逆台形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SD43 溝跡（第 16 図）** E330・N290 グリッドで検出した。西側を搅乱により削平されている。小溝状遺構 II -7

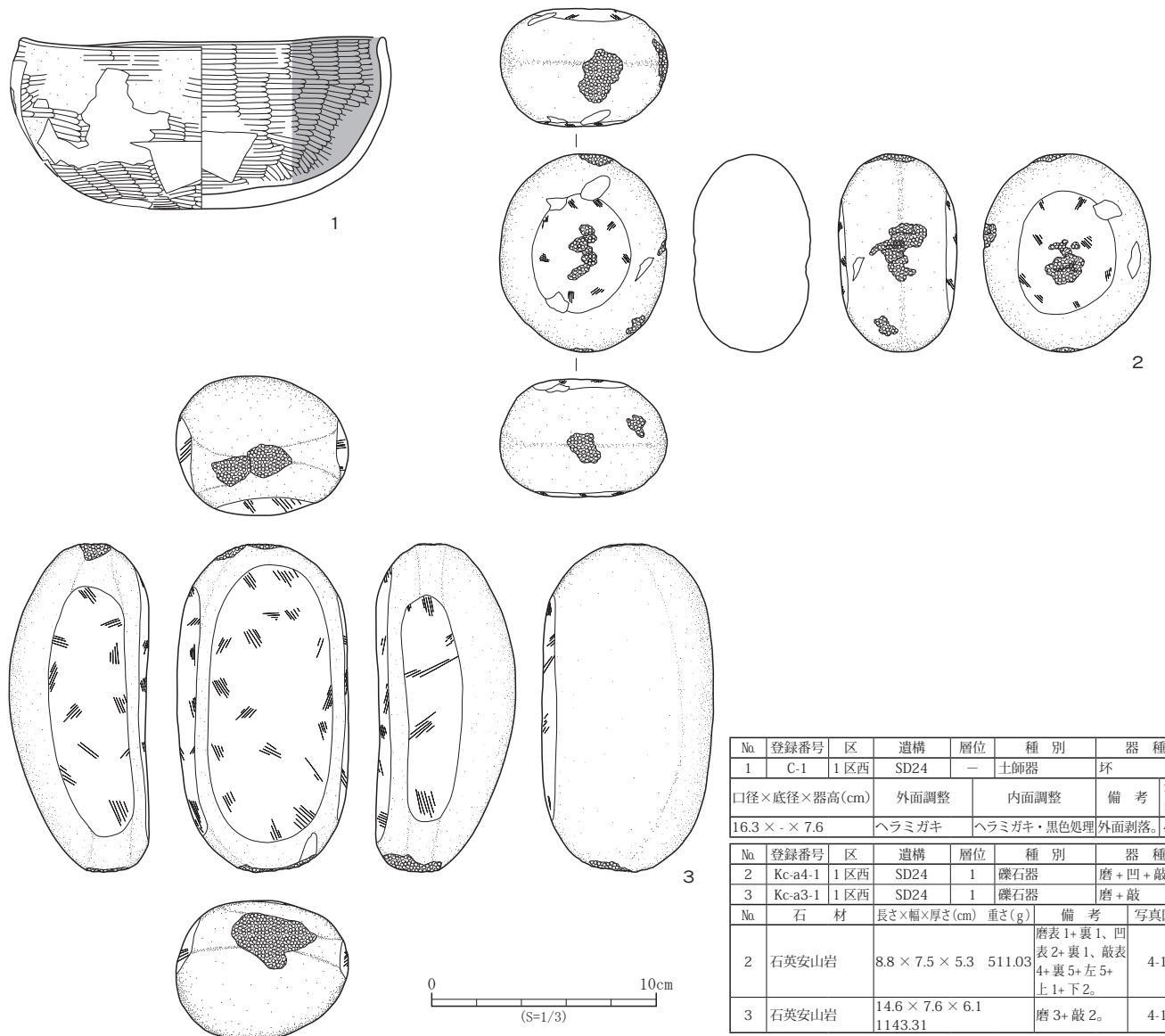
## 第2節 大野田遺跡1区西区



第15図 SK21・29～31・39土坑平面図・断面図



第16図 SD22～27・38・43・48・76～79溝跡断面図



第17図 SD 24 溝跡出土遺物

と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はほぼ東西で、検出長43cm、幅55cm、深さ29cmである。断面形は逆台形である。遺物は出土していない。

**SD48 溝跡(第16図)** E320～330・N290グリッドで検出した。南北両側を搅乱に削平されている。方向はN-36°-Eで、わずかに弧状となる。検出長1.14m、幅37～42cm、深さ8cmである。断面形は逆台形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SD76 溝跡(第16図、図版2)** E340・N290グリッドで検出した。SD24、P55と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-36°-Eで、わずかに弧状となる。検出長4.12m、幅62～75cm、深さ18～26cmである。断面形は逆台形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SD77 溝跡(第16図)** E350・N300グリッドで検出した。北側の調査区外へ延びる。方向はN-21°-Eで、検出長40cm、幅28～35cm、深さ13cmである。断面形は逆台形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SD78 溝跡(第16図)** E340・N290グリッドで検出した。SD24と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-55°-Wで、検出長45cm、幅28～35cm、深さ8cmである。断面形は箱形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SD79 溝跡(第16図)** E320・N300グリッドで検出した。北側を搅乱により削平されている。方向はN-3°-Wで、検出長75cm、幅25～29cm、深さ8cmである。断面形は逆台形である。堆積土は单層である。遺物は出土してい

## 第2節 大野田遺跡1区西区

ない。

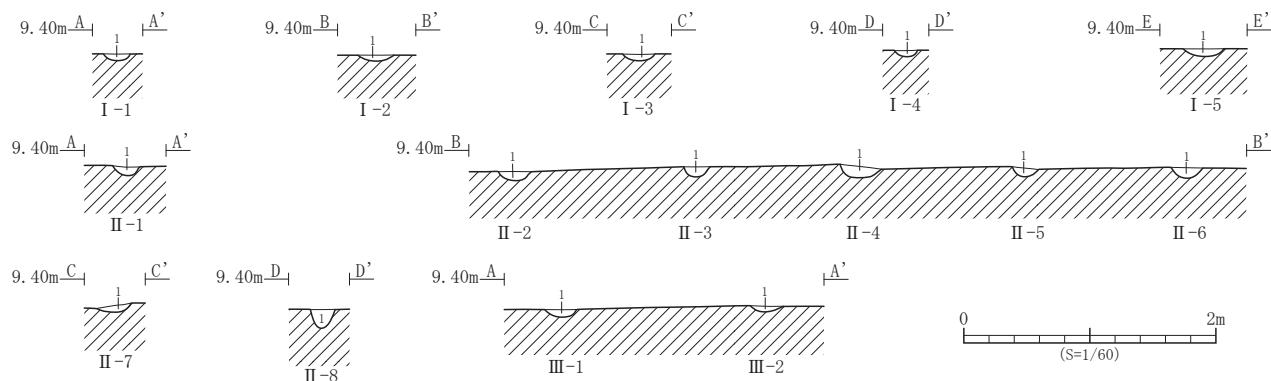
### 4) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係からI～III群に分けられる。また、重複関係からIII群→II群→I群の変遷がたどれる。

I群（第18図）E320・N290～300グリッドで検出した東西方向の遺構群で、5条の小溝で構成される。方向はN-74～88°-Eで、検出長0.85～4.09m、幅8～38cm、深さ3～22cmである。小溝の間隔は1.0～5.0mである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

II群（第18図）E320～330・N290～300グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、8条の小溝で構成される。方向はN-3～25°-Wで、検出長1.95～6.28m、幅17～32cm、深さ7～15cmである。小溝の間隔は80cm～2.0mである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

III群（第18図）E320・N300グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、2条の小溝で構成される。方向はN-21～23°-Wで、検出長2.46～4.38m、幅20～32cm、深さ6～9cmである。小溝の間隔は1.30mである。



遺構	層位	土色	土性	備考
I-1	1	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
I-2	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
I-3	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
I-4	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
I-5	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
II-1	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	V層粒を含む。
II-2	1	9.40m	B'	
II-3				
II-4				
II-5				
II-6				
II-7	1	9.40m C	C'	
II-8	1	9.40m D	D'	
III-1	1	9.40m A	A'	
III-2	1			

遺構	層位	土色	土性	備考
II-3	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	V層粒を含む。
II-4	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
II-5	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	V層粒を含む。
II-6	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	V層粒を含む。
II-7	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
II-8	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を含む。

第18図 小溝状遺構群断面図

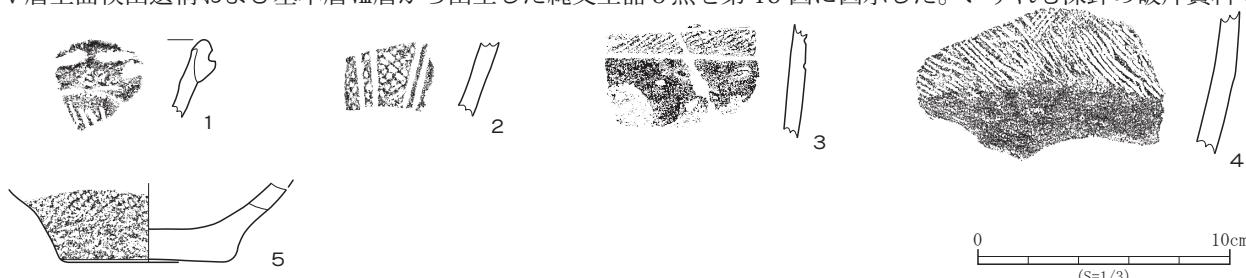
堆積土は単層である。遺物は出土していない。

### 5) ピット（第14図）

96基のピット（P25～93・95～98・103～133・135～139・141～157・159～186）を検出した。調査区全域に散漫な分布状況を示す。遺物はP28から須恵器坏底部片、P161から微細剥離痕のある剥片1点が出土している。

### (3) 遺構外出土遺物（第19図）

V層上面検出遺構および基本層VII層から出土した縄文土器5点を第19図に図示した。いずれも深鉢の破片資料で



No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-7	1区西	V	SD24	縄文土器	深鉢	口縁部・波状口縁・沈線文・条線文 内面 - ナデ		5-14
2	A-9	1区西	VII	-	縄文土器	深鉢	胴部・沈線文・LR縄文 内面 - ミガキ	内外面摩滅。	5-15
3	A-8	1区西	VII	-	縄文土器	深鉢	胴部・沈線文・LR縄文 内面 - ナデ・ミガキ	胎土に金雲母混入。	5-16
4	A-10	1区西	VII	-	縄文土器	深鉢	胴部・r縄文?・ミガキ 内面 - ミガキ		5-17
5	A-1	1区西	V	SD27	縄文土器	深鉢	胴下端・LR縄文 底部 - ミガキ 内面 - ナデ・ミガキ		5-18

第19図 遺構外出土遺物

ある。1は波状口縁であり、口縁部に沿うように刺突文が施文される。

#### 4.まとめ

大野田遺跡は仙台市太白区大野田字袋前にあり、自然堤防に立地する縄文時代～古代の遺跡である。平成20年度に約839m<sup>2</sup>の調査が行われ、古代の遺構群が検出された。

##### (1) 遺構について

1) 古代の遺構は基本層IV層およびV層上面で検出された。

1区東区V層—堅穴遺構1基、溝跡1条、小溝状遺構群2群、ピット24基

1区西区IV層—土坑18基、溝跡1条、小溝状遺構群1群、ピット8基

1区西区V層—土坑5基、溝跡3条、小溝状遺構群3群、ピット96基

2) 1区東区V層SD2と1区西区V層SD24は同一の溝跡であり、規模や方向等から区画的性格を持つ施設の可能性が考えられる。

3) 両調査区から小溝状遺構群が検出されており、調査区周辺には畠が広がっていたと考えられる。

##### (2) 遺物について

大野田遺跡からの出土遺物は平箱3箱である。全体として小破片が多く、図化できる遺物は少ない。

###### 1) 縄文時代

基本層VI～VIII層から後期の深鉢および壺片が出土している。石器・石製品は、石核、礫石器、石皿が出土している。

###### 2) 古墳時代

1区西区IV層SK53から前期の土師器高環脚部片が出土している。

###### 3) 古代

1区東区V層SD2から須恵器甕片、1区西区SD24堆積土から土師器（非口クロ）の内黒環が出土している。8世紀前葉頃の遺物である。

第1表 遺構一覧表（1）

1区東区V層

堅穴遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規 模 (m)	平面形・断面形	時 期
S11	E370・N290	N-3°・W	東西3.27×南北2.99×壁高0.55	不整隅丸方形（北東部に張り出し）・箱形	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規 模 (m)	平面形・断面形	時 期
SD2	E350～360・N290	N-87°・E	長さ[18.42]×幅0.82～1.62×深さ0.46	（ほぼ直線）・U字形	
SD19	E350・N290	N-12～53°・E	長さ2.20×幅0.20～0.24×深さ0.07～0.13	弧状・U字形	
SD20	E350～360・N290	N-43°・E	長さ1.46×幅0.20～0.24×深さ0.06～0.09	弧状・U字形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規 模 (m)	平面形・断面形	時 期
I - 1	E350～390・N270～290	N-85～88°・W	長さ[27.35]×幅0.25×0.47×深さ0.12	（ほぼ直線）・U字形	
I - 2	E350～390・N270～290	N-84～90°・W	長さ[12.69]×幅0.13～0.28×深さ0.03	（ほぼ直線）・U字形	
I - 3	E380～390・N280	N-85°・W	長さ[30.25]×幅0.22～0.35×深さ0.05	（ほぼ直線）・U字形	
I - 4	E380～390・N280	N-85°・W	長さ[5.25]×幅0.25～0.34×深さ0.12	（ほぼ直線）・U字形	
I - 5	E380～390・N280	N-84°・W	長さ[3.75]×幅0.27～0.34×深さ0.12	（ほぼ直線）・U字形	
I - 6	E380・N280	N-87°・W	長さ[1.18]×幅0.23～0.27×深さ0.12	（ほぼ直線）・U字形	
I - 7	E380～390・N290	N-84°・W	長さ[2.06]×幅0.26～0.32×深さ0.14	（ほぼ直線）・U字形	
I - 8	E390・N270	N-86°・W	長さ[1.08]×幅0.28～0.35×深さ0.12	（ほぼ直線）・U字形	
II - 1	E350～390・N280～290	N-79～86°・E	長さ[8.20]×幅0.08～0.35×深さ0.07	（ほぼ直線）・U字形	
II - 2	E380～390・N290	N-87°・E	長さ[6.65]×幅0.15～0.32×深さ0.05	（ほぼ直線）・U字形	
II - 3	E370・N280	N-86°・E	長さ2.22×幅0.20～0.25×深さ0.03	（ほぼ直線）・U字形	
II - 4	E380・N280	N-76°・E	長さ[1.40]×幅0.15～0.23×深さ0.05	（ほぼ直線）・U字形	

## 第2節 大野田遺跡

第2表 遺構一覧表（2）

1区西区IV層

土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規模(cm)	平面形・断面形	時期
SK28	E320・N300	-	径 95 × 深さ 42	円形・逆台形	
SK34	E330・N300	-	南北 [42] × 東西 [80] × 深さ 48	不明・逆台形	
SK35	E330・N300	N-39°-E	長軸 158 × 短軸 56 × 深さ 26 ~ 59	不整形・柄杓形	
SK36	E330・N300	N-37°-E	長軸 108 × 短軸 47 × 深さ 17	不整円形・逆台形	
SK37	E330・N300	-	東西 [36] × 南北 [100] × 深さ 10	不明・(逆台形)	
SK40	E330・N290 ~ 300	-	東西 [56] × 南北 [138] × 深さ 10 ~ 67	不明・(逆台形)	
SK41	E330・N290 ~ 300	N-27°-W	長軸 58 × 短軸 38 × 深さ 39	不整梢円形・逆台形	
SK45	E330・N290	南北	長軸 104 × 短軸 40 × 深さ 35 ~ 44	梢円形・逆台形状	
SK49	E320 ~ 330・N290	N-78°-E	長軸 [646] × 短軸 [78] × 深さ 10 ~ 86	不整形・凹凸激しい	
SK53	E320・N290	N-70°-E	長軸 140 × 短軸 105 × 深さ 27	不整形・逆台形	
SK54	E320・N290	N-69°-W	長軸 138 × 短軸 72 × 深さ 8 ~ 25	不整形・逆台形状	
SK56	E320・N290	-	東西 40 × 南北 111 × 深さ 52	不明・逆台形	
SK57	E320・N290	-	東西 90 × 南北 71 × 深さ 24 ~ 41	不明・U字形	
SK59	E320・N290 ~ 300	ほぼ南北	東西 53 × 南北 451 × 深さ 31 ~ 71	不整形・凹凸激しい	
SK60	E320・N300	-	東西 55 × 南北 410 × 深さ 31 ~ 74	不整形・凹凸激しい	
SK71	E320・N300	-	東西 [107] × 南北 [98] × 深さ 87	不明・漏斗状	
SK80	E320・N300	-	東西 [55] × 南北 [162] × 深さ 60	不明・逆台形	
SK81	E320・N290 ~ 300	-	東西 [95] × 南北 [152] × 深さ 39 ~ 57	不整形・凹凸激しい	

溝跡

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模(m)	平面形・断面形	時 期
SD32	E320 ~ 330・N290	N-88°-E	長さ [10.56] × 幅 0.76 ~ 1.64 × 深さ 0.57	ほぼ直線・V字状	
SD61	E320・N300	南北	長さ 1.19 × 幅 0.28 ~ 0.32 × 深さ 0.09 ~ 0.12	直線・箱形	
SD67	E320・N300	N-5°-W	長さ [2.80] × 幅 0.28 ~ 0.32 × 深さ 0.35 ~ 0.75	直線・漏斗形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模(m)	平面形・断面形	時 期
I -1	E320・N300	ほぼ南北	長さ [5.75] × 幅 0.32 ~ 0.42 × 深さ 0.22 ~ 0.30	直線・U字形	
I -2	E320・N300	ほぼ南北	長さ [1.30] × 幅 0.30 ~ 0.33 × 深さ 0.19 ~ 0.41	直線・U字形	
I -3	E320・N300	ほぼ南北	長さ [0.32] × 幅 0.32 ~ 0.37 × 深さ 0.06	不明・U字形	
I -4	E330・N300	ほぼ南北	長さ [0.22] × 幅 0.26 ~ 0.28 × 深さ 0.24	不明・U字形	
I -5	E330・N330	ほぼ南北	長さ [0.26] × 幅 0.32 ~ 0.37 × 深さ 0.04	不明・皿状	

1区西区V層

土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規 模(cm)	平面形・断面形	時 期
SK21	E330・N290	東西	東西 [68] × 南北 [68] × 深さ 28	(梢円形基調)・逆台形	
SK29	E330・N300	-	東西 [38] × 南北 [24] × 深さ 15	不整形・逆台形	
SK30	E350・N290	-	東西 [92] × 南北 [25] × 深さ 36	不整形・逆台形	
SK31	E350・N290	-	東西 [63] × 南北 [32] × 深さ 42	不整形・逆台形	
SK39	E330・N300	-	径 55 × 深さ 13	円形・逆台形	

溝跡

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模(m)	平面形・断面形	時 期
SD22	E330・N300	N-42°-E	長さ 0.68 × 幅 0.10 ~ 0.30 × 深さ 0.13	不整形・逆台形	
SD23	E340・N290	N-31°-W	長さ 0.85 × 幅 0.20 ~ 0.32 × 深さ 0.08	直線・逆台形	
SD24	E340 ~ 350・N280 ~ 300	N-1°-E、N-88°-E	南北: 長さ [13.65] × 幅 1.42 ~ 3.10 × 深さ 0.58 ~ 1.32 東西: 長さ [12.02] × 幅 0.79 ~ 1.70 × 深さ 0.41 ~ 0.68	T字形・逆台形	
SD25	E340 ~ 350・N280 ~ 300	N-1°-E	長さ [3.10] × 幅 0.50 ~ 1.10 × 深さ 0.25 ~ 0.35	ほぼ直線・逆台形	
SD26	E350・N290	N-39°-W	長さ 0.63 × 幅 0.19 ~ 0.25 × 深さ 0.11 ~ 0.17	ほぼ直線・箱形	
SD27	E330・N300	南北	長さ [3.25] × 幅 [0.22] × 深さ 0.22	(ほぼ直線)・不明	
SD38	E330・N300	N-79°-E	長さ 0.62 × 幅 0.23 ~ 0.27 × 深さ 0.22	ほぼ直線・逆台形	
SD43	E330・N290	ほぼ東西	長さ [0.43] × 幅 0.55 × 深さ 0.29	不明・逆台形	
SD48	E320 ~ 330・N290	N-36°-E	長さ [1.14] × 幅 0.37 ~ 0.42 × 深さ 0.08	わずかに弧状・逆台形	
SD76	E340・N290	N-36°-E	長さ [4.12] × 幅 0.62 ~ 0.75 × 深さ 0.18 ~ 0.26	わずかに弧状・逆台形	
SD77	E350・N300	N-21°-E	長さ [0.4] × 幅 0.28 ~ 0.35 × 深さ 0.13	不明・逆台形	
SD78	E340・N290	N-55°-W	長さ [0.45] × 幅 0.20 ~ 0.25 × 深さ 0.08	不明・箱形	
SD79	E320・N300	N-3°-W	長さ [0.75] × 幅 0.25 ~ 0.29 × 深さ 0.08	直線・逆台形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模(m)	平面形・断面形	時 期
I -1	E320・N300	N-84°-E	長さ [0.85] × 幅 0.21 ~ 0.22 × 深さ 0.12	直線・U字形	
I -2	E320・N300	東西	長さ [0.65] × 幅 0.29 ~ 0.34 × 深さ 0.04	直線・U字形	
I -3	E320・N300	N-74°-E	長さ [0.89] × 幅 0.22 ~ 0.28 × 深さ 0.16 ~ 0.22	直線・U字形	
I -4	E320・N290	N-86°-E	長さ [1.60] × 幅 0.08 ~ 0.23 × 深さ 0.03 ~ 0.08	直線・U字形	
I -5	E330・N290	N-88°-E	長さ [4.09] × 幅 0.25 ~ 0.38 × 深さ 0.06 ~ 0.11	直線・U字形	
II -1	E320・N290	N-25°-W	長さ [1.95] × 幅 0.17 ~ 0.25 × 深さ 0.07 ~ 0.10	緩く蛇行・U字形	
II -2	E320・N290	N-19°-W	長さ [4.08] × 幅 0.22 ~ 0.32 × 深さ 0.11	ほぼ直線・U字形	
II -3	E330・N290	N-19°-W	長さ [6.28] × 幅 0.21 ~ 0.31 × 深さ 0.09	ほぼ直線・U字形	
II -3	E320・N300	N-15°-W	長さ [3.79] × 幅 0.23 ~ 0.31 × 深さ 0.09	ほぼ直線・U字形	
II -4	E330・N300	N-16°-W	長さ [2.20] × 幅 0.25 ~ 0.32 × 深さ 0.11	ほぼ直線・U字形	
II -5	E320・N290	N-16°-W	長さ [2.07] × 幅 0.17 ~ 0.25 × 深さ 0.07	ほぼ直線・U字形	
II -6	E320・N290	N-13°-W	長さ [2.75] × 幅 0.23 ~ 0.33 × 深さ 0.07 ~ 0.13	ほぼ直線・U字形	
II -7	E320・N290	N-19°-W	長さ [5.45] × 幅 0.21 ~ 0.28 × 深さ 0.07	ほぼ直線・U字形	
II -8	E330・N300	N-3°-W	長さ [3.38] × 幅 0.17 ~ 0.25 × 深さ 0.09 ~ 0.15	直線・U字形	
III -1	E330・N300	N-21°-W	長さ [4.38] × 幅 0.20 ~ 0.30 × 深さ 0.06 ~ 0.09	弧状・U字形	
III -2	E330・N300	N-23°-W	長さ [2.46] × 幅 0.22 ~ 0.32 × 深さ 0.07	弧状・U字形	

# **大野田遺跡写真図版**

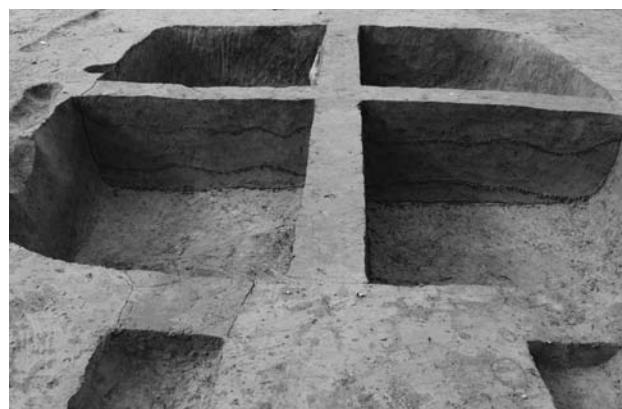




1区東区V層全景（東より）



1区東区V層SI1（北より）



1区東区V層SI1断面（東より）



1区東区V層SD2（西より）



1区西区西端部IV層遺構検出状況（南より）



1区西区IV層SK49（南東より）

写真図版1 大野田遺跡（1）

## 第2節 大野田遺跡



1区西区IV層SK81（南東より）



1区西区IV層SD32断面（東より）



1区西区V層SD24・25・76（東より）



1区西区V層SD24・25・76（南西より）



1区西区V層SD24（南より）



1区西区V層SD24断面A（南より）

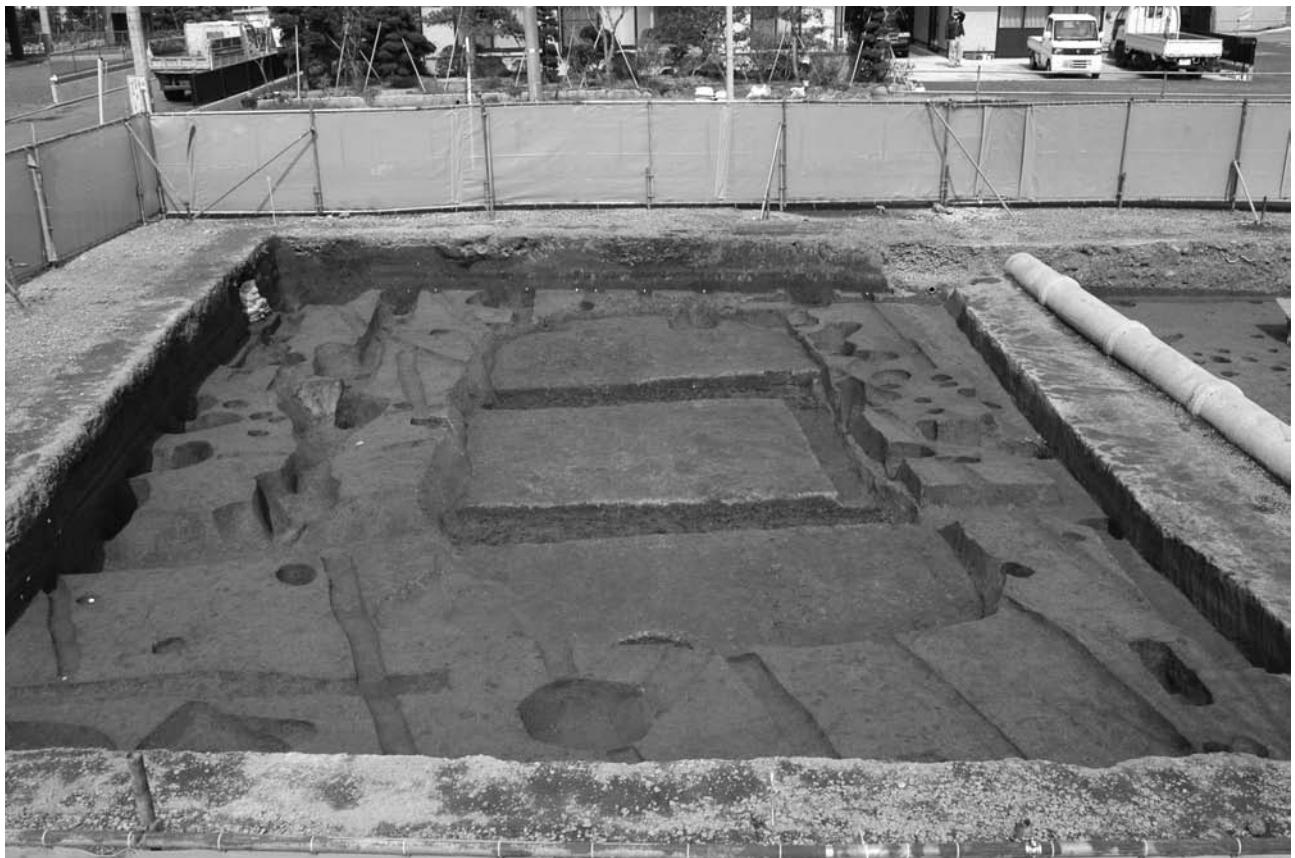


1区西区V層SD24断面B（北より）

写真図版2 大野田遺跡（2）



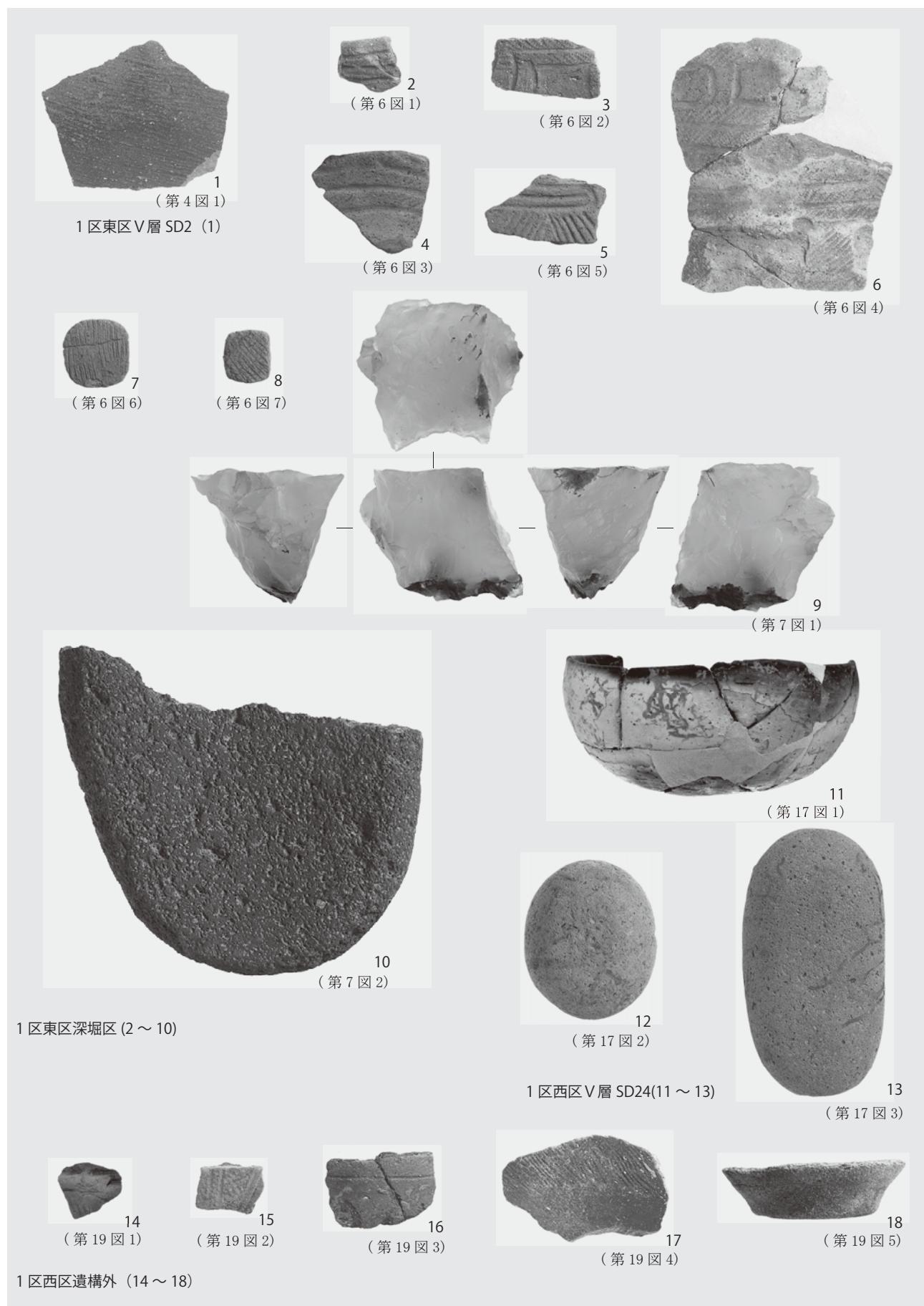
1区西区東半部V層全景（南より）



1区西区V層西半部全景（南より）

写真図版3 大野田遺跡（3）

## 第2節 大野田遺跡



写真図版4 大野田遺跡出土遺物

## 第3節 元袋遺跡

### 1. 調査要項

(1) 遺跡名：元袋遺跡（宮城県遺跡登録番号 01179）

(2) 所在地：仙台市太白区大野田字元袋

(3) 調査面積：約 122m<sup>2</sup> (3 A・3 B区)

(4) 調査主体：仙台市教育委員会

(5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課

(6) 担当職員：小泉博明・廣瀬真理子

(7) 調査期間

（野外調査）：平成 20 年 6 月 10 日～12 月 10 日

（整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。

・平成 22 年度：平成 22 年 10 月 8 日～平成 23 年 3 月 31 日

・平成 23 年度：平成 23 年 9 月 22 日～平成 24 年 3 月 30 日

・平成 24 年度：平成 24 年 6 月 21 日～平成 25 年 3 月 29 日

### 2. 3 A 区の調査

3 A 区では基本層 V 層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑 3 基、河川跡 1 条、ピット 1 基を検出した。

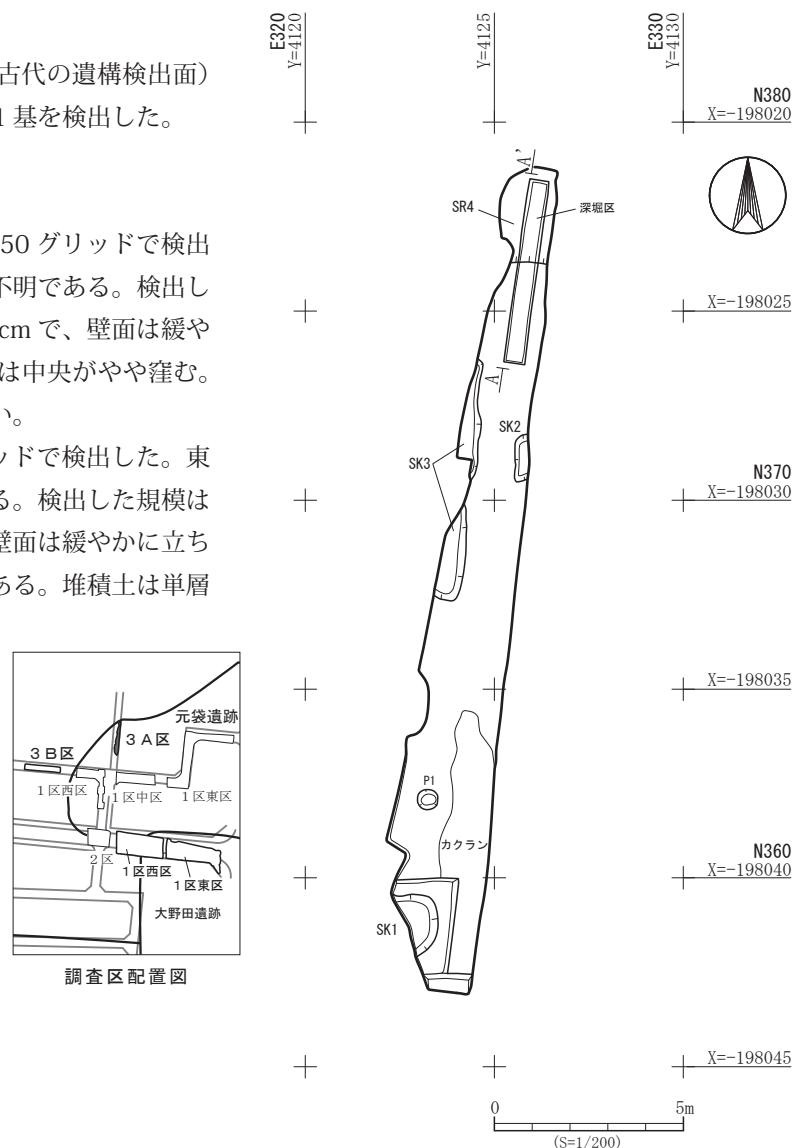
#### （1）V 層上面の遺構（第 1 図・図版 1）

##### 1) 土坑

**SK1 土坑**（第 2 図、図版 1）E320・N350 グリッドで検出した。西側の調査区外へ延びる。平面形は不明である。検出した規模は東西 68cm、南北 1.48m、深さ 30cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は中央がやや窪む。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

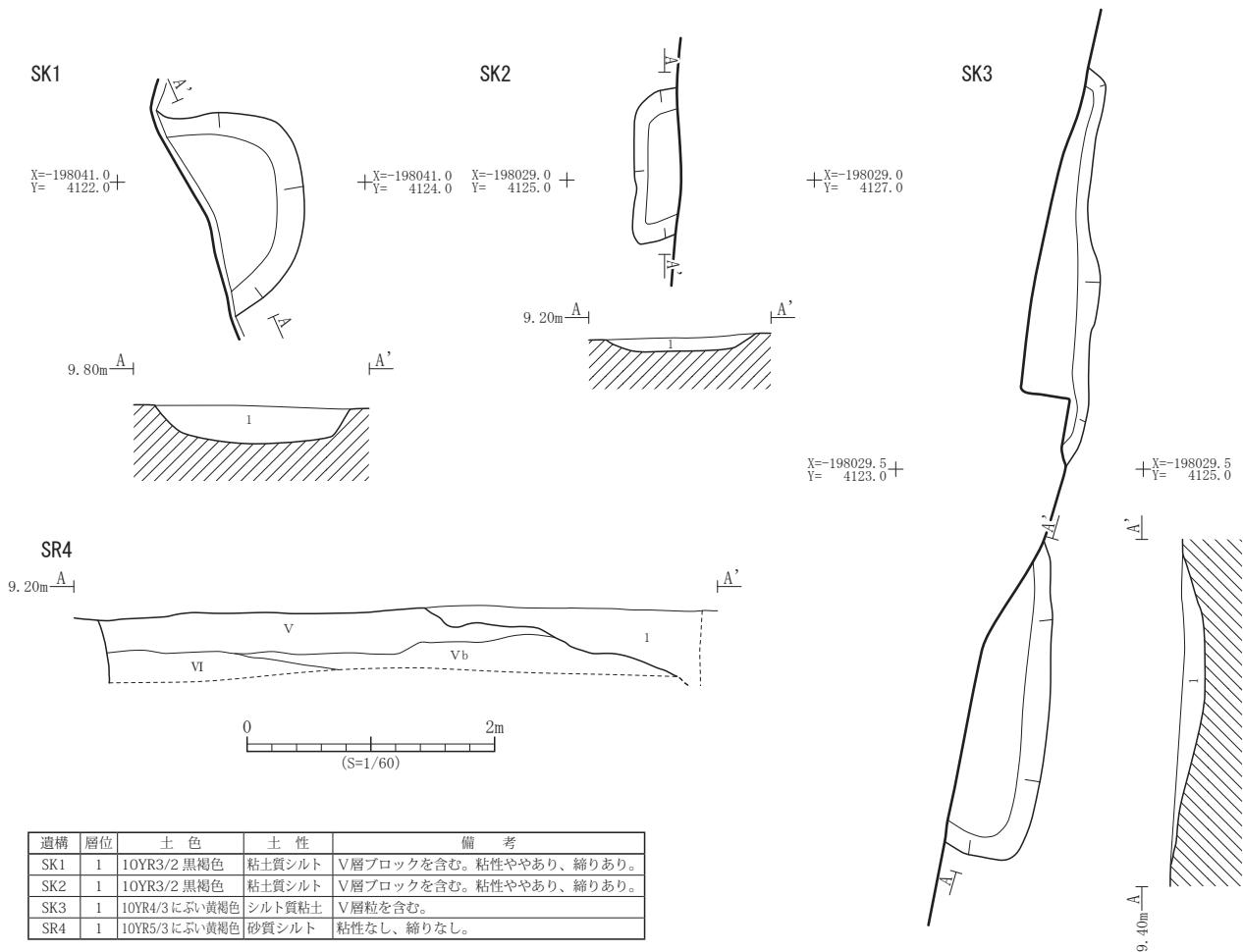
**SK2 土坑**（第 2 図）E320・N370 グリッドで検出した。東側の調査区外へ延びる。平面形は不明である。検出した規模は東西 37cm、南北 1.20m、深さ 10cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

**SK3 土坑**（第 2 図）E320・N360～370 グリッドで検出した。西側の調査区外へ延びる。平面形は不明である。検出した規模は東西 58cm、南北 6.42m、深さ 19cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第 1 図 元袋遺跡 3 A 区 V 層遺構配置図

### 第3節 元袋遺跡3B区



第2図 SK1～3土坑平面図・断面図、SR4河川跡断面図

#### 2) 河川跡

SR4 河川跡（第1・2図） E320・N370 グリッドで検出した。方向は概ね東西方向で、検出した規模は東西 1.42m、南北 2.52m で、検出面から深さ 70cm まで掘り下げを行った。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

#### 3) ピット（第1図）

1基（P1）検出した。遺物は出土していない。

### 2.3 B区の調査

3B区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡1軒、土坑1基、性格不明遺構1基、溝跡4条、ピット10基を検出した。ピットは建物跡等の組み合わせを検討したが、明瞭なものは確認されなかった。

#### (1) V層上面の遺構と遺物（第3図、図版1）

##### 1) 竪穴住居跡

###### SI1 竪穴住居跡（第4・5図、図版1・2）

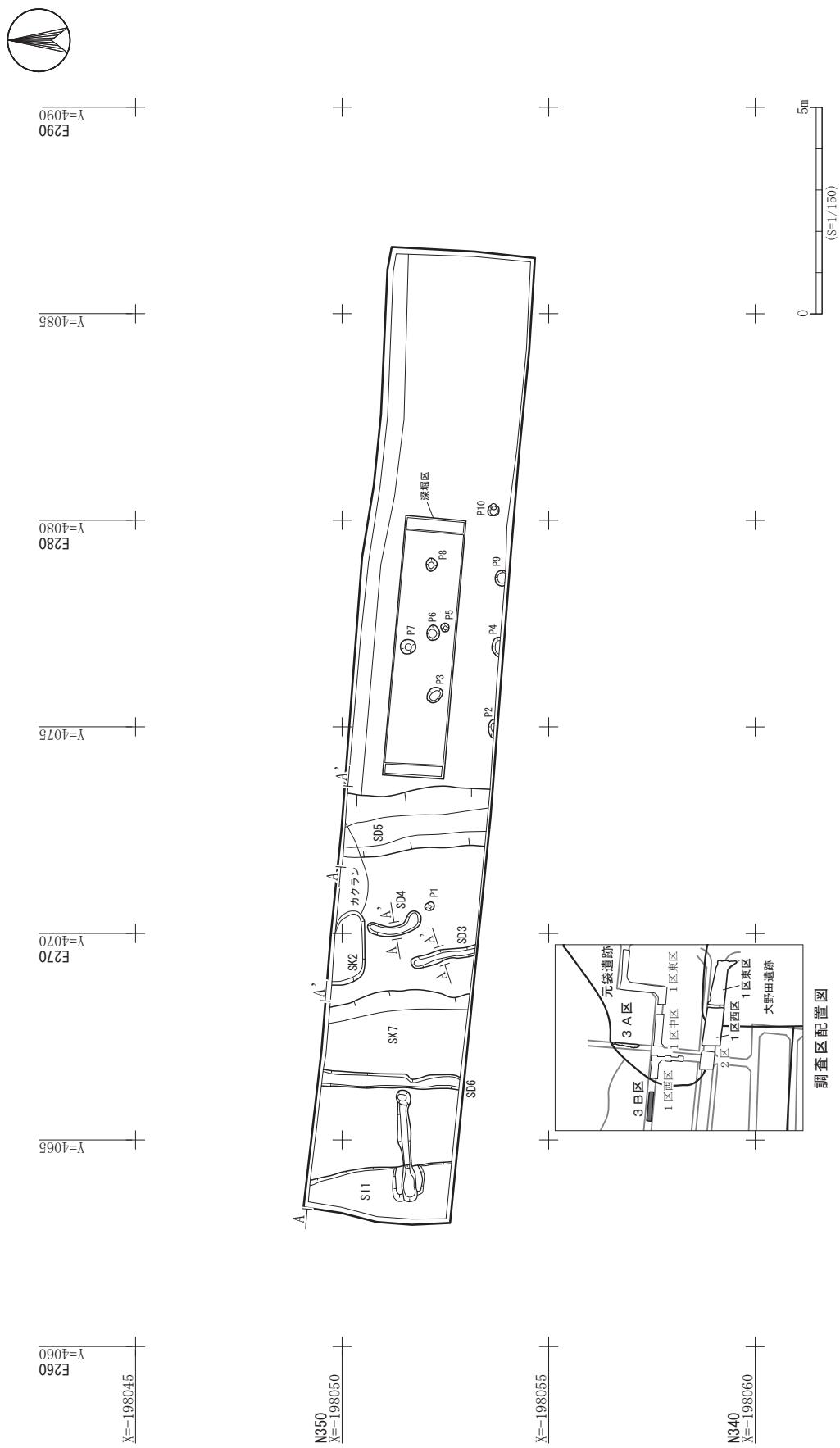
[位置] E260・N340～350 グリッドで検出した。検出したのは東壁の一部のみであり、大部分が調査区外に延びる。

[重複関係] SX7 と重複関係にあり、本遺構が新しい。

[規模・形態] 検出した規模は東西 1.36m、南北 3.44m で、平面形は方形を基調としたものと考えられる。周溝や柱穴は検出されていない。

[主軸方位] カマド基準で N-86°-E である。

[堆積土・構築土] 8層に分層した。1層は住居跡堆積土、2～7層はカマド関連層位、8層は掘り方埋土である。



第3図 元袋遺跡3B区V層遺構配置図  
調査区配置図

### 第3節 元袋遺跡 3B区

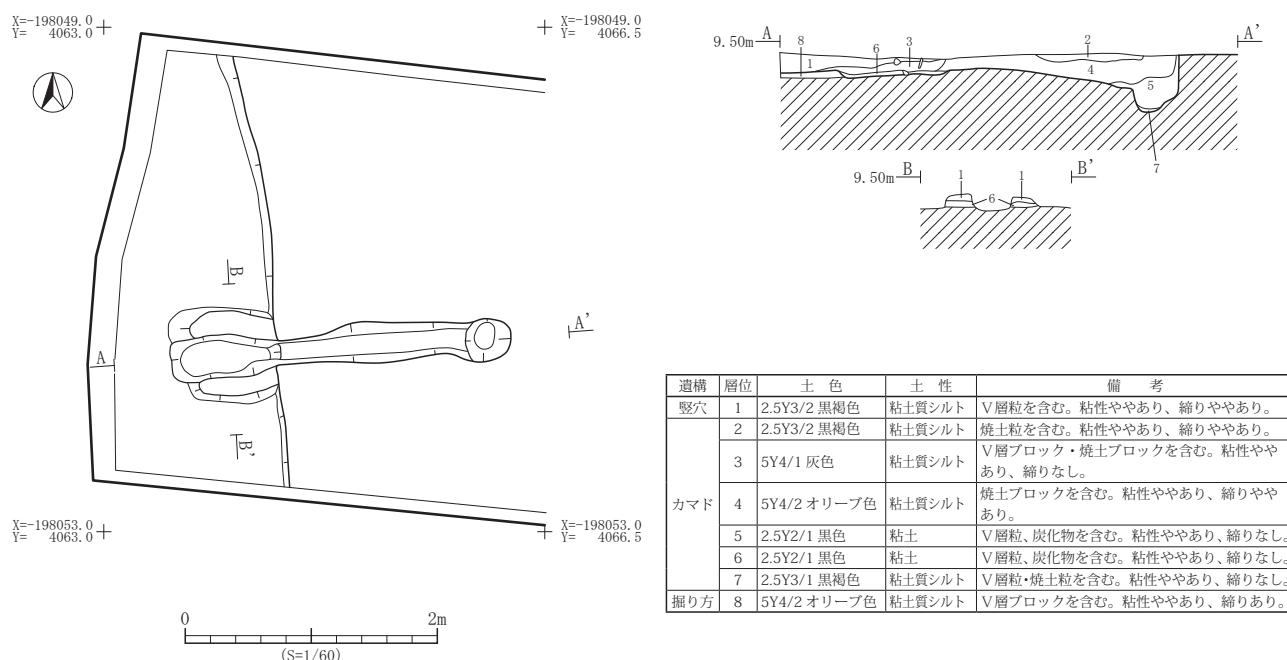
[壁面] 床面から急角度で立ち上がり、壁高は西壁で床面から 22cm である。

[床面] 8 層上面を床面としている。

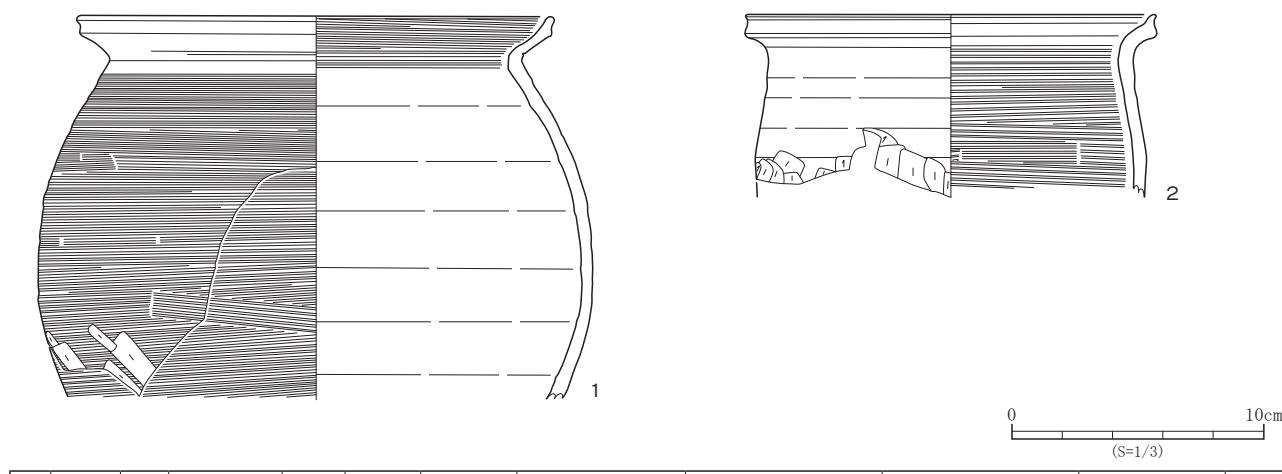
[カマド] 東壁に付設されている。両袖部は壁面から並行して延び、北側袖部は長さ 75cm、幅 24cm、床面からの高さ 11cm、南側袖部は長さ 76cm、幅 13 ~ 21cm、床面からの高さ 10cm である。燃焼部は奥行き 87cm、幅 36cm を測る。煙道部は長さ 1.83m、幅 20 ~ 34cm、深さ 10 ~ 46cm で、底面は煙出し部に向かって緩やかに傾斜する。煙出し部は煙道部底面から直径 35cm、深さ 19cm のピット状に落ち込み、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[掘り方] 深さ 5cm で、検出した部分において底面は概ね平坦である。

[出土遺物] 堆積土から土師器、須恵器片が出土しており、そのうち土師器 2 点を第 5 図に図示した。1・2 は共に 1 層から出土した口クロ整形の土師器甕である。これらの土師器の特徴や出土層位から、本住居跡の年代は 9 ~ 10 世紀代と考えられる。



第4図 S I 1 竪穴住居跡平面図・断面図

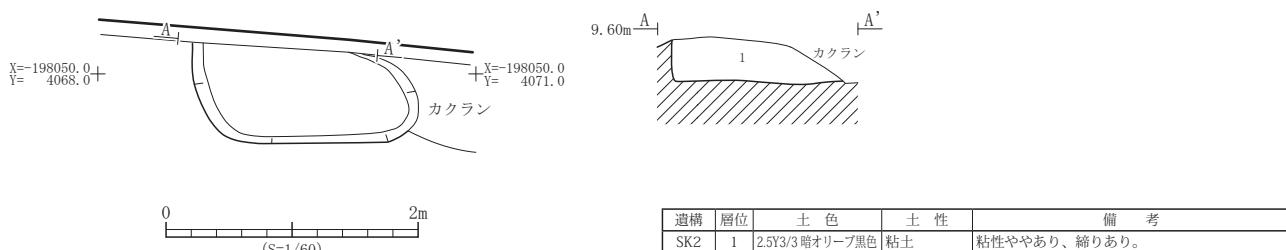


No.	登録番号	区	出土遺構	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外調整	内調整	備考	写真図版
1	D-1	3B	SI1	1	土師器	甕	(19.0) × - × 現 15.2	口クロナデ・回転ハケメ・ヘラケズリ	口クロナデ・回転ハケメ		2-1
2	D-2	3B	SI1	1	土師器	甕	(16.2) × - × 現 7.2	口クロナデ・ヘラケズリ	口クロナデ・回転ハケメ		2-2

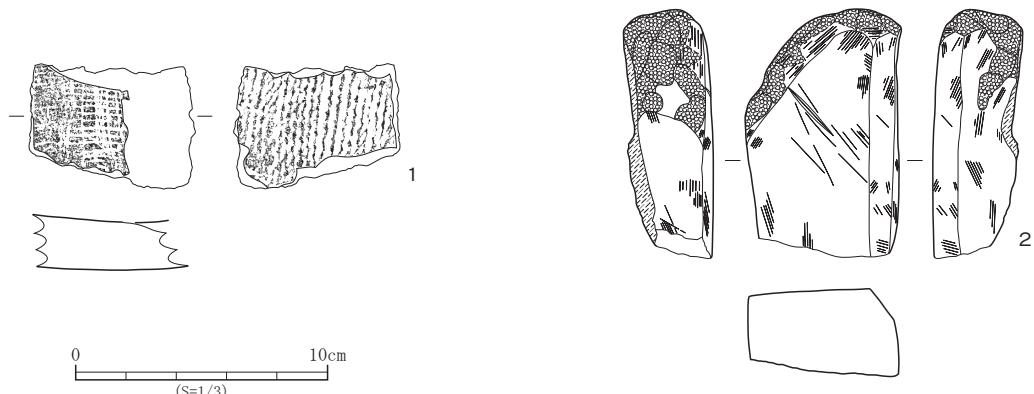
第5図 S I 1 竪穴住居跡出土遺物

## 2) 土坑

**SK2 土坑** (第6・7図、図版2) E260～270・N340～350 グリッドで検出した。北側の調査区外へ延び、東側は搅乱により削平されているが、平面形は不整長方形と推定される。検出した規模は東西 1.74m、南北 78cm、深さ 33cm で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はやや起伏がみられる。堆積土は単層である。遺物は堆積土から弥生土器、土師器、須恵器等が出土し、そのうち瓦と石製品各 1 点を第7図に図示した。1 は凹面に布目痕、凸面に縄タタキ目のある平瓦片である。2 は面取り加工された砥石である。広範囲に砥面よりも新しい敲打痕が観察されることから、敲石に転用されたものと考えられる。



第6図 SK2 土坑平面図・断面図

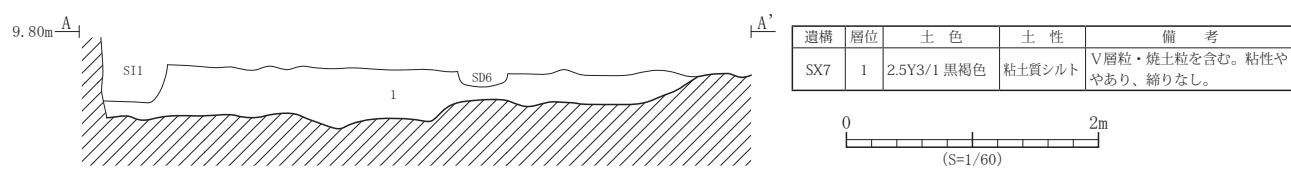


No.	登録番号	区	出土遺構	層位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	凹面調整	凸面調整	備考	写真図版
1	G-1	3B	SK2	1	瓦	平瓦	(4.9) × (6.5) × 2.0	布目痕	縦位縄叩き		2-3
2	Kd-a-1	3B	SK2	1	石製品	砥石	砂質凝灰岩	長さ×幅×厚さ(cm) (9.8) × 6.1 × (3.4)	重さ(g) (302.04)	砥面 4 面、下部欠損、敲石に転用。	写真図版 2-4

第7図 SK2 土坑出土遺物

## 3) 性格不明遺構

**SX7 性格不明遺構** (第8図) E260・N340～350 グリッドで検出した。検出したのは東側の一部のみであり、大部分は調査区外へ延びる。SI1、SD6 と重複し、本遺構が古い。平面形は不明である。検出した規模は東西 4.71m、南北 3.53m、深さ 21～48cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は不整形で、底面は起伏がみられる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第8図 SX7 性格不明遺構断面図

### 第3節 元袋遺跡3B区

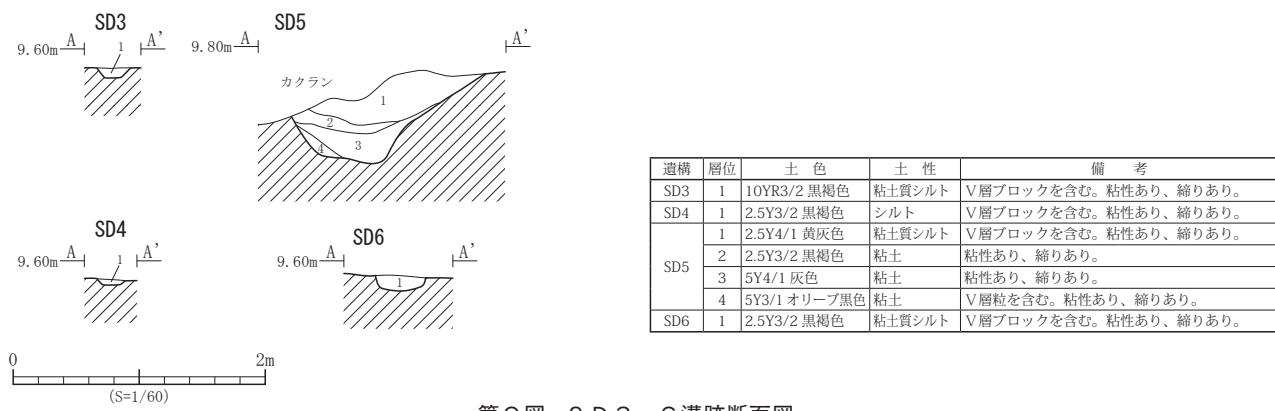
#### 4) 溝跡

SD3 溝跡（第3・9図） E260・N340 グリッドで検出した。南側の調査区外へ延びる。方向は N-11° -W で、検出長 1.53m、幅 22～28cm、深さ 9～14cm である。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD4 溝跡（第3・9図） E270・N340 グリッドで検出した。方向は N-10° -E ～ N-45° -W で、弧状に延びる。長さ 1.42m、幅 22～37cm、深さ 5cm である。断面形は逆台形状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD5 溝跡（第3・9図、図版2） E270・N340～350 グリッドで検出した。南北の調査区外へ延び、北側の一部を搅乱に削平されている。方向は N-4° -W で、検出長 3.45m、幅 1.40～1.52m、深さ 70cm である。断面形は逆台形状である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土から口クロ整形の土師器壺・甕の小破片が出土している。

SD6 溝跡（第3・9図） E260・N340～350 グリッドで検出した。南北の調査区外へ延びる。SX7と重複し、本遺構が新しい。方向は N-5° -E で、検出長 3.32m、幅 14～39cm、深さ 12cm である。断面形はU字状である。



第9図 SD3～6 溝跡断面図

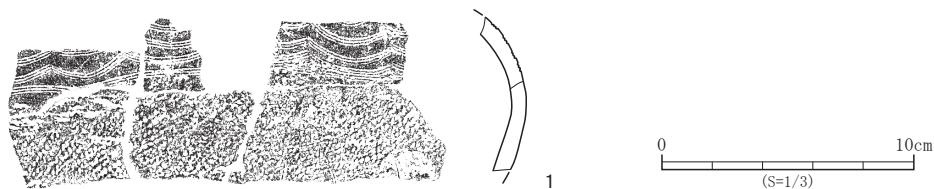
堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器の小破片が出土している。

#### 5) ピット（第3図）

10基のピット（P1～10）を検出した。調査区中央の E270・N340 グリッドに分布している。遺物は P3・6 から非口クロ整形の土師器小破片が出土している。

#### （2）遺構外出土遺物（第10図、図版2）

基本層 I 層より出土した弥生土器 1 点を図示した。壺の胴部破片である。3本一描の沈線で連弧文が施文されている。



第10図 遺構外出土遺物

### 3.まとめ

元袋遺跡は、仙台市太白区大野田字元袋にあり、自然堤防に立地する縄文時代～近世の遺跡である。平成20年度に約122m<sup>2</sup>の調査を行い、古代の遺構群を検出した。

#### (1) 遺構について

1) 古代の遺構は基本層V層上面で検出された。

3 A区—土坑3基、河川跡1条、ピット1基

3 B区—竪穴住居跡1軒、土坑1基、性格不明遺構1基、溝跡4条、ピット10基

#### (2) 遺物について

元袋遺跡からの出土遺物は平箱2箱である。全体として小破片が多く、図化できる遺物は少ない。

##### 1) 弥生時代

3 B区I層から中期後葉の壺が出土している。

##### 2) 古代

3 B区V層上面検出遺構から土師器が出土しているほか、遺構外から須恵器片が出土している。

第1表 遺構一覧表

3 A区V層

土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規模(cm)	平面形・断面形	時期
SK1	E320・N350	-	東西[68]×南北[148]×深さ30	不明・逆台形	
SK2	E320・N370	-	東西[37]×南北[120]×深さ10	不明・逆台形	
SK3	E320・N360～370	-	東西[58]×南北[642]×深さ19	不明・逆台形状	

河川跡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SR4	E320・N370	東西	東西[1.42]×南北[2.52]×深さ[0.70]	不明	

3 B区V層

竪穴住居跡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	カマド	時期
S11	E260・N350～360	N-86°-E	東西[1.36]×南北[3.44]	東壁	9～10世紀代

土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規模(cm)	平面形・断面形	時期
SK2	E260～270・N340～350	-	東西[174]×南北[78]×深さ33	(不整形)・箱型	

性格不明遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SX7	E260・N340～350	-	東西[4.71]×南北[3.53]×深さ0.21～0.48	不明・起伏あり。	

溝跡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SD3	E260・N340	N-11°-W	長さ[1.53]×幅0.22～0.28×深さ0.09～0.14	緩く蛇行・逆台形	
SD4	E260～270・N340	N-10°-E N-45°-W	長さ1.42×幅0.22～0.37×深さ0.05	弧・逆台形	
SD5	E270・N340	N-4°-W	長さ[3.45]×幅1.40～1.52×深さ0.73	緩く蛇行・逆台形状	
SD6	E260・N340～350	N-5°-E	長さ[3.32]×幅0.14～0.39×深さ0.12	ほぼ直線・U字状	



# 元袋遺跡写真図版





3 A 区 V 層全景（南より）



3 A 区 V 層SK1（東より）



3 B 区 V 層SI1（西より）



3 B 区 V 層全景（西より）



3 B 区 V 層SI1 遺物出土状況（東より）



3 B 区 V 層SI1 カマド袖断面（西より）

写真図版 1 元袋遺跡（1）

### 第3節 元袋遺跡



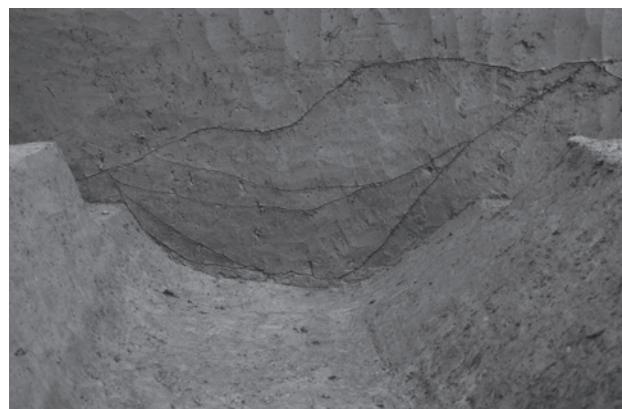
3B区V層SI1 煙道断面（南西より）



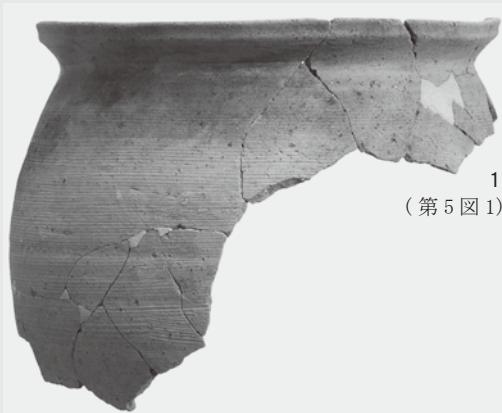
3B区V層SK2（南東より）



3B区V層SD5（南より）



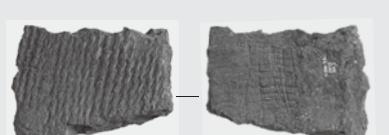
3B区V層SD5断面（南より）



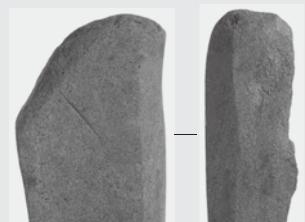
1  
(第5図1)



2  
(第5図2)



3  
(第7図1)



4  
(第7図2)



5  
(第10図1)

3B区出土遺物

写真図版2 元袋遺跡（2）

## 第4節 伊古田遺跡

### 1. 調査要項

(1) 遺跡名：伊古田遺跡（宮城県遺跡登録番号 01191）

(2) 所在地：仙台市太白区大野田字塚田

(3) 調査面積：約 253m<sup>2</sup> (3 区)

(4) 調査主体：仙台市教育委員会

(5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課

(6) 担当職員：廣瀬真理子

(7) 調査期間

（野外調査）：平成 21 年 7 月 13 日～9 月 9 日

（整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。

- ・平成 22 年度：平成 22 年 10 月 8 日～平成 23 年 3 月 31 日

- ・平成 23 年度：平成 23 年 9 月 22 日～平成 24 年 3 月 30 日

- ・平成 24 年度：平成 24 年 6 月 21 日～平成 25 年 3 月 29 日

### 2. 3 区の調査

3 区では、基本層Ⅲ層上面（古代以降の遺構検出面）において、土坑 1 基、性格不明遺構 1 基、溝跡 1 条、ピット 22 基を検出した。IV 層上面（古代の遺構検出面）において、竪穴遺構 1 基、土坑 1 基、溝跡 2 条、小溝状遺構群 1 群、ピット 31 基を検出した。V 層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡 2 軒、溝跡 2 条、ピット 105 基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

#### （1）Ⅲ層検出の遺構と遺物（第 1 図、図版 1）

##### 1) 土坑

**SK3 土坑**（第 2 図、図版 1）W190・S190 グリッドで検出した。P22 と重複関係にあり、本遺構が古い。南側の調査区外へ延びる。平面形は隅丸の方形を基調としたものと考えられる。長軸方向は不明である。検出した規模は東西 1.05m、南北 53cm、深さ 14cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

##### 2) 性格不明遺構

**SX2 性格不明遺構**（第 3 図、図版 1）W180～190・S190 グリッドで検出した。北側の調査区外へ延びる。P16 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向は N-47°-W である。検出した規模は長軸 3.07m、短軸 2.12m、深さ 31cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、南東側はテラス状に高まる。底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

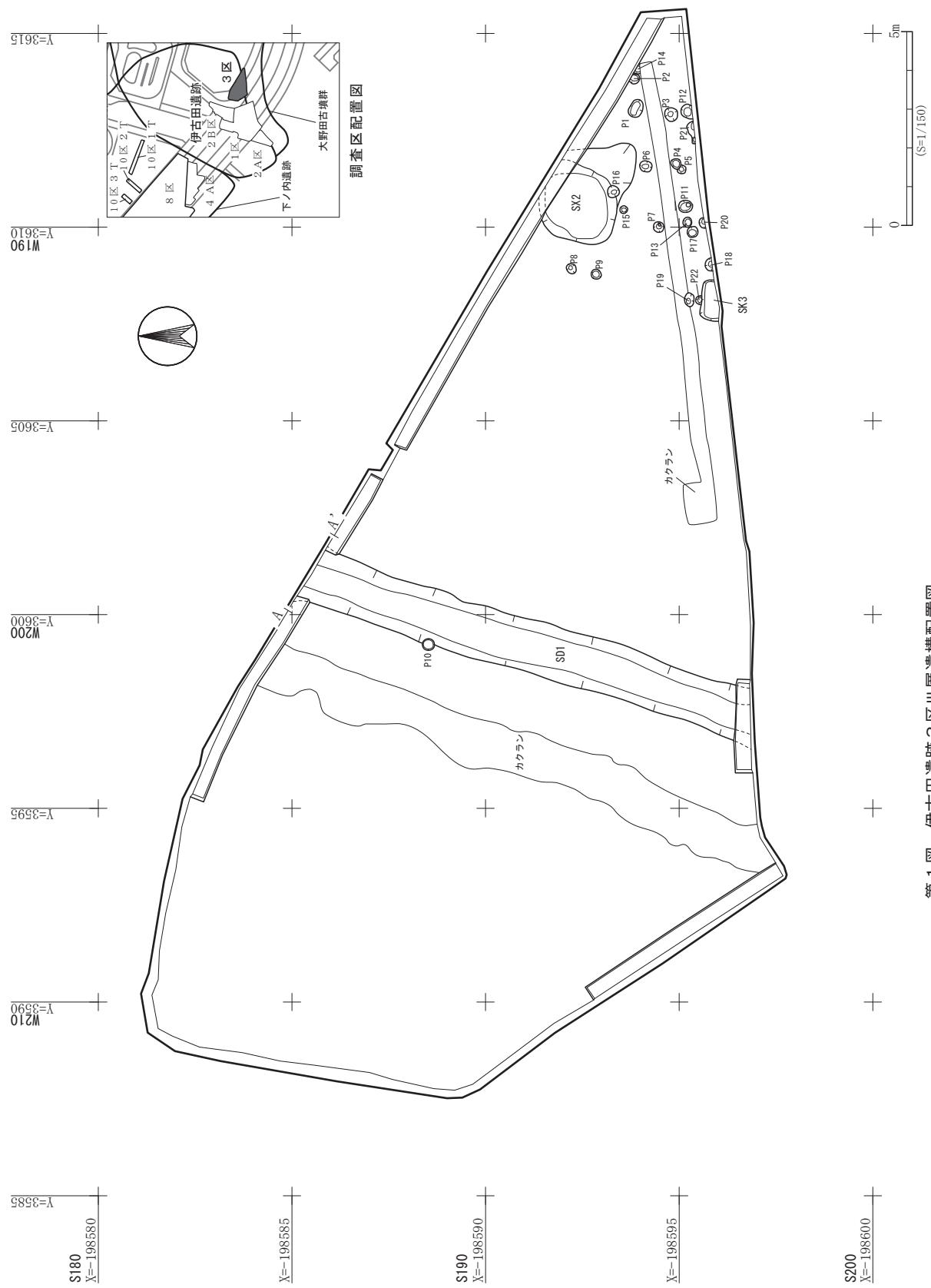
##### 3) 溝跡

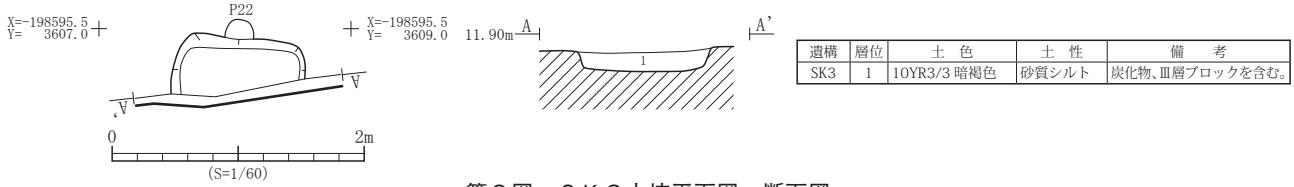
**SD1 溝跡**（第 1・4 図、図版 1）W180～190・S190～200 グリッドで検出した。P10 と重複関係にあり、本遺構が古い。南北両側の調査区外へ延びる。方向は N-18°-E で、検出長 11.88 m、幅 1.18～1.45 m、深さ 68cm である。断面形は概ね逆台形である。堆積土は 4 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片、須恵器片が出土している。

##### 4) ピット（第 1 図）

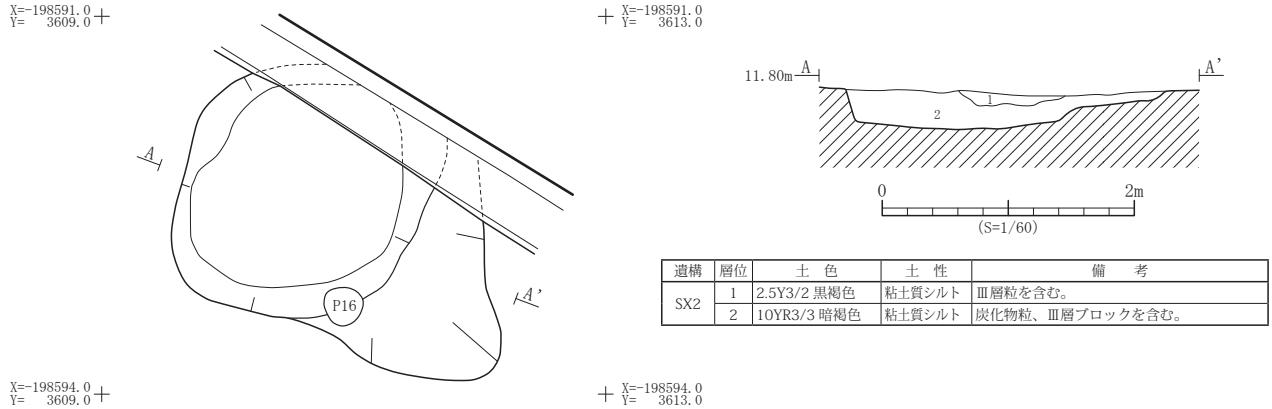
22 基のピット（P1～22）を検出した。調査区東側に偏って分布する。遺物は P3・7・11・19 から土師器片が出土している。

#### 第4節 伊古田遺跡3区

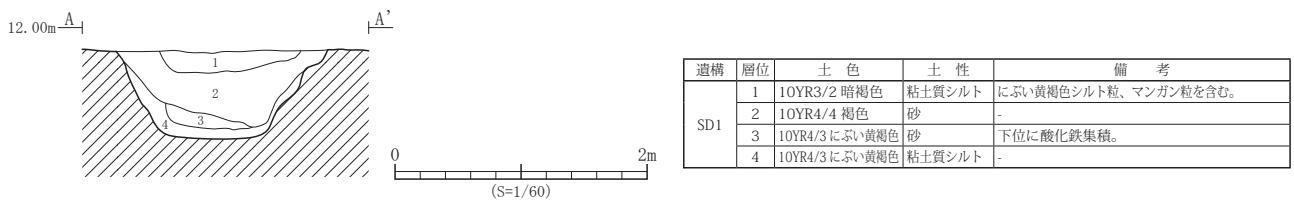




第2図 SK3 土坑平面図・断面図



第3図 SX2 性格不明遺構平面図・断面図



第4図 SD1 溝跡断面図

## (2) IV層検出の遺構と遺物 (第5図、図版2)

## 1) 穫穴遺構

## SI4 穫穴遺構 (第6図、図版3)

[位置] W190・S190 グリッドに位置する。

[重複関係] SK7 と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、南側コーナーを搅乱により削平されている。

[規模・形態] 東西 2.96m、南北 2.60m である。平面形は方形である。周溝・カマドは検出していない。

[主軸方位] 東壁基準で N-14°-E である。

[堆積土] 4 層に分層した。1～3 層は遺構堆積土、4 層は掘り方埋土である。

[壁面] 急角度に立ち上がる箇所と緩やかに立ち上がる箇所がある。壁高は床面から 16cm である。

[底面] 起伏がみられる。4 層上面を底面としている。底面でピットを 2 基 (P1・2) 検出した。規模はいずれも径 25cm、深さ 20cm である。

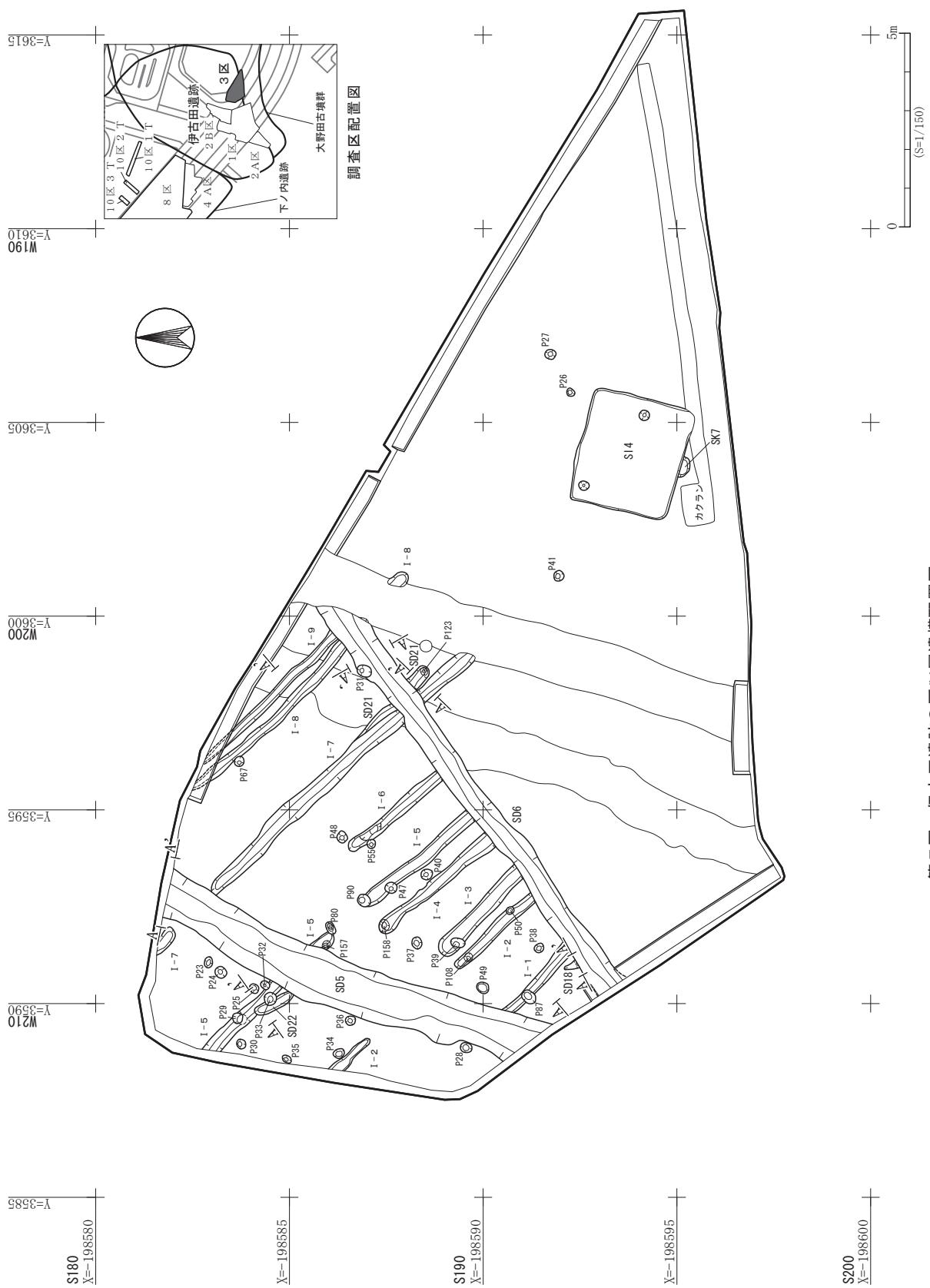
[掘り方] 深さ 3～8cm である。底面はわずかな起伏がみられる。

[出土遺物] 掘り方埋土から土師器片が出土している。

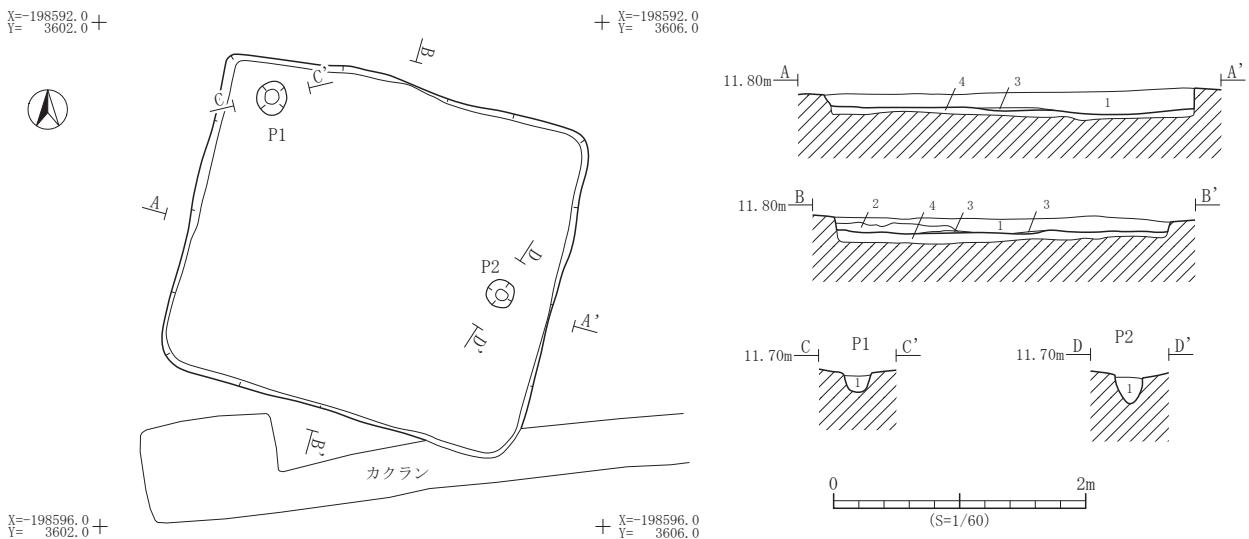
## 2) 土坑

SK7 土坑 (第7図) W190・S200 グリッドで検出した。SI4 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は円形を基調としたものと考えられる。検出した規模は東西 54cm、南北 23cm、深さ 21cm で、壁面は底面から緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

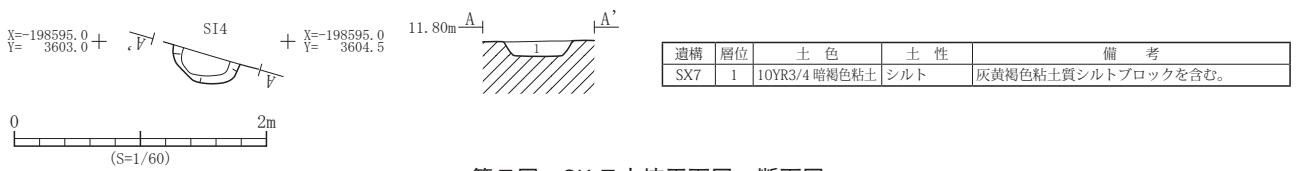
#### 第4節 伊古田遺跡3区



第5図 伊古田遺跡3区IV層遺構配置図



第6図 SI 4 穫穴遺構平面図・断面図



第7図 SK 7 土坑平面図・断面図

### 3) 溝跡

**SD5 溝跡** (第5・8図、図版3) W200～210・S190～200 グリッドで検出した。本遺跡1区IV層SD8もしくは20と同一の溝跡であるが、SD8・20は掘り直しの溝跡であり、このどちらであるかは不明である。SD22、小溝状遺構I-1・5・7と重複関係にあり、本遺構が新しい。南北両側は調査区外へ延び、南側は1区SD8もしくは20と連続する。方向はN-22°-Eで、検出長10.00m、幅1.03～1.43m、深さ47cmである。断面形は概ねU字形である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

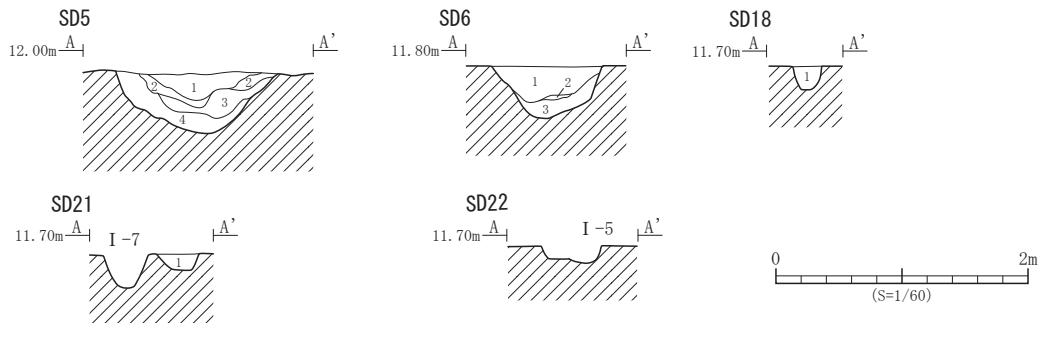
**SD6 溝跡** (第5・8図、図版3) W190～210・S190～210 グリッドで検出した。北東・南西両側の調査区外へ延びる。SD18・21、小溝状遺構I群、P38と重複関係にあり、SD18・21、小溝状遺構I群より新しく、P38より古い。方向はN-53°-Eで、検出長19.96m、幅61～85cm、深さ42cmである。断面形は逆台形状である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

**SD18 溝跡** (第5・8図) W200・S190 グリッドで検出した。SD6と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-18°-Eで、検出長36cm、幅26cm、深さ18cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

**SD21 溝跡** (第5・8図) W200・S180 グリッドで検出した。SD26、小溝状遺構I-7と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-51°-Wで、検出長2.56m、幅34cm、深さ21cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

**SD22 溝跡** (第5・8図) W200～210・S180 グリッドで検出した。SD5、小溝状遺構I-5、P33と重複関係にあり、小溝状遺構I-5より新しく、SD5、P33より古い。方向はN-27°-Wで、検出長1.07m、幅29cm、深さ18cmである。断面形は逆台形である。遺物は出土していない。

#### 第4節 伊古田遺跡3区



遺構	層位	土色	土性	備考
SD5	1	10YR3/4 暗褐色	砂	-
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	灰白色火山灰を含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	灰白色火山灰を含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	-

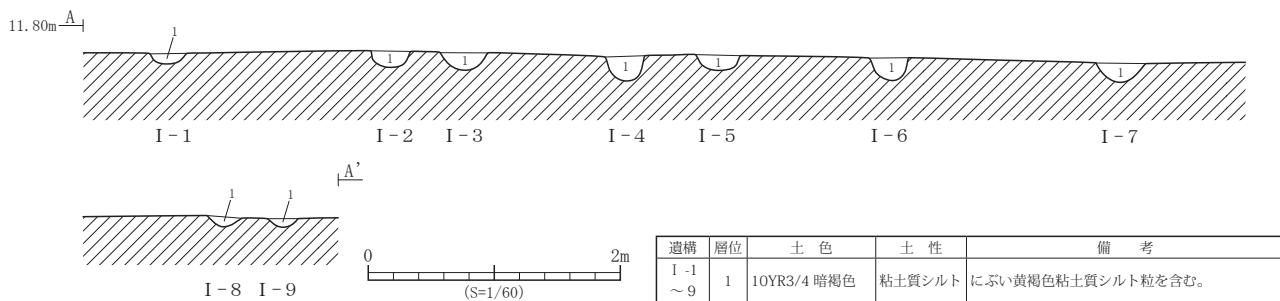
遺構	層位	土色	土性	備考
SD6	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	砂を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	-
	3	10YR3/4 暗褐色	砂	-
SD18	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト粒を含む。
SD21	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト粒を含む。

第8図 S D 5 · 6 · 18 · 21 · 22 溝跡断面図

#### 4) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、1群を検出した。

I群（第5・9図）W180～210・S180～190グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、9条の小溝で構成される。方向はN-40°～47°-Wで、検出長2.17～10.25m、幅23～54cm、深さ6～20cmである。小溝の間隔は、0.10～2.10mである。堆積土は単層である。遺物はI-1～3・5・7・8から土師器片が出土している。



第9図 小溝状遺構群断面図

#### 5) ピット（第1図）

31基のピット（P23～41・47～50・55・67・80・87・90・108・123・129）を検出した。調査区西側に大部分が分布する。遺物は出土していない。

##### (3) V層検出の遺構と遺物（第5図、図版2）

###### 1) 壇穴住居跡

###### SI8 壇穴住居跡（第11～13図、図版5・7）

[位置] W190～200・S180～190グリッドに位置する。南側の調査区外へ延びる。

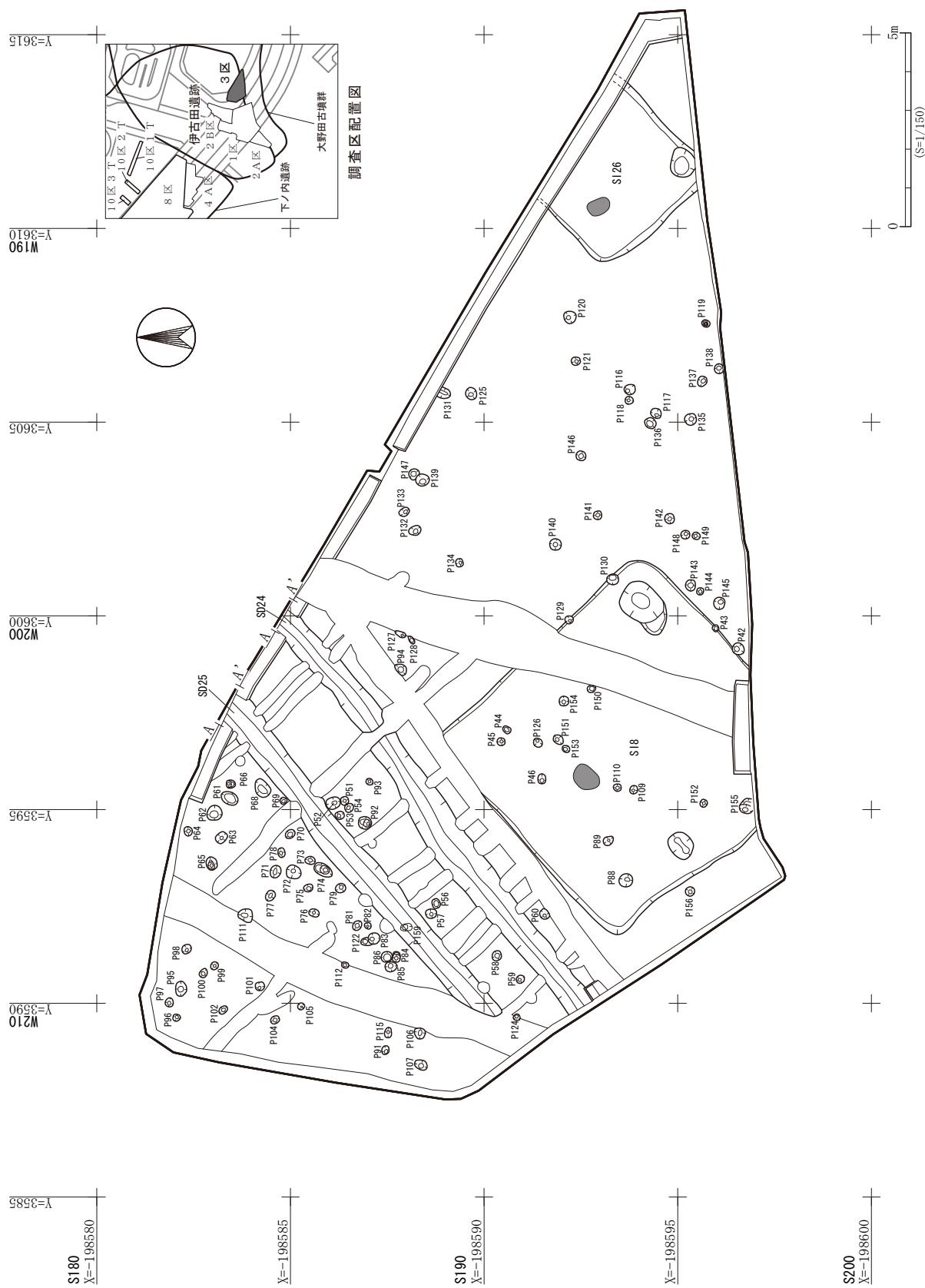
[重複関係] P42～46・88・89・109・110・126・129・130・150～155と重複関係にあり、本遺構が古い。また、上層の遺構により、中央東側および北西壁北側を削平される。

[規模・形態] 北西-南東7.34m、北東-南西7.02mである。平面形は、隅丸方形である。周溝・柱穴は検出されていない。

[主軸方位] 北東壁基準でN-43°-Wである。

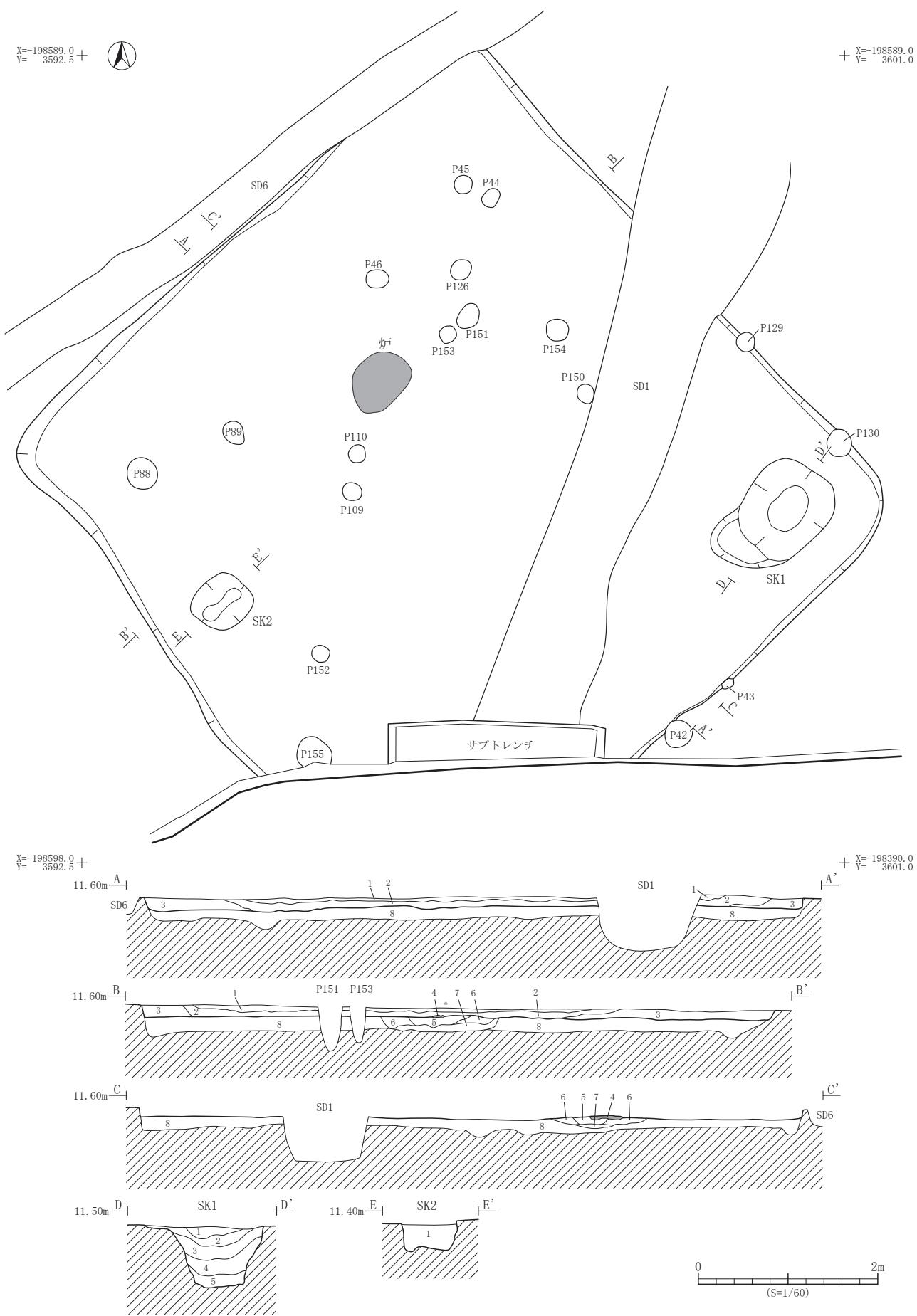
[堆積土] 8層に分層した。1～3層は住居跡堆積土、4～7層は炉関連層位、8層は掘り方埋土である。

[壁面] 床面から急角度に立ち上がる箇所と緩やかに立ち上がる箇所がある。壁高は床面から13cmである。

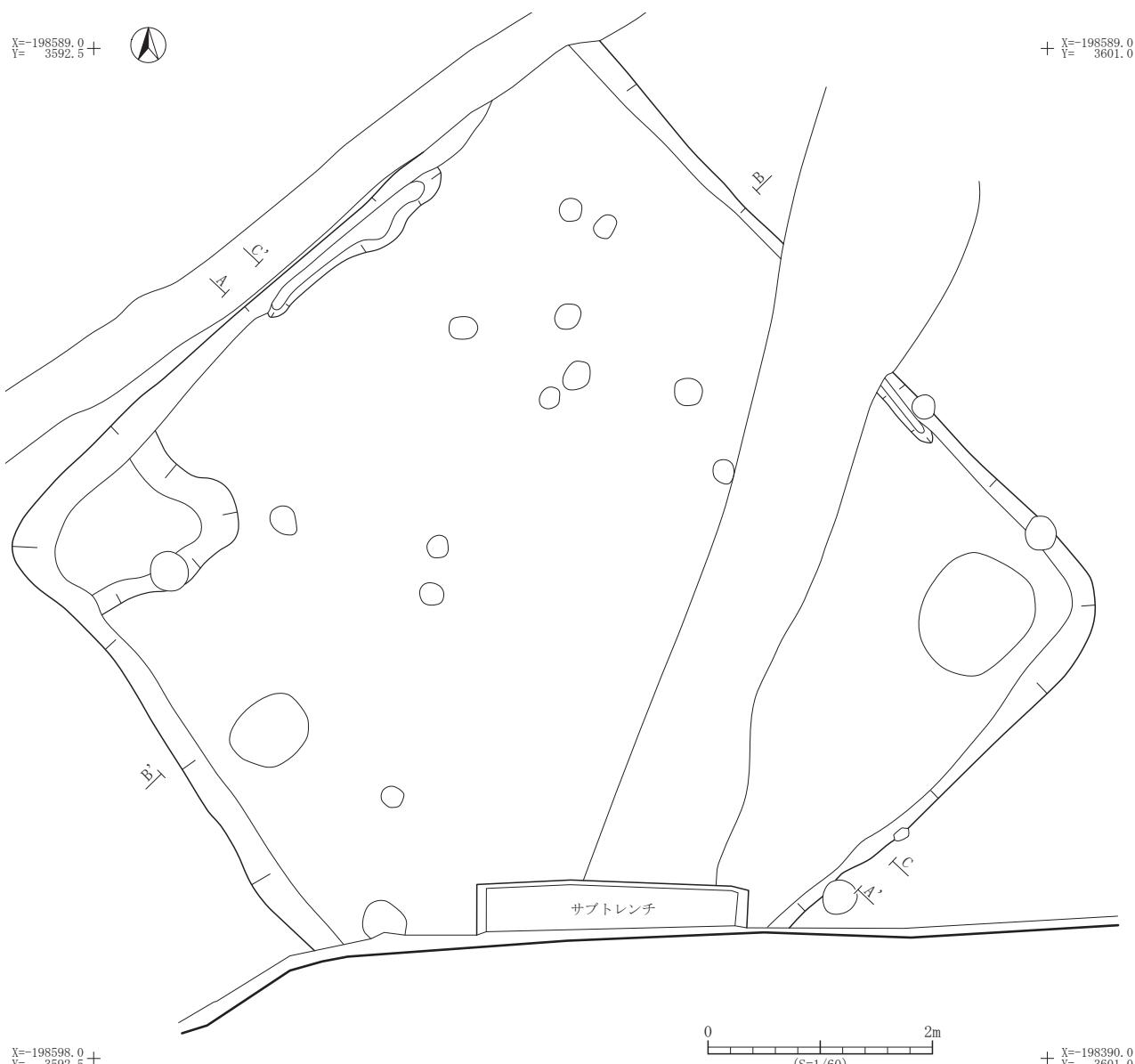


第10図 伊古田遺跡 3区 V層遺構配置図

#### 第4節 伊古田遺跡3区



第11図 S18堅穴住居跡平面図・断面図



遺構	層位	土色	土性	備考
SI8	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	V層粒～ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土粒を含む。粘性あり、締りあり。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	-
SI8 炉	4	5YR4/4にぶい赤褐色	-	焼土。
	5	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒を含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック、炭化物粒を含む。
SI8	7	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒を含む。
	8	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色粘土質シルトブロック、炭化物粒を含む。 粘性あり、締りあり。

遺構	層位	土色	土性	備考
SI8 SK1	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒を含む。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒を含む。
SI8 SK2	4	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒を含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	粘土	-
SI8 SK2	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	V層粒、炭化物粒を含む。粘性あり、締りあり。

第12図 SI8竪穴住居跡掘り方平面図

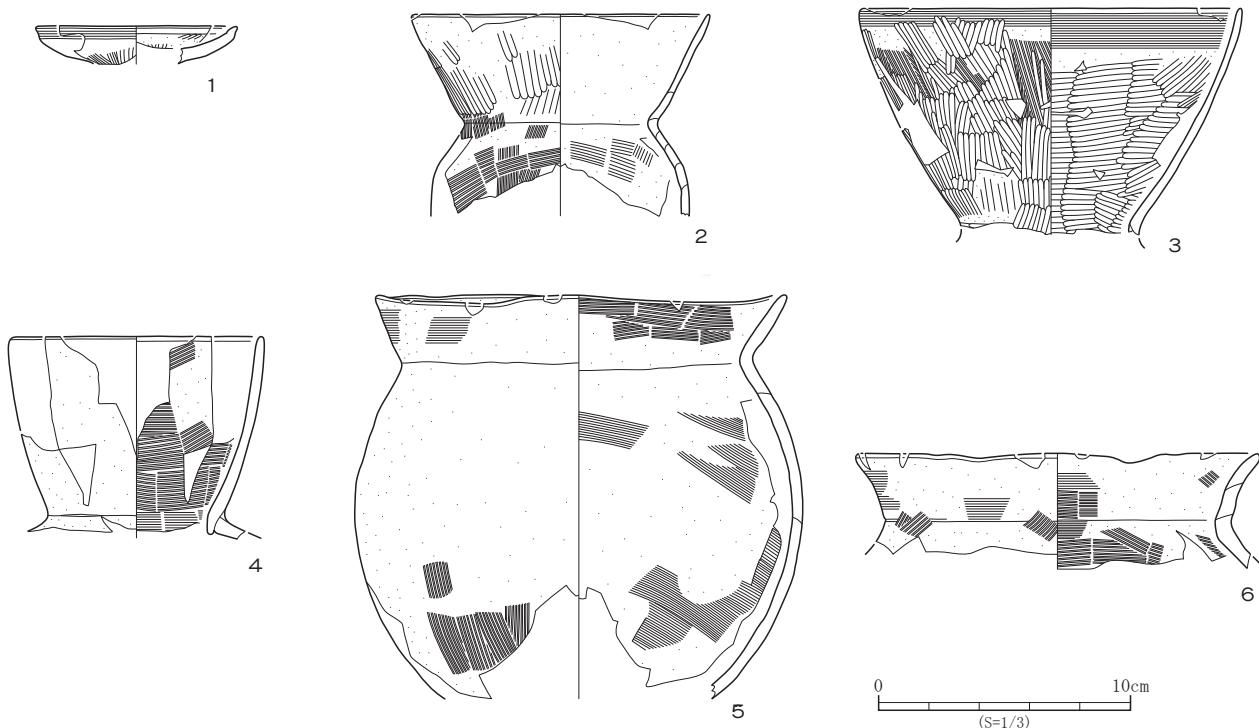
[床面] 8層上面を床面としている。平坦な箇所と起伏がみられる箇所があるが、硬化面などは認められない。

[炉] 地床炉を1基検出した。床面中央から北西壁寄りに位置する。長軸1.55m、短軸1.10m、深さ15～20cmの不整形な掘り方を持つ。被熱範囲は長軸72cm、短軸53cm、深度13cmである。

[その他の施設] 土坑を2基検出した。東側コーナー付近に位置するSK1は不整楕円形で、規模は長軸1.41m、短軸96cm、深さ70cmである。堆積土は5層に分層した。炭化物粒が含まれている。規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。南西壁中央付近に位置するSK2は長軸63cm、短軸57cm、深さ35cmの不整な隅丸長方形で、断面形は長軸方向が不整な箱形、短軸方向が逆台形である。

[掘り方] 深さ3～16cmである。底面は概ね平坦であるが、壁際には溝状に落ち込む箇所がみられる。

#### 第4節 伊古田遺跡3区



No	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-6	3	SI8-SK1	-	土師器	器台	(8.0) × - × 現 1.5	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外面摩滅。	7-1
2	C-1	3	SI8-SK1	2	土師器	埴	(11.8) × - × 現 8.0	ヘラミガキ・ハケメ	ナデ	内外面摩滅。	7-2
3	C-2	3	SI8-SK1	2	土師器	埴	(15.2) × - × 現 9.0	ハケメ・ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	内外面摩滅、岡上復元。	7-4
4	C-5	3	SI8-SK1	2	土師器	埴	(10.2) × - × 現 8.0	不明	ハケメ・ナデ	内外面摩滅、岡上復元。	7-3
5	C-3	3	SI8-SK1	2	土師器	甕	15.7 ~ 16.2 × - × 現 16.0	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ヘラナデ	内外面摩滅。	7-5
6	C-4	3	SI8-SK1	2	土師器	甕	(16.0) × - × 現 4.6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	内外面摩滅。	7-6

第13図 S18竪穴住居跡出土遺物

[出土遺物] 堆積土やSK1から土師器が出土している。そのうちSK1から出土した土師器6点を第13図に図示した。セット関係が窺える。1は器台の受部である。口縁部と体部の境の内外面に稜を持ち、緩やかに内弯する体部から短く外反する口縁部へといたる。2~4は埴である。2は体部上半が撫で肩状で口縁部は内弯気味に開く器形である。3・4は口縁部片で、3は緩やかに内弯しながら口唇部に向かって大きく開く器形で、内外面共に丁寧な調整が施されている。4は内弯しながら直立気味に口唇部にいたる器形である。5・6は共に球胴甕である。口縁部は5が直線的に外傾するのに対し、6は上半が外反する。これらの土師器の特徴から、本住居跡の年代は4世紀後半~末頃と考えられる。

#### SI26 竪穴住居跡（第14・15図、図版6・7）

[位置] W180~190・S190グリッドに位置する。南北両側の調査区外へ延びる。

[規模・形態] 北西-南東3.18m、北東-南西2.50mである。平面形は、隅丸方形を基調としたものと考えられる。周溝・柱穴は検出されていない。

[主軸方位] 南西壁基準でN-47°-Wである。

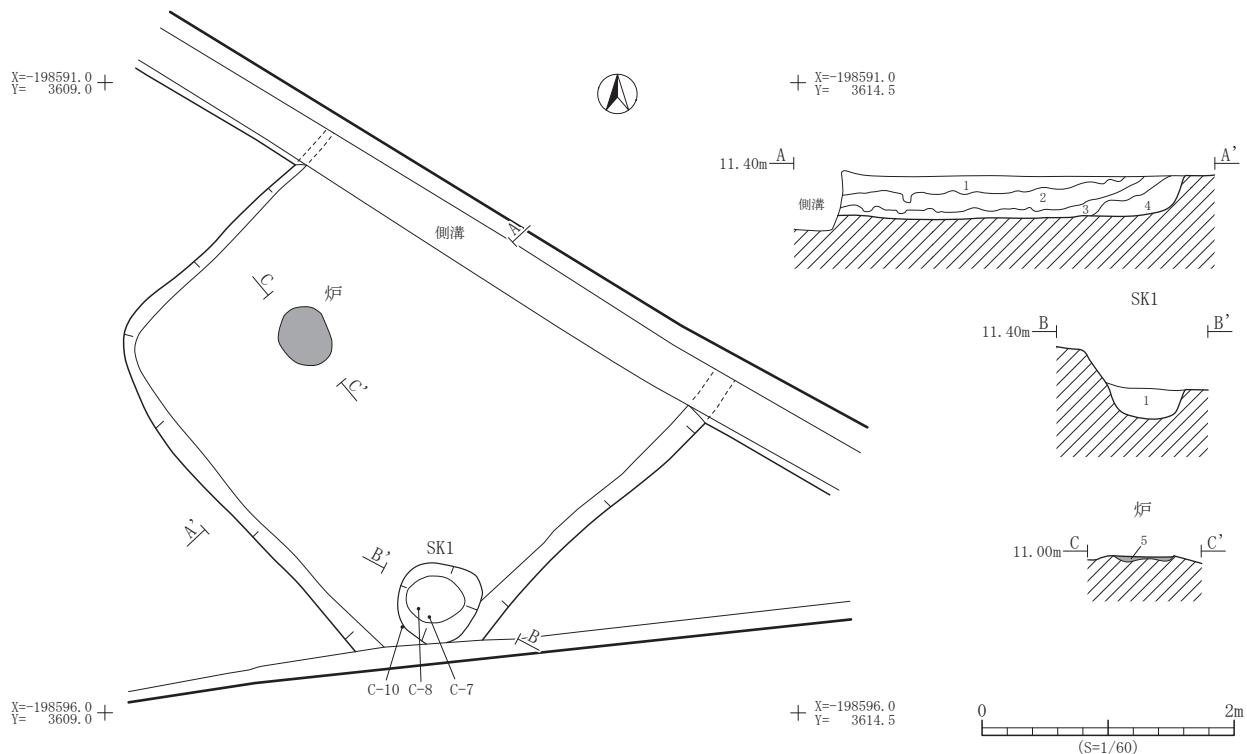
[堆積土] 5層に分層した。1~4層は住居跡堆積土、5層は炉関連層位である。

[壁面] 緩やかに立ち上がり、壁高は床面から35cmである。

[床面] 概ね平坦である。掘り方底面の基本層V層を直接床面としている。

[炉] 地床炉を1基検出した。床面中央から北西壁寄りに位置する。被熱範囲は長軸60cm、短軸40cm、深度5cmである。

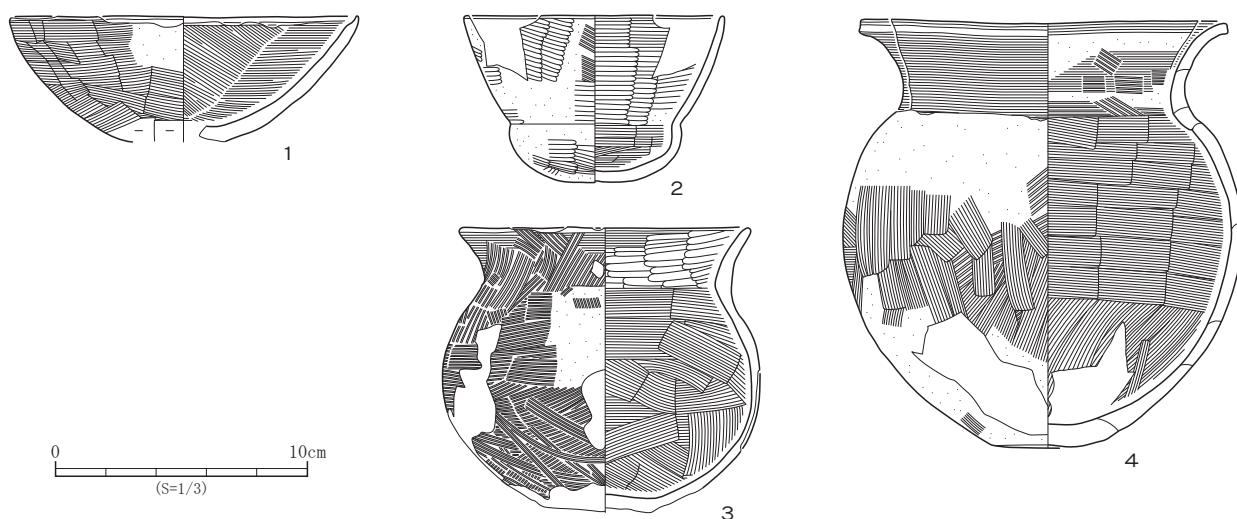
[その他の施設] 土坑を1基検出した。南隅際に位置する。位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形は円形で、規



遺構	層位	土色		土性	備考
		1	2		
SI26	1	10YR3/3 暗褐色		粘土質シルト	炭化物粒を含む。
	2	10YR4/4 褐色		粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
	3	10YR2/3 黒褐色		粘土質シルト	炭化物を含む。
	4	10YR3/4 暗褐色		粘土質シルト	V粒を含む。

遺構	層位	土色		土性	備考
		SI26	炉		
SI26	5	10YR2/3 黒褐色		粘土質シルト	焼土・炭化物を含む。
SI26	SK1	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を含む。

第14図 S I 26 壇穴住居跡平面図・断面図



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-8	3	SI26-SK1	1	土師器	高环	13.8 × - × 現 5.0	ヘラケズリ・ヘラナデ	ナデ	脚部剥落。	7-7
2	C-7	3	SI26-SK1	1	土師器	壠	(10.3) × - × 6.6	ハケメ・ヘラミガキ	ヘラミガキ・ヘラナデ	外面摩滅。	7-8
3	C-10	3	SI26	3	土師器	甕	11.5 × - × 現 11.3	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	外面剥落、外面煤付着。	7-9
4	C-9	3	SI26	3	土師器	甕	14.5 × 4.7 × 17.0	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ	口縁部内面および外面摩滅。	7-10

第15図 S I 26 壇穴住居跡出土遺物

#### 第4節 伊古田遺跡3区

模は径 65cm、深さ 25cm である。

[出土遺物] 堆積土や SK1 から土師器が出土しており、そのうち 4 点を第 15 図に図示した。1 は高壺の壺部である。体部は括れを持たず緩やかに内弯しながら大きく開き、内面側がわずかに窪む口縁部へといたる。2 は壺である。底部外面中央に小さな窪みを持ち、短い体部と内弯しながら開く口縁部の境が括れる器形である。3・4 は甕である。いずれも摩滅や器面の剥離がみられるが、内外面共に全体的に丁寧な調整が施されている。3 はやや扁平な球形の体部から頸部へと滑らかに弯曲し、直線的に外傾する口縁部から丸みを持つ口唇部へといたる。4 は球形の体部から頸部へと滑らかに弯曲し、外反する口縁部からほぼ真横に向く面を持つ口唇部へといたる。これらの土師器の特徴から、本住居跡の年代は 4 世紀後半～末頃と考えられる。

#### 2) 溝跡

SD24 溝跡（第 10・16 図）W190～210・S180～190 グリッドで検出した。本遺跡 1 区 V 層 SD19 と同一の溝跡である。IV 層の SD18 および小溝状遺構 I 群に一部削平されている。北東および南西両側の調査区外へ延び、南西側は 1 区 SD19 に連続する。方向は N-52°-E で、検出長 12.64 m、幅 66～100cm、深さ 36cm である。断面形は U 字形である。堆積土は单層である。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

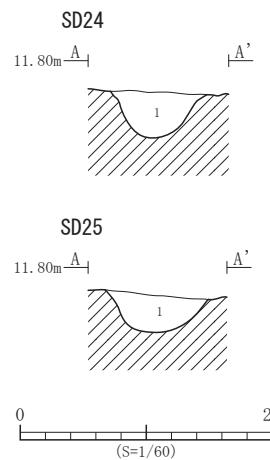
SD25 溝跡（第 10・16 図）W200～210・S180～190 グリッドで検出した。本遺跡 1 区 V 層 SD15 と同一の溝跡である。P159 と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、IV 層の小溝状遺構 I 群に一部削平されている。北東および南西両側の調査区外へ延び、南西側は 1 区 SD15 に連続する。方向は N-52°-E で、検出長 10.66 m、幅 66～95cm、深さ 30cm である。断面形は U 字形である。堆積土は单層である。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

#### 3) ピット（第 10 図）

105 基のピット（P42～46・51～54・56～66・68～79・81～86・88・89・91～107・109～122・124～128・130～159）を検出した。調査区全域に散漫な分布状況を示す。遺物は P44～46・60・68・83・84・87・88・101・110・111・117・119・130・132・135・136・137・140・147・151・155 から土師器片が出土している。

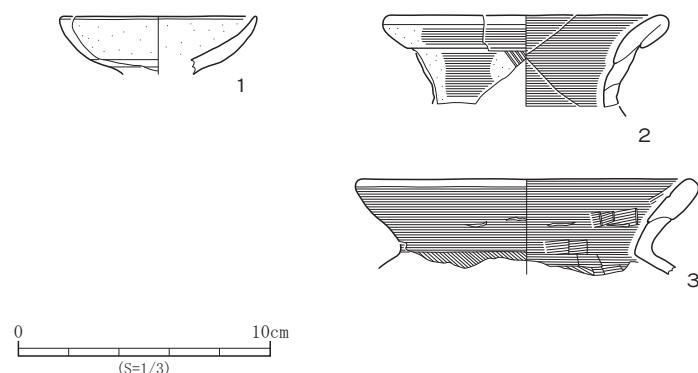
#### （4）遺構外出土遺物（第 17・18 図、図版 7）

基本層 IV 層から出土した土師器 4 点を第 17 図に、打製石器 2 点、石製品 1 点を第 18 図に図示した。第 17 図 1 は器台の受け部片である。器形は緩やかに内弯する体部から先細る口縁部へといたる。2・3 は壺の口縁部片である。



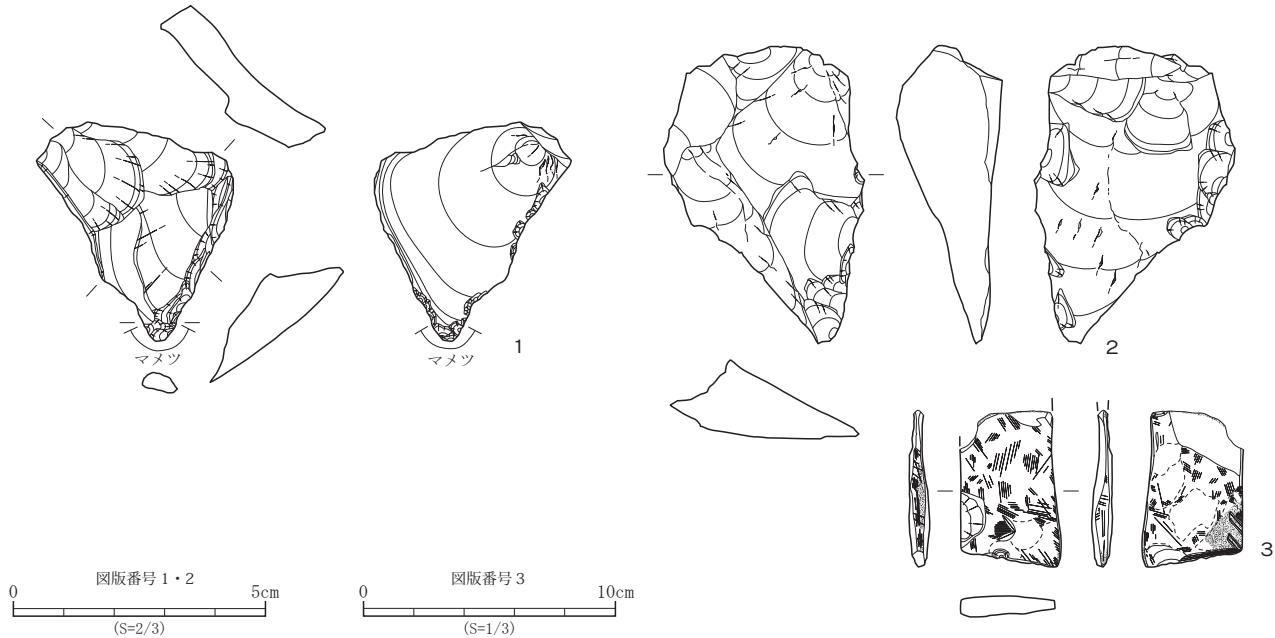
遺構	層位	土色	土性	備考
SD24	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	V 層粒を含む。
SD25	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	V 層ブロックを含む。

第 16 図 S D 24・25 溝跡断面図



No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外縁調整	内縁調整	備考	写真図版
1	C-11	3	IV	-	土師器	器台	(7.8) × - × 現 2.3	不明	不明	内外面摩滅。	7-11
2	C-13	3	IV	-	土師器	壺	(11.4) × - × 現 3.6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ	外面摩滅、内外面赤彩。	7-12
3	C-12	3	IV	-	土師器	壺	13.6 × - × 現 3.8	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	内外面赤彩。	7-13
4	C-14	3	IV	-	土師器	甕	(16.0) × - × 現 13.8	ヨコナデ・ハケメ・ヘラミ ガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	外面摩滅。	7-14

第 17 図 遺構外出土遺物（1）



第18図 遺構外出土遺物（2）

いずれも内外面共に赤彩されている。2は上端が折り返されている。4は甕である。器形は球形の体部と頸部の境が屈曲し、上半が外反する口縁部へといたる。体部は内外面ともにヘラミガキ調整が施される。第18図1は素材剥片の形状を利用して尖端部が錐部に加工されている石錐で、錐部は摩滅している。2は複数の縁辺に二次加工が施されている剥片である。3は面取り加工された砥石である。周縁部を中心に被熱が原因と思われる変色箇所が観察されるが、いずれも砥面形成後のものであり、整形や使用とは直接関連しないと思われる。

### 3. まとめ

伊古田遺跡は仙台市太白区大野田字塚田にあり、自然堤防に立地する縄文時代～古代の遺跡である。平成21年度に約253m<sup>2</sup>の調査が行われ、古墳時代～古代の遺構が検出された。

#### (1) 遺構について

- 1) 古代以降の遺構は、Ⅲ層上面で土坑1基、性格不明遺構1基、溝跡1条、ピット22基を検出した。
- 2) 古代の遺構は、Ⅳ層上面で竪穴遺構1基、土坑1基、溝跡2条、小溝状遺構群1群、ピット31基を検出した。  
小溝状遺構群が検出されたことから、調査区周辺には畠が広がっていたと考えられる。
- 3) 古墳時代～古代の遺構は、Ⅴ層上面で溝跡2条、ピット105基を検出した。
- 4) 古墳時代の遺構は、Ⅴ層上面で竪穴住居跡2軒を検出した。時期は、いずれも4世紀後半～末頃と考えられる。

#### (2) 遺物について

伊古田遺跡からの出土遺物は平箱5箱である。全体的に小破片が多く、図化できる遺物は少ない。

##### 1) 縄文時代

基本層Ⅴ層から地文が縄文のみの深鉢胴部片が出土している。

##### 2) 縄文時代～弥生時代

基本層Ⅳ層から打製石器（石錐・二次加工のある剥片）が出土している。

##### 3) 古墳時代

Ⅴ層SI8・26、基本層Ⅳ層およびⅤ層から塩釜式土器が出土している。

##### 4) 古代以降

Ⅲ層SD1から須恵器片、基本層Ⅳ層から石製品（砥石）が出土している。

## 第4節 伊古田遺跡

第1表 遺構一覧表

3区Ⅲ層

土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規模(cm)	平面形・断面形	時期
SK3	W190・S190	-	東西 105 ×南北 [53] ×深さ 14	方形基調・逆台形	

性格不明遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模(cm)	平面形・断面形	時 期
SX2	W180～190・S190	N-47° -W	長軸 307 ×短軸 212 ×深さ 31	不整形・逆台形状	

溝跡

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模(m)	平面形・断面形	時 期
SD1	W180～190・S190～200	N-18° -E	長さ [11.88] ×幅 1.18～1.45 ×深さ 0.68	直線・概ね逆台形	

3区Ⅳ層

豎穴状遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模(m)	平面形・断面形	時 期
SI4	W190・S190	N-14° -E	南北 2.60 ×東西 2.96 ×深さ 0.10～0.14	方形・箱形	

土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規 模(cm)	平面形・断面形	時 期
SK7	W190・S200	-	東西 54 ×南北 [23] ×深さ 21	円形基調・逆台形	

溝跡

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模(m)	平面形・断面形	時 期
SD5	W200～210・S190～200	N-22° -E	長さ [10.00] ×幅 1.03～1.43 ×深さ 0.47	わずかに湾曲・U字形	
SD6	W190～210・S190～200	N-53° -E	長さ [19.96] ×幅 0.61～0.85 ×深さ 0.42	ほぼ直線・逆台形	
SD18	W200・S190	N-18° -W	長さ [0.36] ×幅 0.26 ×深さ 0.18	不明・逆台形	
SD21	W200・S180	N-51° -W	長さ [2.56] ×幅 0.34 ×深さ 0.21	ほぼ直線・逆台形	
SD22	W200～210・S180	N-27° -W	長さ [1.07] ×幅 0.29 ×深さ 0.18	ほぼ直線・逆台形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模(m)	平面形・断面形	時 期
I -1	W200～210・S190	N-47° -W	長さ [2.17] ×幅 0.24～0.36 ×深さ 0.07	やや湾曲・U字形	
I -2	W200～210・S180～190	N-48° -W	長さ [6.82] ×幅 0.28～0.33 ×深さ 0.11	緩く蛇行・U字形	
I -3	W200・S180～190	N-47° -W	長さ [2.90] ×幅 0.39～0.52 ×深さ 0.13	ほぼ直線・U字形	
I -4	W200・S180～190	N-41° -W	長さ [3.71] ×幅 0.23～0.47 ×深さ 0.20	ほぼ直線・U字形	
I -5	W200～210・S180～190	N-40° -W	長さ [9.18] ×幅 0.32～0.42 ×深さ 0.13	緩く蛇行・U字形	
I -6	W200・S180	N-40° -W	長さ [3.03] ×幅 0.28～0.37 ×深さ 0.17	ほぼ直線・U字形	
I -7	W200・S180	N-43° -W	長さ [10.25] ×幅 0.36～0.54 ×深さ 0.15	緩く蛇行・U字形	
I -8	W190～200・S180	N-43° -W	長さ [6.30] ×幅 0.24～0.32 ×深さ 0.07	緩く蛇行・U字形	
I -9	W200・S180	N-43° -W	長さ [4.63] ×幅 0.23～0.26 ×深さ 0.06	緩く蛇行・U字形	

3区V層

豎穴住居跡

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模(m)	炉	時 期
SI8	W190～200・S180～190	N-43° -W	北西・南東 7.34 ×北東・南西 7.02 ×深さ 0.13	地床炉	4世紀後半～末頃
SI26	W180～190・S190	N-47° -W	北西・南東 3.18 ×北東・南西 2.50 ×深さ 0.15	地床炉	4世紀後半～末頃

溝跡

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模(m)	平面形・断面形	時 期
SD24	W190～210・S180～190	N-52° -E	長さ [12.64] ×幅 0.66～1.00 ×深さ 0.36	緩く蛇行・U字形	
SD25	W200～210・S180～190	N-50° -E	長さ [10.24] ×幅 0.71～0.83 ×深さ 0.29	緩く蛇行・U字形	

## 伊古田遺跡写真図版





3区III層東半部全景（西より）



3区III層SK3（西より）



3区III層SX2断面（南より）



3区III層SD1（北より）

写真図版1 伊古田遺跡（1）

#### 第4節 伊古田遺跡



3区IV層東半部全景（西より）



3区IV層西半部全景（北より）

写真図版2 伊古田遺跡（2）



3区IV層SI4（南より）



3区IV層SD5 検出（北より）



3区IV層SD5（北より）

写真図版3 伊古田遺跡（3）

#### 第4節 伊古田遺跡



3区IV層SD5 断面（南より）



3区IV層SD6 断面（北より）



3区IV層SD6（北より）



3区V層東半部全景（西より）

写真図版4 伊古田遺跡（4）



3区V層西半部全景（東より）



3区V層SI8（北より）

写真図版5 伊古田遺跡（5）

#### 第4節 伊古田遺跡



3区V層SI8 断面（南西より）



3区V層SI8 炉（北より）



3区V層SI8-SK1 断面（東より）



3区V層SI26（西より）

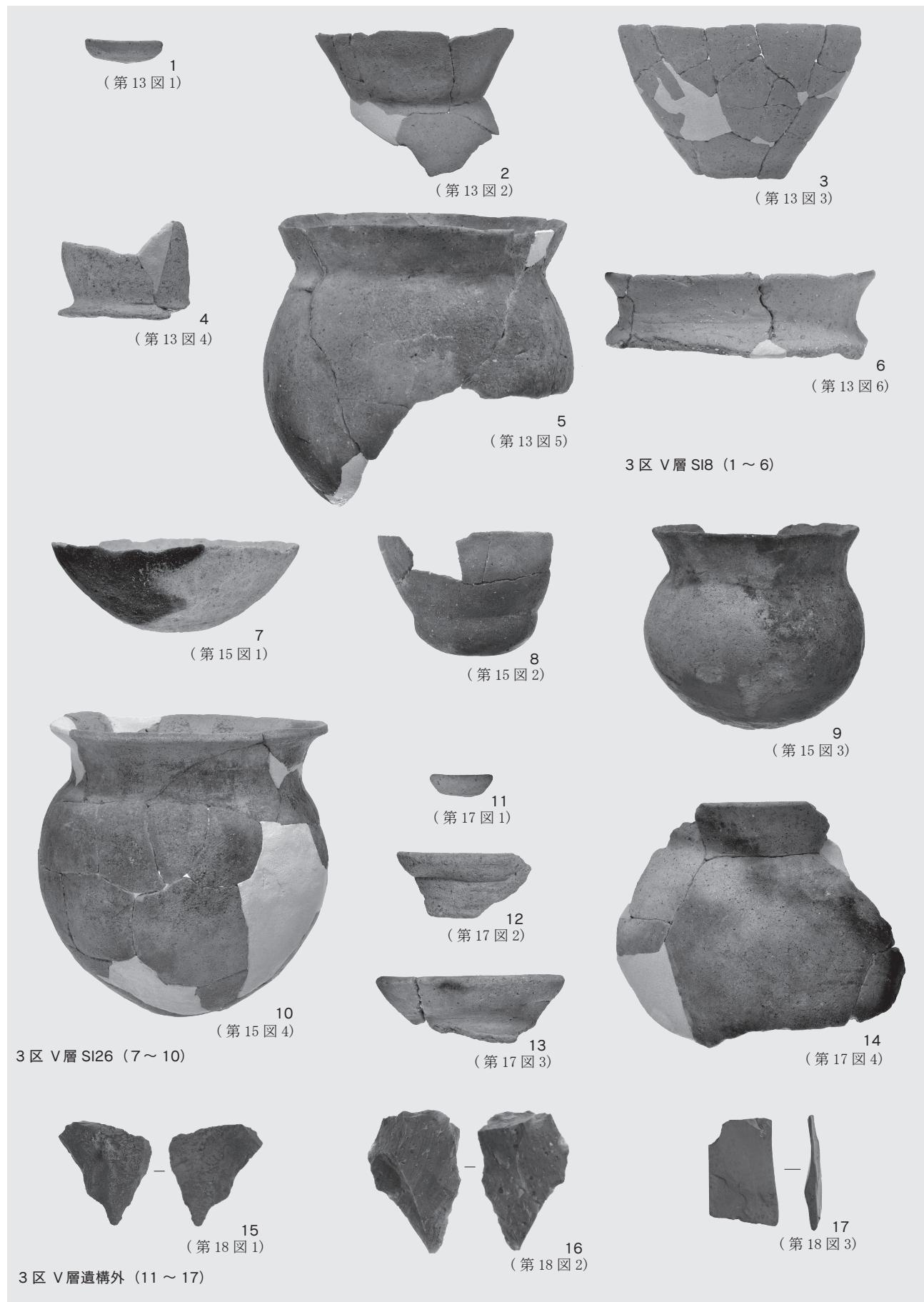


3区V層SI26 遺物出土状況（西より）



3区V層SI26-SK1 断面・遺物出土状況（北より）

写真図版6 伊古田遺跡（6）



写真図版7 伊古田遺跡3区出土遺物

## 第5節 伊古田B遺跡

### 1. 調査要項

- (1) 遺跡名：伊古田B遺跡（宮城県遺跡登録番号01191B）
- (2) 所在地：仙台市太白区大野田字イコタ
- (3) 調査面積：約1,922m<sup>2</sup> (4A1・4A2・4A3・4B1・4B2・4C・4D区)
- (4) 調査主体：仙台市教育委員会
- (5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員：平間亮輔・大久保弥生・川本剛史・吉野信・佐藤正弥（派遣調査員：土沼章一／国際文化財）
- (7) 調査期間
  - （野外調査）：平成21年6月15日～平成21年10月15日
  - （整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。
    - ・平成22年度：平成22年10月8日～平成23年3月31日
    - ・平成23年度：平成23年9月22日～平成24年3月30日
    - ・平成24年度：平成24年6月21日～平成25年3月29日

### 2. 4A1区の調査

4A1区では、基本層Ⅲ層上面（古代以降の遺構検出面）において、土坑1基、溝跡6条を検出した。IVb層上面（古代の遺構検出面）において、水田跡、小溝状遺構群1群を検出した。IVc層上面（古代の遺構検出面）において、水田跡（擬似畦畔B）を検出した。V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、掘立柱建物跡1棟、土坑5基、溝跡2条、ピット37基を検出した。

#### （1）Ⅲ層検出の遺構と遺物（第1図、図版1）

##### 1) 土坑

SK7土坑（第2図）E50・S410グリッドで検出した。SD4と重複関係にあり、本遺構が新しい。上部は搅乱により削平されている。平面形は橢円形で、長軸方向はN-23°-Eである。検出した規模は長軸112cm、短軸97cm、深さ35cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は箱形、底面は平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

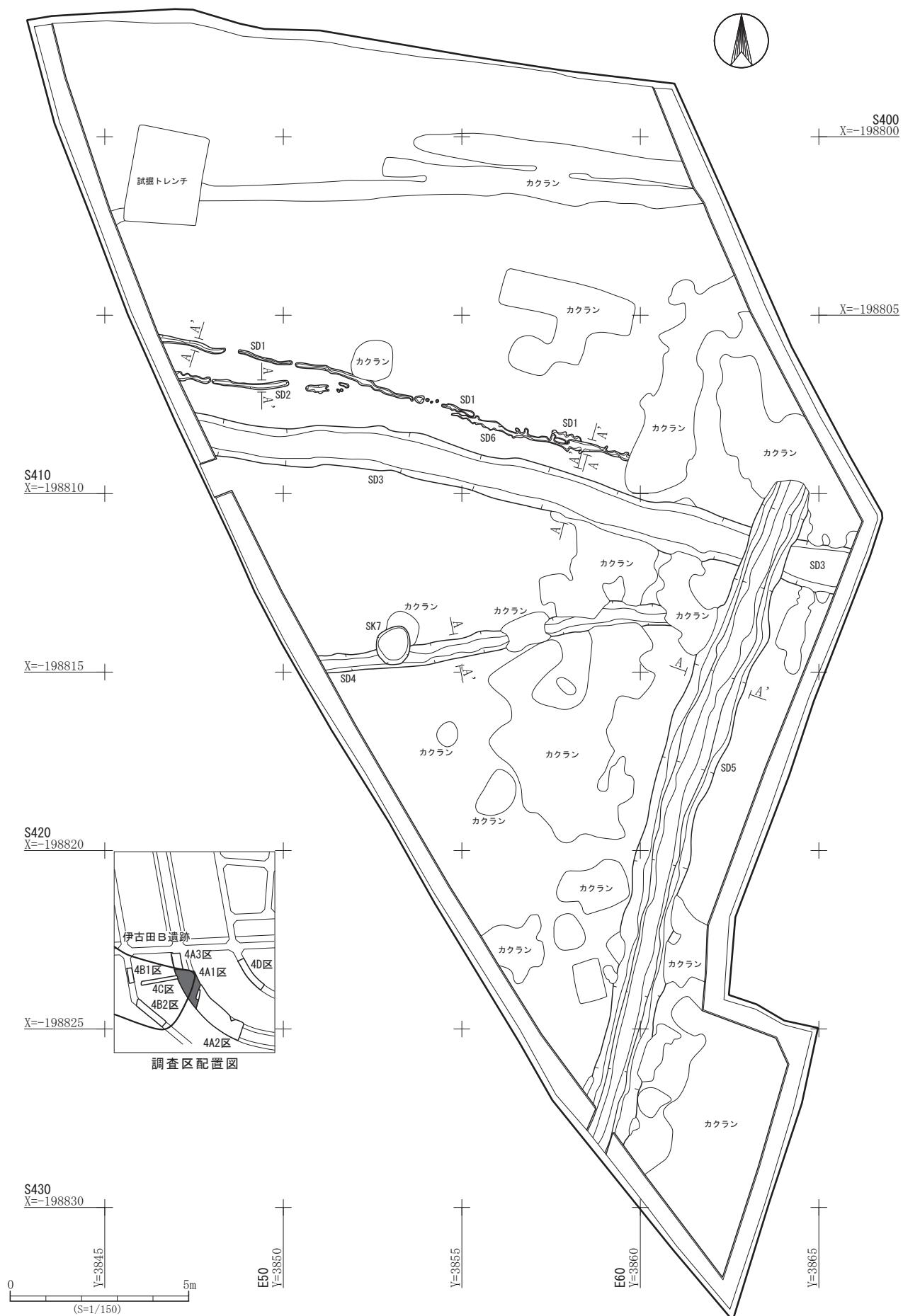
##### 2) 溝跡

SD1溝跡（第1・3・4図、図版8）E40～50・S400グリッドで検出した。北西-南東方向に断続的に延びる溝跡で、西側の調査区外へ延びる。SD6と重複関係にあり、本遺構が古い。また、東側の一部を搅乱により削平されている。方向はN-76°-Wで、検出長12.18m、幅6～23cm、深さ5cmである。断面形は逆台形である。遺物は堆積土から陶磁器片、金属製品、土製品が出土している。そのうち土製品1点を第4図1に図示した。素焼きの土鉢である。

SD2溝跡（第1・3図）E40～50・S400グリッドで検出した。北西-南東方向に断続的に延びる溝跡で、西側の調査区外へ延びる。方向はN-88°-Wで、検出長3.17m、幅8～18cm、深さ3cmである。断面形は概ね逆台形である。遺物は出土していない。

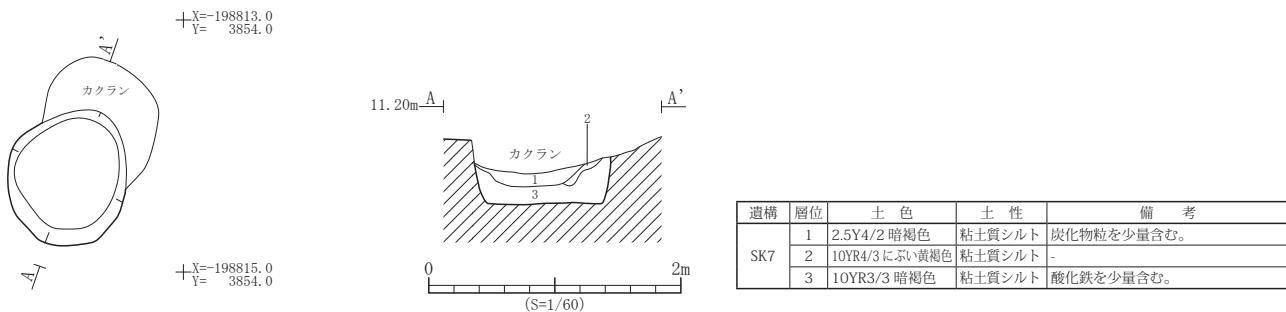
SD3溝跡（第1・3図）E40～60・S400～410グリッドで検出した。北西-南東方向に延びる溝跡で、東・西側の調査区外へ延びる。SD5と重複関係にあり、本遺構が古い。本遺構北西側の延長上には、本遺跡4C区Ⅲ層で検出したSD1溝跡があり、方向や規模から同一の溝跡と考えられる。方向はN-79°-Wで、検出長19.84m、幅1.02～1.36m、深さ36cmである。断面形はU字状である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土から土師器片、須恵器片が出土している。

SD4溝跡（第1・3図）E50～60・S410グリッドで検出した。東西方向に延びる溝跡で、西側の調査区外へ延びる。SK7と重複関係にあり、本遺構が古い。また、東側は位置的にSD5との重複関係が考えられるが搅乱により削平されているため不明である。方向はN-81°-Eで、検出長10.56m、幅44～61cm、深さ23cmである。断面形はU字状である。遺物は出土していない。



第1図 伊古田B遺跡4A1区III層遺構配置図

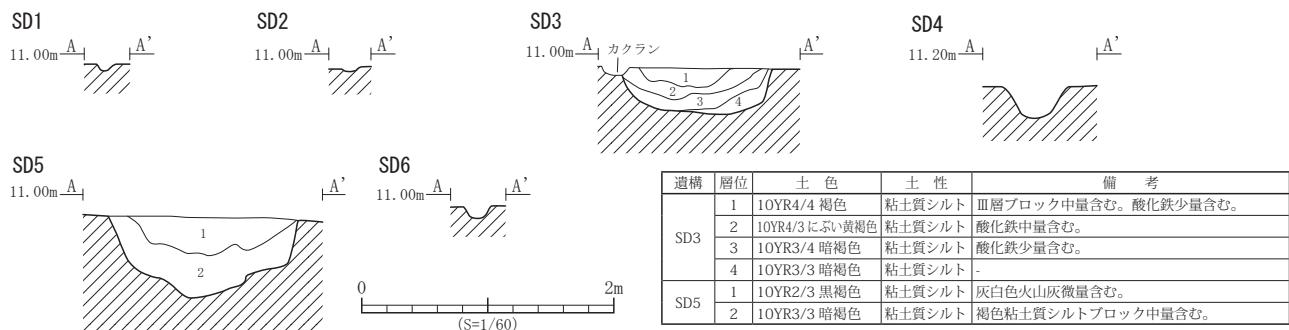
## 第5節 伊古田B遺跡4A1区



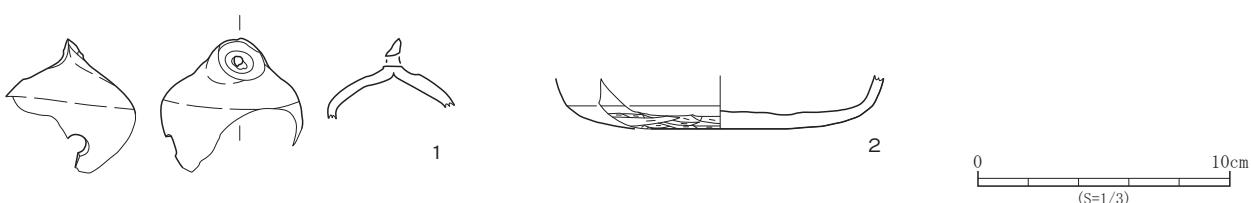
第2図 SK7 土坑平面図・断面図

**SD5 溝跡**（第1・3・4図、図版8）E50～60・S400～420グリッドで検出した。北東から南西方向に延びる溝跡で、南側の調査区外へ延びる。SD3と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、北東側は搅乱により削平されている。方向はN-16°-Eで、検出長19.75m、幅1.13～1.74m、深さ63cmである。断面形は船底形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器片、須恵器片が出土しており、そのうち1層から出土した須恵器を第4図2に図示した。壺である。口縁部～体部上半は欠損している。外面の体部下端～底部に手持ちヘラケズリ調整が施され、底部切り離し技法は不明である。

**SD6 溝跡**（第1・3図）E50・S400グリッドで検出した。北西-南東方向に延びる溝跡で、SD1と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、東側の一部を搅乱により削平されている。方向はN-76°-Wで、検出長5.12m、幅8～13cm、深さ9cmである。断面形はU字状である。遺物は出土していない。



第3図 SD1～6 溝跡断面図



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	P-1	4A1	SD1	-	土製品	土鈴	紐部-つまみ出し成形・有孔 鈴部-ナデ 鈴口-ヘラケズリ	(53) × 56 × 5mm 26.7g	8-1
2	E-1	4A1	SD5	1	須恵器	壺	- × - × 現2.1 ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	底部切り離し不明。 8-2

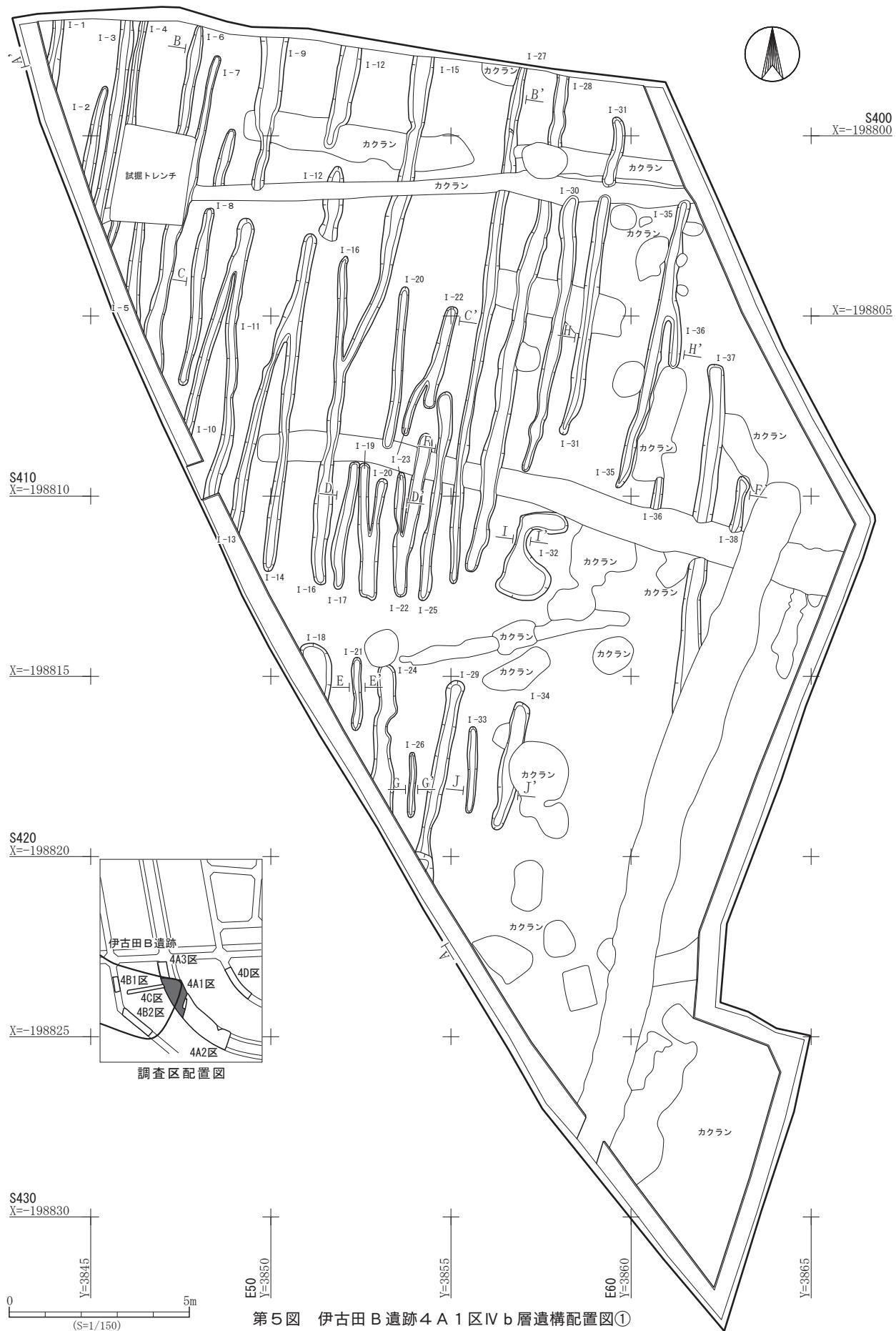
第4図 SD1・5 溝跡出土遺物

### (2) IV b層検出の遺構（第5・6図、図版1・2）

#### 1) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、1群を検出した。

I群（第5・7図、図版1）E40～60・S390～420グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群で、38条の小溝で構成される。水田跡と重複関係にあり、本遺構群が新しい。なお、水田跡よりも新しいことから、本来はIVa層上面から掘り込まれた遺構群の可能性がある。I-10・11、I-13・14、I-15・16、I-19・20、I-22・23、



## 第5節 伊古田B遺跡4A1区

I-35・36は、それぞれ溝の一部が接続し「Y」字状となっている。堆積土が同一であるため重複関係は不明であるが、本群が2群に分かれる可能性が考えられる。方向はN-73°～88°-Wで、検出長1.57～14.50m、幅12cm～1.35m、深さ5～38cmである。接続している箇所を除いた小溝の間隔は、7cm～2.24mである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

### 2) 水田跡

水田跡（第6・8図、図版2・3）E40～60・S400～420グリッドで畦畔3条、段差1箇所、水田区画5面を検出した。小溝状遺構群と重複関係にあり、本遺構が古い。耕作土は基本層IVb層である。段差No.1は、畦畔の可能性も考えられるが、北側に対応する段差が検出されなかった。北西-南東方向に延び、北西および南東端は搅乱や重複遺構、試掘トレーンにより検出されなかった。方向はN-70°-Wで、検出長13.28m、高さ3～9cmである。

畦畔No.2は、段差No.1の10m南に位置する。北西-南東方向へ延び、段差No.1とほぼ並行する。東端は畦畔No.3と接続し、西側の調査区外へ延びる。方向はN-78°-Wで、検出長9.33m、幅1.25～3.15m、高さ10～18cmである。断面形は台形である。位置や規模から大畦畔と考えられる。

畦畔No.3は、南北方向にやや蛇行しながら南側の調査区外へ延びる。北端部は段差No.1、中央部は畦畔No.2と「T」字状に接続する。南端部は緩やかに南西方向へ弯曲しており、東西方向の畦畔へと連続する可能性も考えられる。方向はN-10°～15°-Eで、検出長16.05m、幅58cm～1.55m、高さ11～26cmである。断面形は台形である。位置や規模から畦畔No.2と同様に大畦畔と考えられる。

畦畔No.4は、段差No.1と「T」字状に接続して北東-南西方向に延び、畦畔の南側は途切れている。方向はN-23°-Eで、検出長3.27m、幅58～73cm、高さ2～8cmである。断面形は台形である。位置や規模から小畦畔と考えられる。

これらの段差と畦畔で構成される水田区画は、5区画を検出した。いずれの区画も全体の形状は不明である。田面はいずれも凹凸がみられ、北から南へと傾斜している。耕作土の厚さは、区画①が4～21cm、区画②が2～28cm、区画③が3～32cmである。区画④・⑤は不明である。検出した水田面の標高は10.54～10.81mであり、各区画における水田面の高低差は、区画①が11cm、区画②が13cm、区画③が11cmである。遺物は、田面堆積土から弥生土器片、土師器片が出土している。本水田跡の時期は、上層の基本層Ⅲ層に十和田a火山灰（915年の降灰）と考えられる灰白色火山灰を含むこと、本遺跡4A2区IVc層で検出したSI74竪穴住居跡の時期は8世紀前半～中頃と考えられることから、8世紀後半～9世紀代と考えられる。

なお、第9図に示したように調査区西壁の2地点から土壤サンプルを採集し、プラント・オパール分析を実施した。分析結果については本節8に掲載している。

### （3）IVc層検出の遺構（第9図、図版2）

#### 1) 水田跡

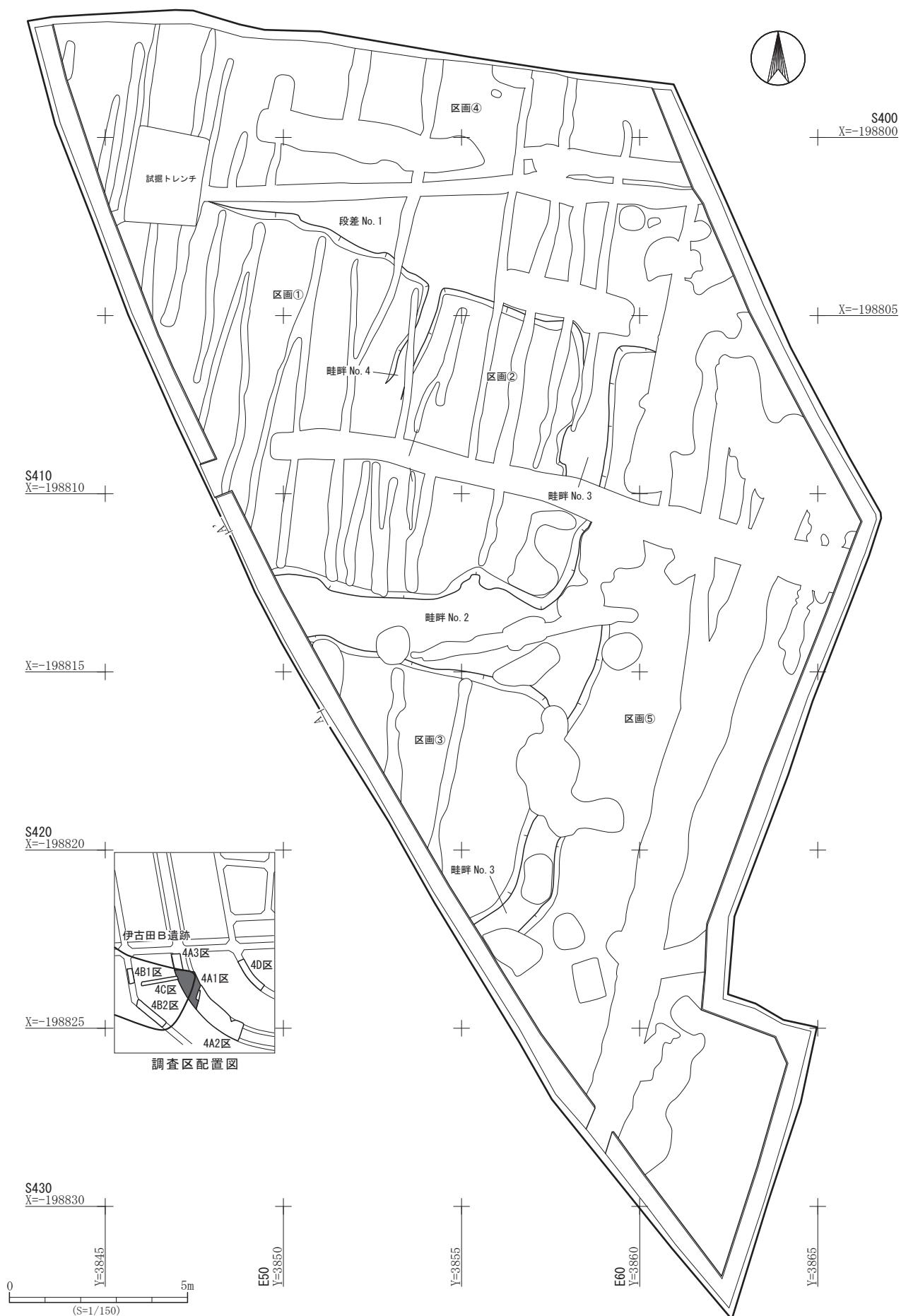
水田跡（第7・9図、図版2・3）E40～70・S400～430グリッドで畦畔2条、段差1箇所を検出した。検出状況から擬似畦畔Bと考えられる。

擬似畦畔B No.1は、東西方向に直線的に延び、西側の調査区外へ延びる。東側は途中で途切れている。方向はN-83°-Wで、検出長16.90m、幅1.23～1.73m、高さ1～8cmである。断面形は台形である。

擬似畦畔B No.2は、擬似畦畔B No.1の約13m南に位置する。IVb層水田跡畦畔No.2に対応する擬似畦畔で、東西方向に直線的に延び、擬似畦畔B No.1と並行する。東側では段差No.3と南側が接続し、西側の調査区外へ延びる。方向はN-76°-Wで、検出長9.25m、幅2.09～2.31m、高さ2～8cmである。断面形は台形である。

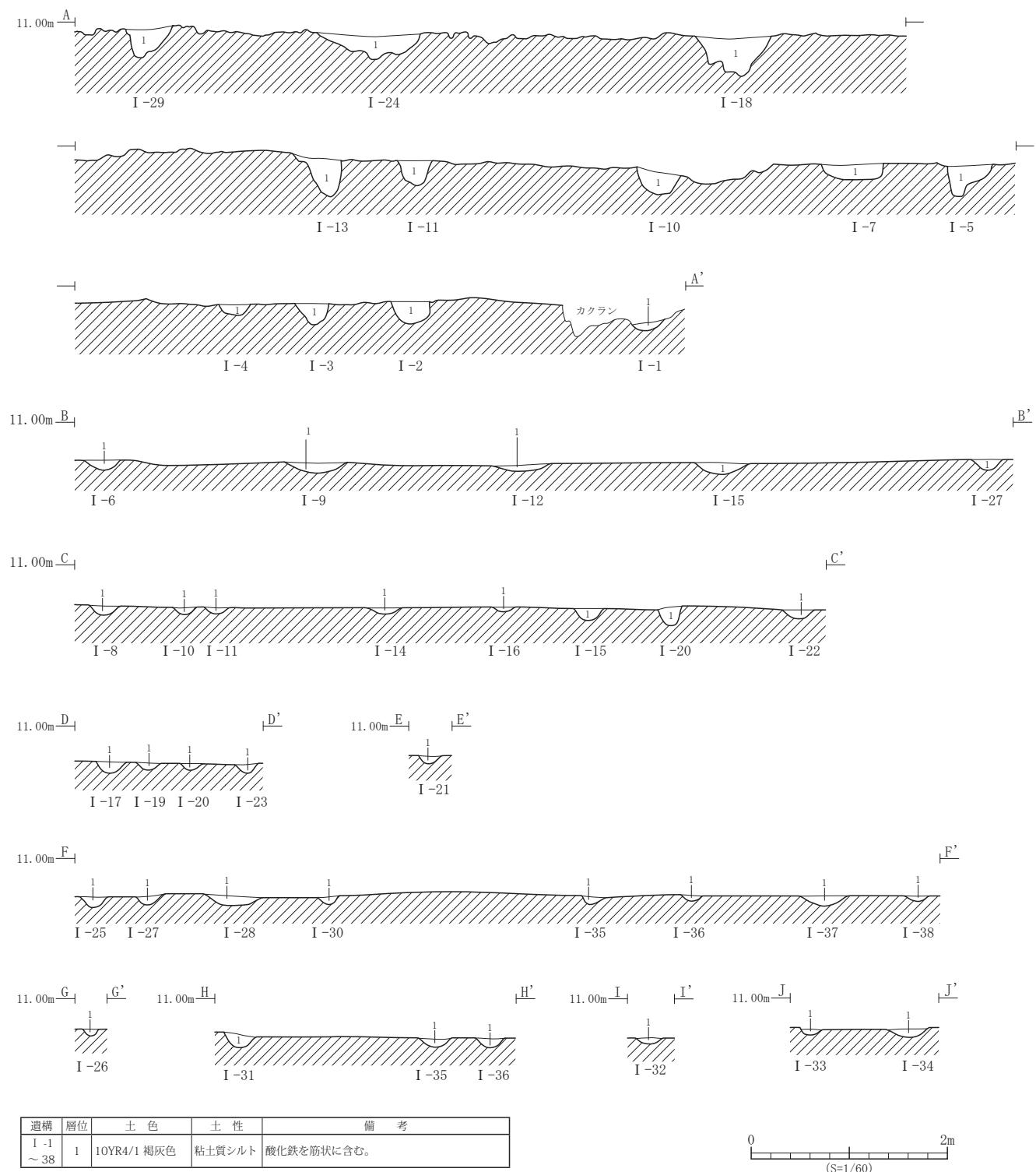
段差No.3は、南北方向に延び、南部は西側へ大きく弯曲し調査区外へ延びる。IVb層水田跡畦畔No.3に対応する擬似畦畔の一部と考えられるが、東側で対応する段差は検出されなかった。方向はN-15°-Eで、検出長7.50m、高さ4～9cmである。

なお、IVb層の調査において擬似畦畔B No.1が検出された部分からは畦畔が検出されなかったが、本来はこの位置に畦畔が存在したと推定される。



第6図 伊古田 B 遺跡 4 A 1 区 IV b 層遺構配置図②

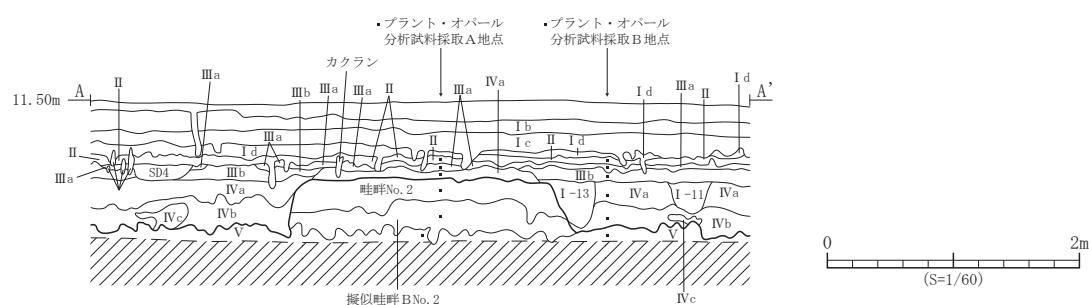
## 第5節 伊古田B遺跡4A1区



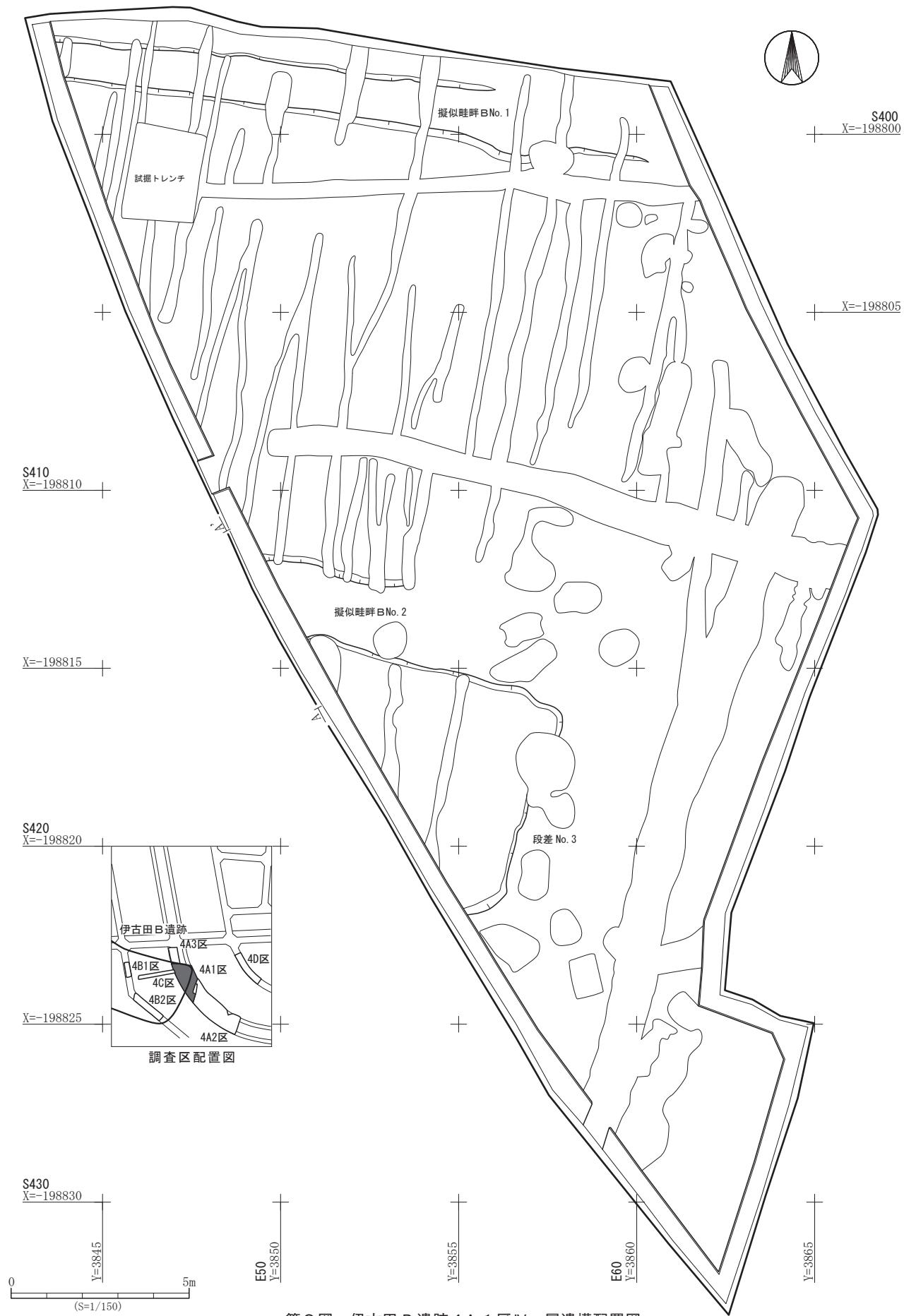
遺構	層位	土色	土性	備考
I-1	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄を筋状に含む。

0 2m  
(S=1/60)

第7図 小溝状遺構群断面図

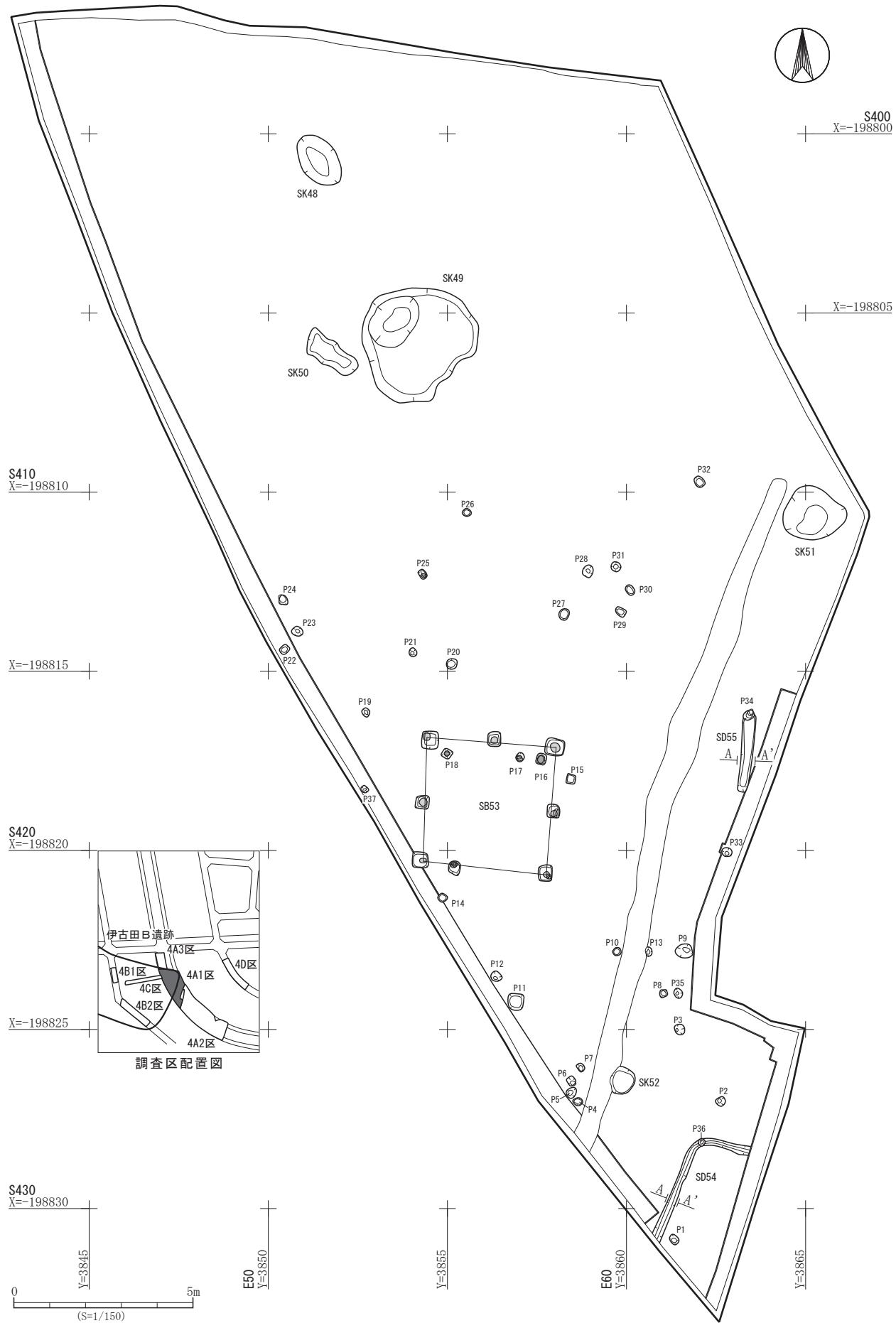


第8図 IV b層水田跡断面図



第9図 伊古田B遺跡4A1区IVc層遺構配置図

## 第5節 伊古田B遺跡4A1区

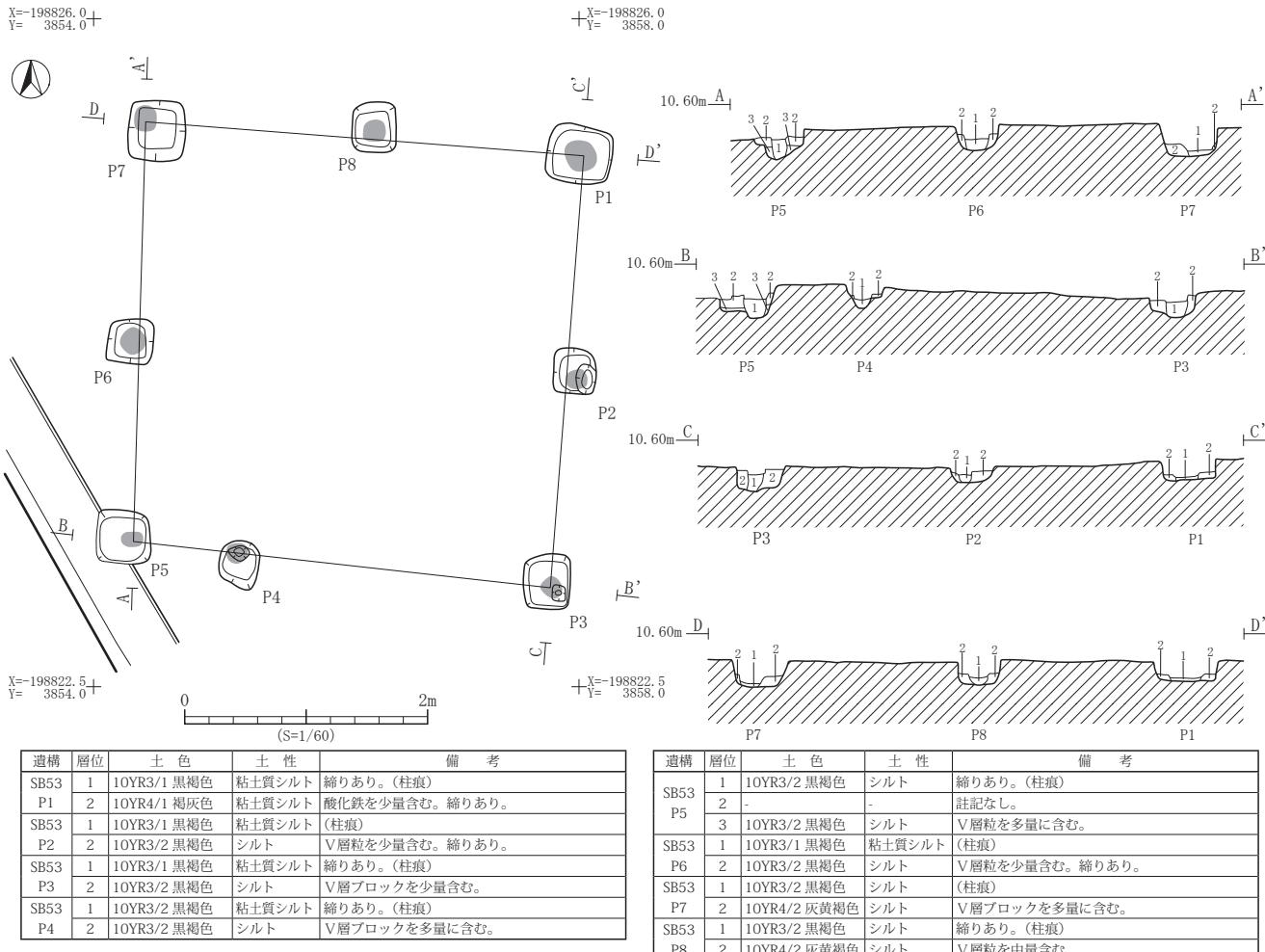


第10図 伊古田B遺跡4A1区V層遺構配置図

## (4) V層検出の遺構(第10図)

## 1) 堀立柱建物跡

SB53 堀立柱建物跡(第11図、図版3) E50・S410～420 グリッドで検出した。規模は東西2間(北列西から1.88m+1.70m、総長3.58m、南列西から84cm+2.60m、総長3.44m)、南北2間(東列北から1.84m+1.72m、総長3.72m、西列北から1.82m+1.64m、総長3.46m)の側柱建物である。平面形は方形で、方向はN-5°-Eである。柱穴掘り方の規模は、一辺35～50cmの方形を基調とし、検出面からの深さは13～26cmである。すべての柱穴で径16～24cmの柱痕跡を検出した。遺物は出土していない。



第11図 SB53 堀立柱建物跡平面図・断面図

## 2) 土坑

SK48 土坑(第13図、図版3) E50・S400 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-39°-Wである。規模は長軸1.61m、短軸1.04m、深さ23cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面は丸みを持つ。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK49 土坑(第13図、図版3) E50・S400 グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向は不明である。規模は東西3.25m、南北3.16m、深さ41cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は柄杓形、底面は北西側に長軸1.59m、短軸1.15m、深さ25cmのピット状の落ち込みがある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

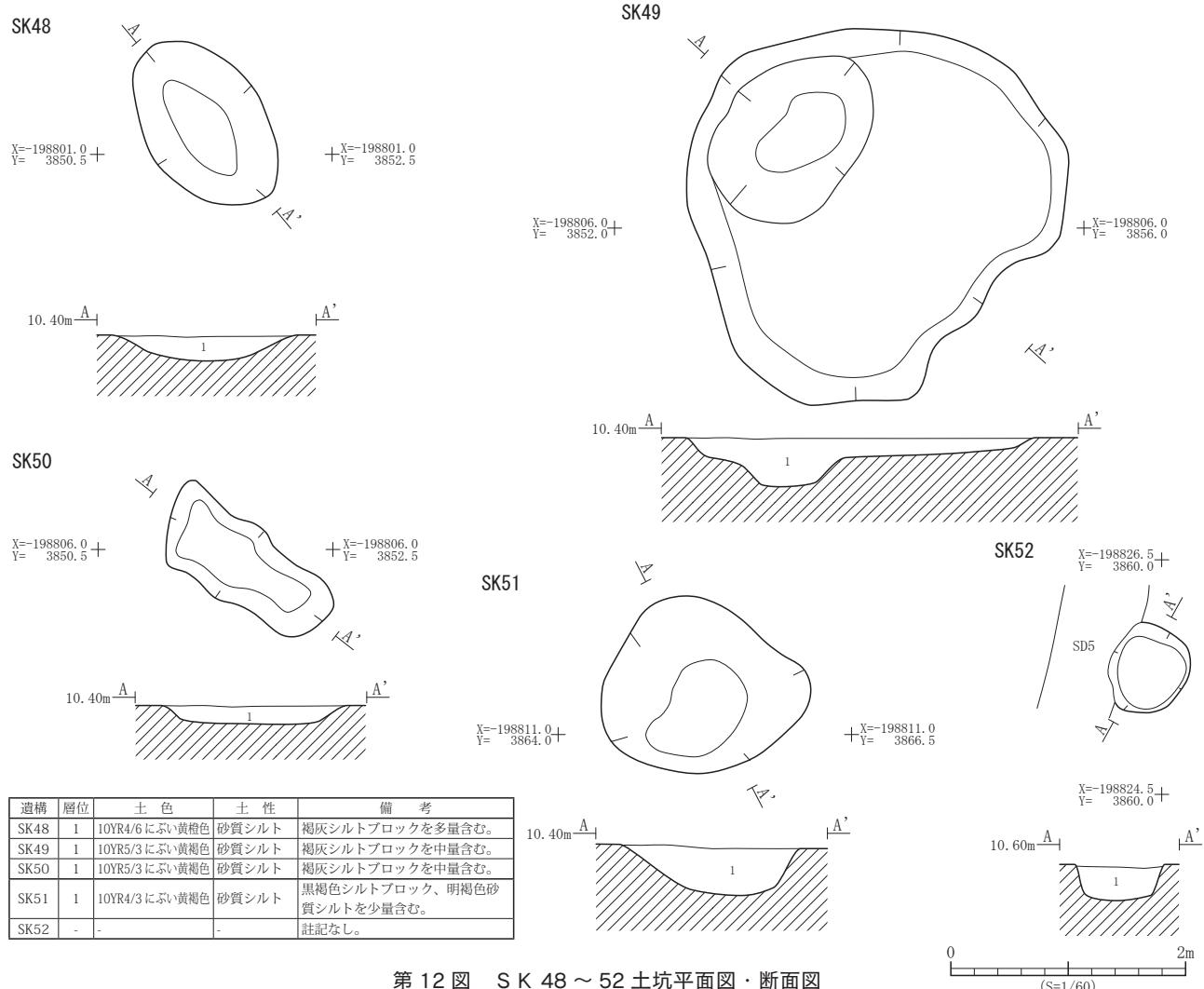
SK50 土坑(第13図、図版4) E50・S400 グリッドで検出した。平面形は不整隅丸長方形で、長軸方向はN-56°-Wである。規模は長軸1.63m、短軸70cm、深さ15cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK51 土坑(第13図、図版4) E60・S400～410 グリッドで検出した。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-81°-Eである。規模は長軸1.78m、短軸1.52m、深さ40cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は

## 第5節 伊古田B遺跡4A1区

概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

**SK52 土坑（第13図）** E50～60・S420グリッドで検出した。西側はⅢ層SD5により削平されているが、平面形は円形と考えられ、長軸方向はN-32°-Eである。検出した規模は長軸77cm、短軸65cm、深さ33cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

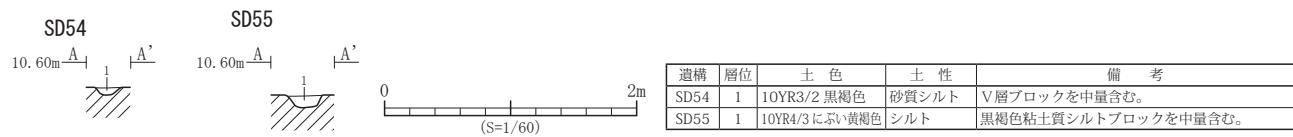


第12図 SK48～52土坑平面図・断面図

### 3) 溝跡

**SD54 溝跡（第10・13図）** E60・S420～430グリッドで検出した。東西方向から南西方向に「L」字状に屈曲する溝跡で、東側および南側の調査区外へ延びる。P36と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-78°-W・N-23°-Eで、検出長4.49m、幅29～36cm、深さ6cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

**SD55 溝跡（第10・13図）** E60・S410グリッドで検出した。南北方向に延びる溝跡である。P34と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-6°-Eで、検出長2.04m、幅29～36cm、深さ10cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



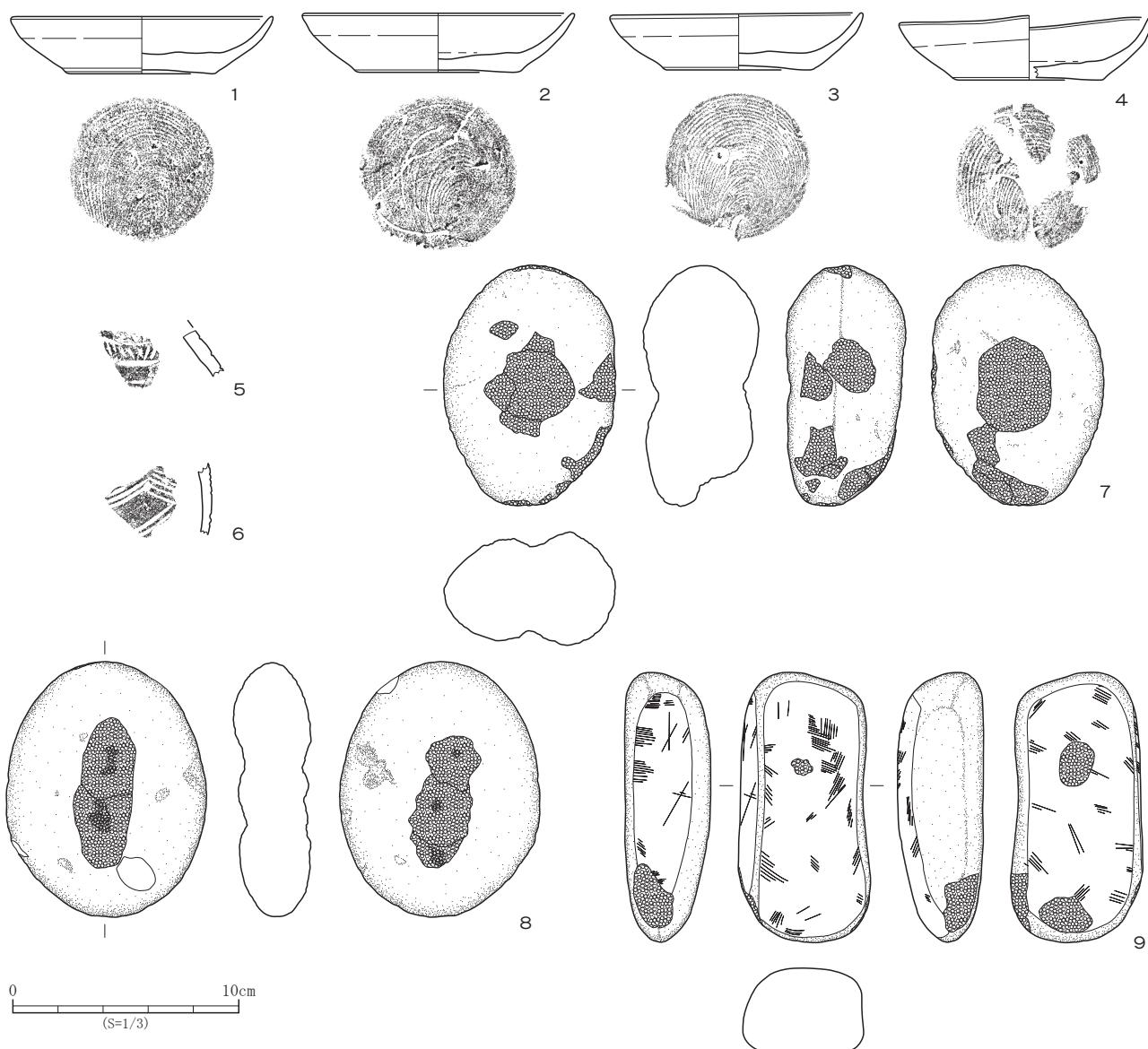
第13図 SD54・55溝跡断面図

## 4) ピット（第10図）

37基のピット（P1～37）を検出した。遺構配置図のみに表示している。調査区南半分に偏在する。遺物は出土していない。

## （5）遺構外出土遺物（第14図、図版8）

各基本層から遺物が出土しており、それらのうち、縄文土器2点、土師質土器4点、礫石器3点を第14図に図示した。1～4はI層から出土した土師質土器かわらけである。いずれも法量・器形・底部切り離し技法が共通する。5・6はIVc層から出土した縄文土器壺の胴部片で、同一個体片である。沈線文・刻目が施文される。7はIVa層から出土した礫石器である。楕円礫の表裏面および側面に凹痕と敲打痕が複合してみられる。8・9はIV層から出土した礫石器である。8は扁平な楕円礫の二面の中央に凹痕が、9は表裏面および側面に磨面と敲打痕が複合して観察される。



No	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	I-1	4A1	I	-	土師質土器	かわらけ	(11.6) × 6.5 × 2.5	ロクロナデ 底部回転糸切り	ロクロナデ		8-3
2	I-2	4A1	I	-	土師質土器	かわらけ	(12.0) × 7.0 × 2.6	ロクロナデ 底部回転糸切り	ロクロナデ		8-4
3	I-3	4A1	I	-	土師質土器	かわらけ	11.2 × 6.5 × 2.5	ロクロナデ 底部回転糸切り	ロクロナデ		8-5
4	I-4	4A1	I	-	土師質土器	かわらけ	11.2 × 6.5 × 2.3～2.8	ロクロナデ 底部回転糸切り	ロクロナデ		8-6

No	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真図版
5	A-1	4A1	IVc	-	縄文土器	壺	胴部・沈線文・刻目 内面 - ナデ	内外面摩滅、A-2と同一。	8-7
6	A-2	4A1	IVc	-	縄文土器	壺	胴部・沈線文(五本一描?) 内面 - ナデ	内外面摩滅、A-1と同一。	8-8

No	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真図版
7	Kc-b2-1	4A1	IVa	-	礫石器	凹+敲	安山岩	10.6 × 7.6 × 5.2	462.07	凹1+1、敲5+3、側9、端2。	8-9
8	Kc-b1-1	4A1	IV	-	礫石器	凹	石英安山岩	11.35 × 8.9 × 3.6	483.95	凹2+3。	8-10
9	Kc-a3-1	4A1	IV	-	礫石器	磨+敲	石英安山岩	19.5 × 5.8 × 4.8	434.36	磨1+1、側1、敲側2+1+1。	8-11

第14図 遺構外出土遺物

## 第5節 伊古田B遺跡4A2区

### 3. 4A2区の調査

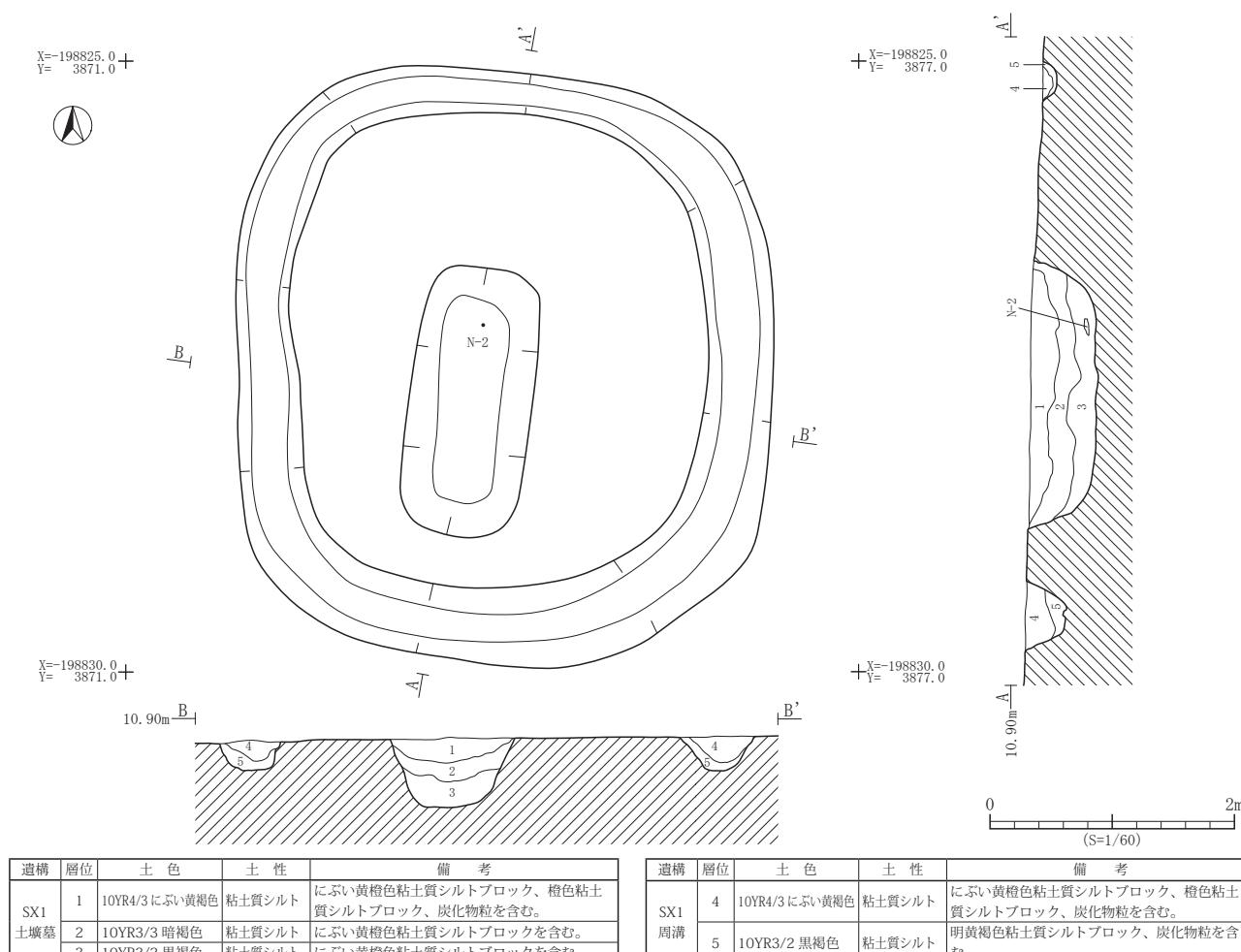
4A2区では、基本層IIIa層上面（古代以降の遺構検出面）において、土壙墓1基、土坑1基、溝跡4条、ピット56基を検出した。IIIb層上面（古代以降の遺構検出面）において、ピット12基を検出した。IVc層上面（古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡1軒、小溝状遺構3群を検出した。V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、ピット6基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

なお、本調査区から水田跡は検出されていないが、4A1区から水田跡が検出されたことから、本調査区でもプラント・オパール分析を実施した。分析結果については、本節8に掲載している。

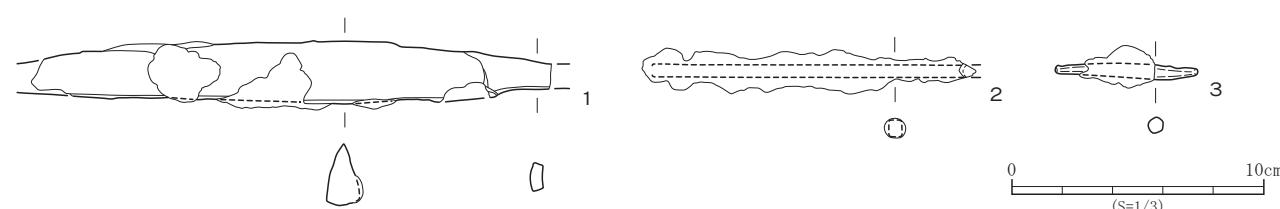
#### (1) IIIa層検出の遺構と遺物（第17図）

##### 1) 土壙墓

SX1 土壙墓（第15・16図、図版4・8）E70・S420グリッドで検出した。周溝を伴う土壙墓である。墓壙を囲む周溝は平面形が隅丸方形で、主軸方位はN-4°-Eである。規模は外縁4.43～4.84m、内縁3.48～3.89m、溝

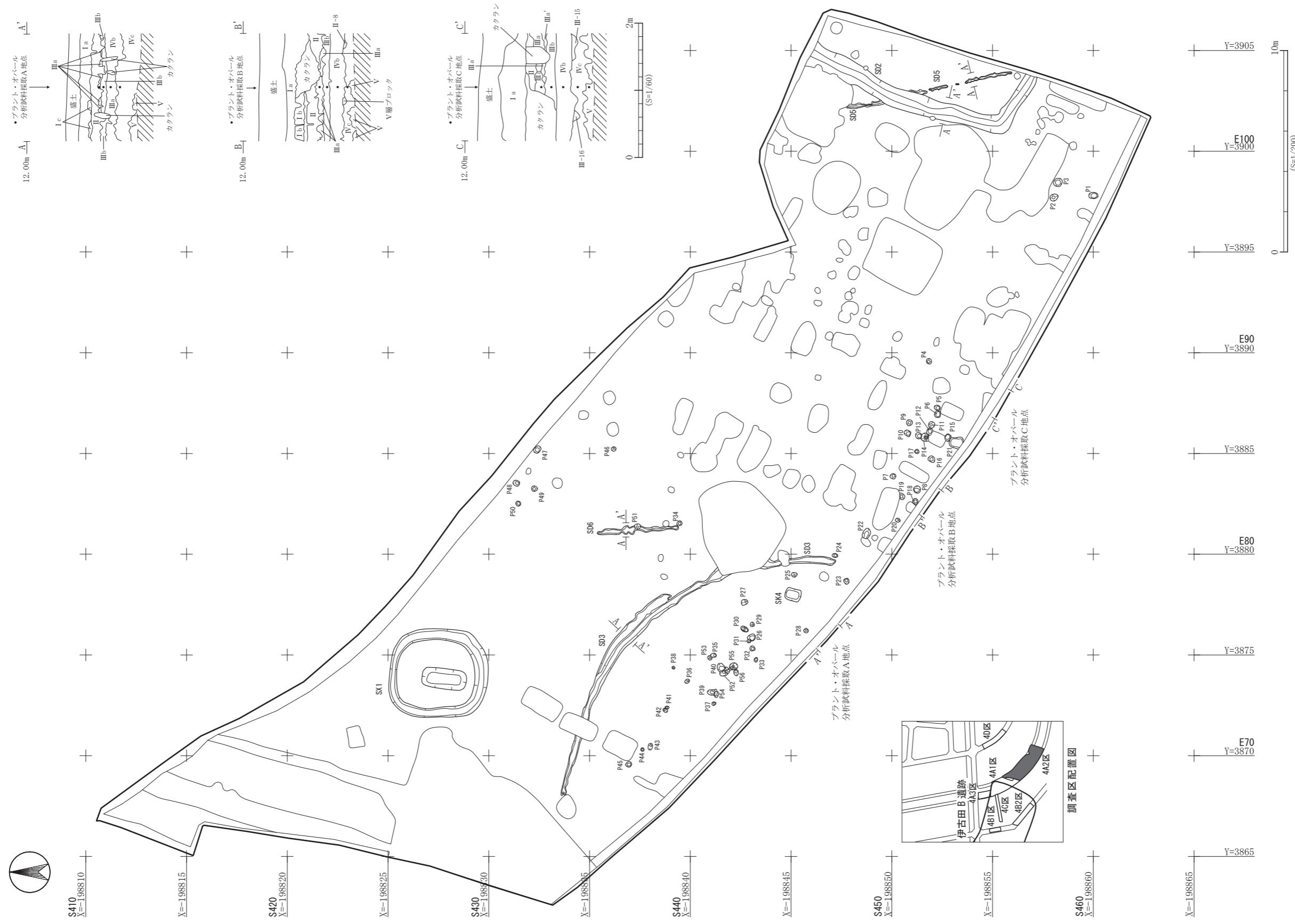


1 土壙墓平面図・断面図



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	N-2	4A2	SX1-墓壙	底面直上	金属製品	直刀	現 20.5×2.7×2.0 (61.6)			8-12
2	N-3	4A2	SX1-墓壙	底面直上	金属製品	棒状鉄製品	現 13.2×1.6×1.7 (28.7)			8-13
3	N-4	4A2	SX1-墓壙	底面直上	金属製品	棒状鉄製品	5.6×1.7×1.4 6.4			8-14

第16図 SX1 土壙墓出土遺物

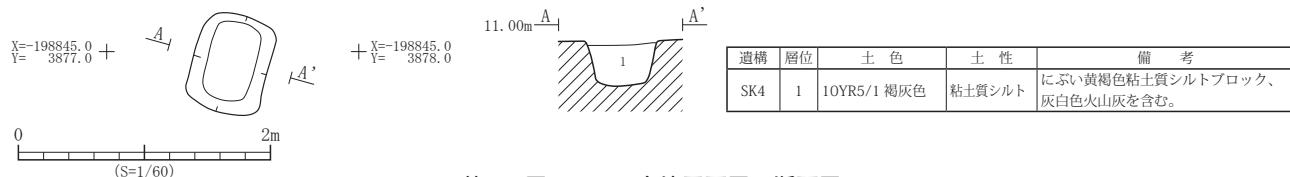


第17図 伊古田B遺跡4A2区Ⅲa層構成配置図、プラント・オバール分析試料採取地点断面図

幅50～74cm、深さ18～33cmである。墓壙は周溝内部の中央やや南寄りに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-8°-Eである。規模は長軸2.21m、短軸1.01m、深さ56cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は墓壙や周溝の堆積土および底面直上から土師器片、金属製品が出土している。そのうち、墓壙底面直上から出土した鉄製品3点を第16図に図示した。1は直刀、2・3は棒状の鉄製品である。これら3点はいずれも底面北側から出土したものであり、副葬品の可能性が考えられる。

## 2) 土坑

**SK4 土坑**（第18図、図版4） E70・S440 グリッドで検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-15°-Eである。規模は長軸79cm、短軸61cm、深さ36cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。



第18図 SK4 土坑平面図・断面図

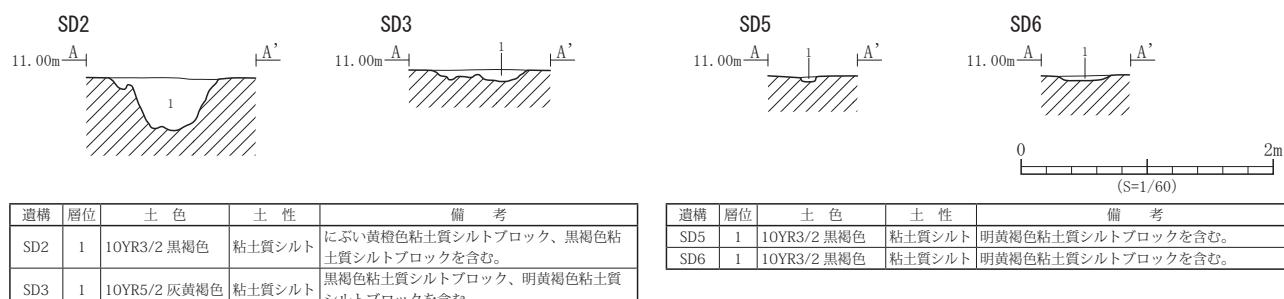
## 3) 溝跡

**SD2 溝跡**（第17・19図、図版5） E100・S440～450 グリッドで検出した。南北方向から東方向に「L」字形に屈曲する溝跡で、北および東の調査区外へ延びる。SD5と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、北側の一部を搅乱により削平されている。方向はN-20°-E、N-57°-Wで、検出長は12.86m、幅0.62～0.98m、深さ40cmである。断面形は概ね逆台形である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SD3 溝跡**（第17・19図） E60～70・S430～440 グリッドで検出した。緩やかに湾曲する弧状の溝跡で、東側および西側の一部を搅乱により削平されている。方向はN-3～72°-Wで、長さ20.21m、幅18～76cm、深さ13cmである。断面形は概ね逆台形で、北東側にはテラス状となる部分がみられる。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SD5 溝跡**（第17・19図） E100・S440～450 グリッドで検出した。南北方向に断続的に延びる溝跡である。SD2と重複関係にあり、本遺構が古い。また、北側は搅乱により削平されている。方向はN-13°-Wで、検出長8.36m、幅10～23cm、深さ6cmである。断面形はU字状である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

**SD6 溝跡**（第17・19図） E80・S430 グリッドで検出した。P34・51と重複関係にあり、本遺構が古い。また、南側の一部を搅乱により削平されている。方向はN-4°-Wで、長さ4.04m、幅13～43cm、深さ4cmである。断面形は皿状である。堆積土は单層である。遺物は出土していない。



第19図 SD2・3・5・6 溝跡断面図

## 4) ピット（第17図）

56基のピット（P1～56）を検出した。調査区中央南側～南西部に偏った分布がみられる。遺物はP24・37・48・52・54から土師器片が出土している。

## 第5節 伊古田B遺跡4A2区

### (2) III b層検出の遺構と遺物(第20図)

#### 1) ピット(第20図)

12基のピット(P57～68)を検出した。調査区東側に散漫な分布状況を示す。遺物はP68から土師器片が出土している。

### (3) IV c層検出の遺構と遺物(第21図)

#### 1) 壁穴住居跡

##### SI74壁穴住居跡(第22～26図、図版5・6・8・9)

[位置] E60～70・S430グリッドに位置する。

[重複関係] 小溝状遺構I～III群と重複関係にあり、本遺構が古い。また、南壁の西側を攪乱により削平される。

[規模・形態] 東西5.28m、南北4.81mである。平面形は、隅丸方形である。

[主軸方位] 新カマド基準でN-4°-Wである。

[堆積土・構築土] 24層に分層した。1～3層は住居跡堆積土、4～18層は新カマド関連層位、19～21層は旧カマド関連層位、22～24層は掘り方埋土である。

[壁面] 床面から急角度で立ち上がり、壁高は南壁で床面から最大27cmである。

[床面] 緩やかな起伏がみられる。掘り方埋土上面および一部IV c層上面を床面としている。

[柱穴] 床面でピットを13基(P1～13)検出した。配置・規模からP4～7は主柱穴と考えられ、P7では長軸18cm×短軸16cmの柱痕跡が検出された。

[周溝] 東西壁の南端部および南壁を除き、断続的に巡る。断面形はU字形で、規模は幅11～21cm、深さ4～9cmである。後述するカマドの造り替えに伴い設けられたものと考えられる。

[カマド] 造り替えが行われている。新カマドは東壁に位置し、壁の中央南寄りに付設されている。袖の規模は、北袖は長さ84cm、幅21～47cm、床面からの高さ18cm、南袖は長さ78cm、幅21～42cm、床面からの高さ15cmである。燃焼部の規模は、奥行き59cm、幅58cmである。煙道部の規模は、長さ1.50m、幅9～39cm、深さ27～46cmである。下端が直線的に延びるのに対し、上端がやや蛇行して煙出し部手前で窄まる。底面は煙出し部に向かって緩やかに傾斜する。煙出し部の規模は長軸57cm、短軸37cm、深さ49cmである。底面の南側に長軸26cm、短軸20cm、深さ16cmのピット状の落ち込みが検出された。

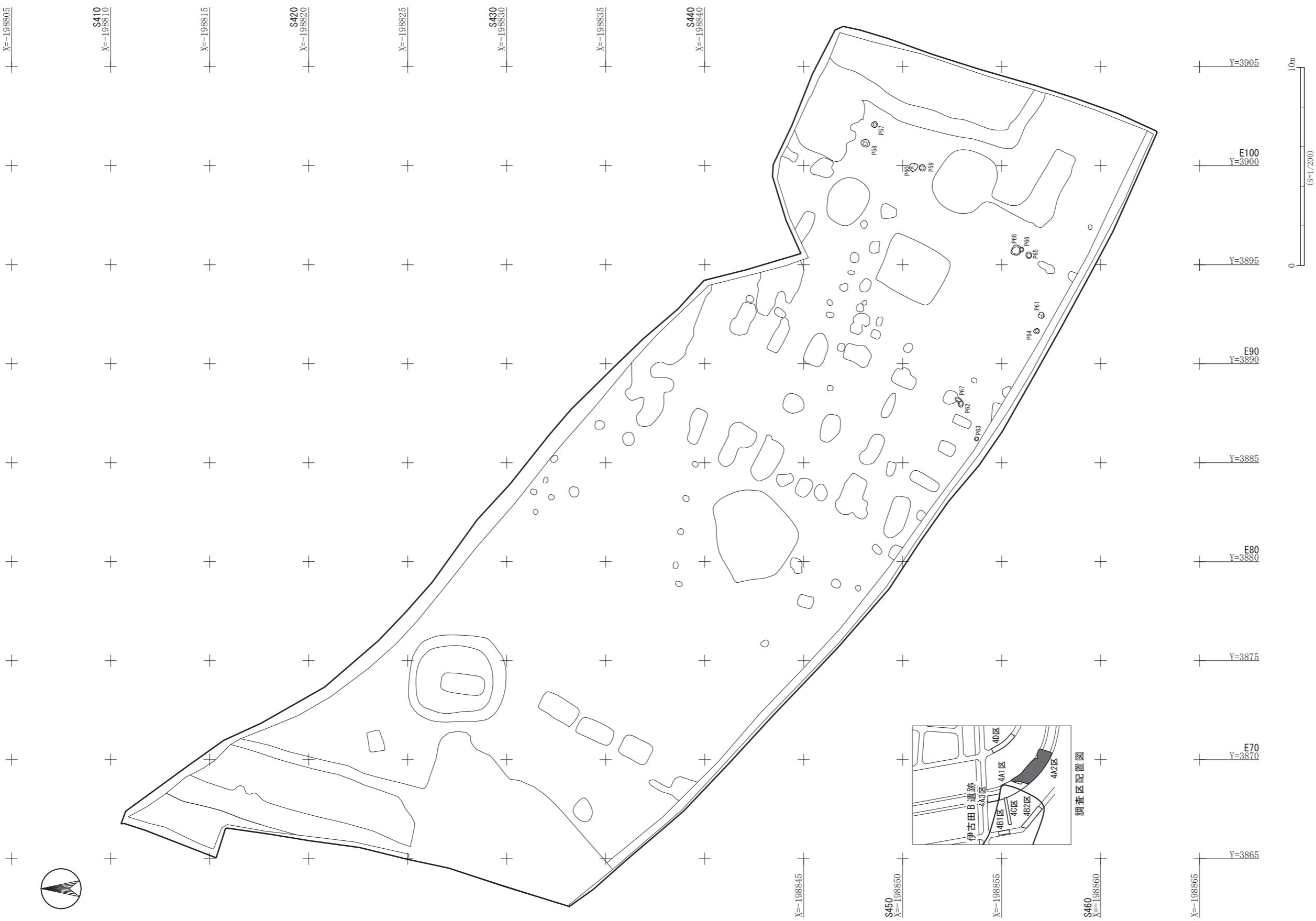
旧カマドは北壁に位置し、壁のほぼ中央に付設されている。煙道部のみを検出した。規模は、長さ1.75m、幅29～77cm、深さ11～47cmである。煙出し部へとほぼ直線的に延び、底面は煙出し部に向かって緩やかに傾斜する。煙出し部はピット状に落ち込み、規模は径35cm、煙出し部底面からの高さ11cmである。

[その他の施設] 北東隅に位置するP2は、旧カマドに伴う貯蔵穴の可能性が考えられる。平面形は隅丸長方形と推定され、規模は長軸86cm、短軸61cm、深さ33cmである。南東隅に位置するP3・8は、新カマドに伴う貯蔵穴の可能性が考えられる。P3は平面形が不整長方形で、規模は長軸86cm、短軸68cm、深さ20cmである。P8は新カマド南袖に隣接する。平面形が楕円形で、住居壁面から袋状に掘り込まれている。規模は長軸61cm、短軸41cm、深さ15cm、壁からの奥行き20cmである。また、北壁際と南壁際からは不整形に広がる被熱範囲が検出された。北側は東西2.13m、南北1.24m、南側は東西1.49m、南北1.38mである。

[掘り方] 深さ5～16cmである。底面には起伏がみられる。

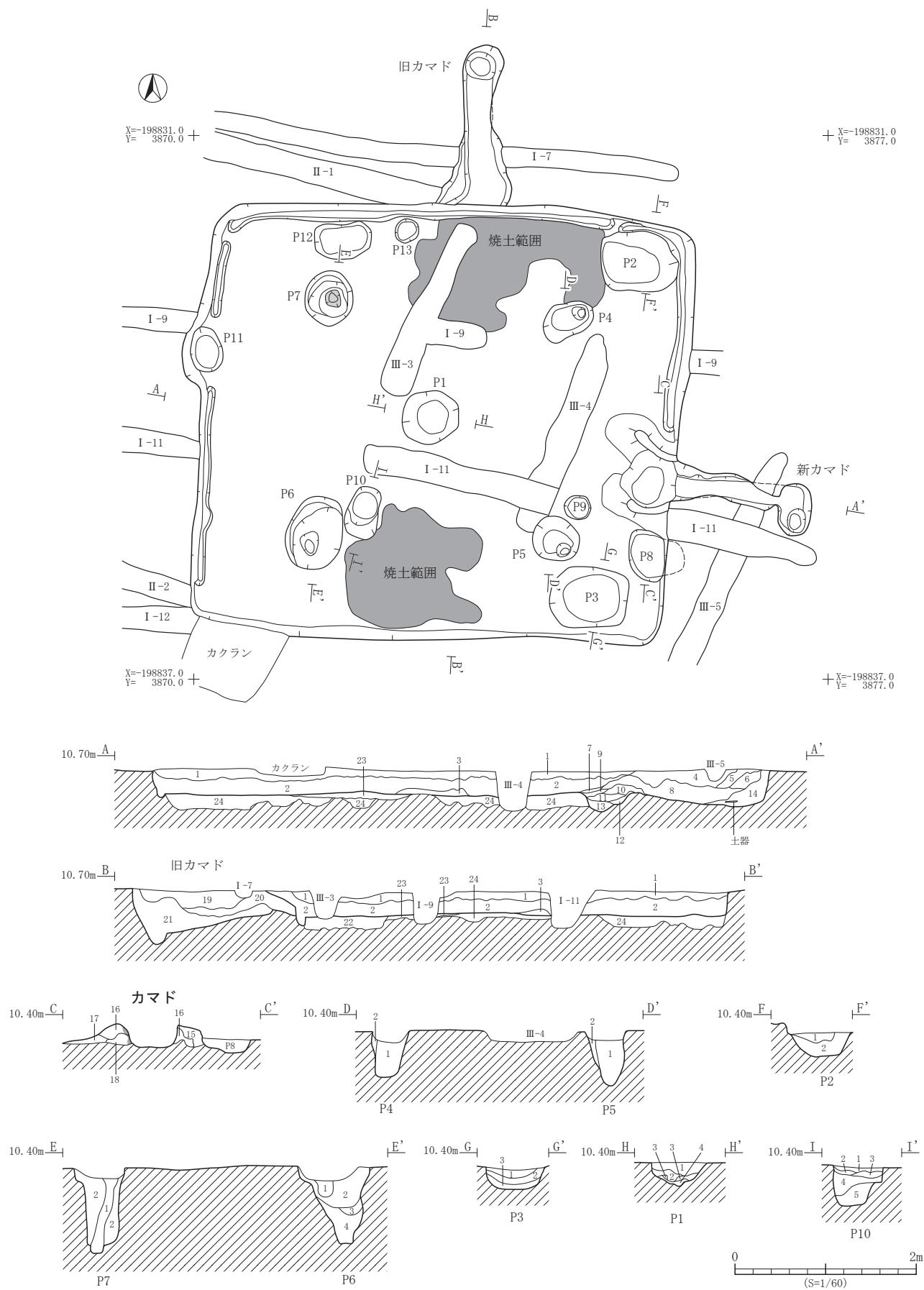
[出土遺物] 堆積土や床面、掘り方から多くの土師器、須恵器等が出土しており、そのうち土師器9点、須恵器7点、金属製品1点を第23～26図に図示した。第23・24図は土師器である。第23図1～3は壺で、いずれも黒色処理されていない。器形は1・2が共に内弯する体部から短く外傾する口縁部へといたり、口径も同一である。3は平底で大きく外傾する体部へと立ち上がる。4は口縁部と体部上端に最大径を持つ鉢である。第23図5、第24図1～4は甕である。最大径は第24図4が胴部中央、その他は口縁部に位置する。第24図1・2は口縁部と胴部の境に段を持つ。第25図1は鉄製の紡錘車である。第25図2～7、第26図は須恵器である。第25図2・3は壺で、共に体部が直線的に外傾する。2は外面の体部下端～底部に回転ヘラケズリが施される。第25図4～7、第26図は甕である。4・5は共に口縁部片で、口唇部はほぼ真横を向き、中央がわずかに凹む。第25図6・7、第26図

第20図 伊古田B遺跡4A2区IIIb層遺構配置図





第21図 伊古田B遺跡4A2区IVc層遺構配置図



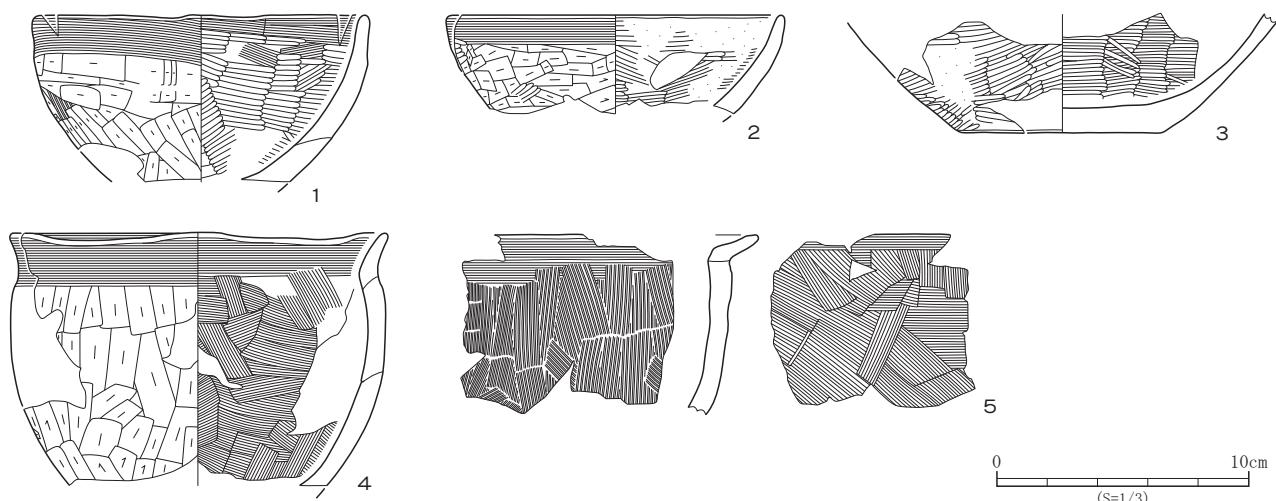
第22図 S174 竪穴住居跡平面図・断面図

## 第5節 伊古田B遺跡4A2区

SI74 土層註記表

遺構	層位	土色	土性	備考
SI74	1	10YR4/3に似い黄褐色	粘土質シルト	に似い黄褐色シルト粒、炭化物粒を含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒、炭化物を含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色砂質シルトブロック、炭化物粒を含む。
	4	10YR4/4 褐色	粘土	下位は赤褐色に変色。
	5	10YR4/3に似い黄褐色	粘土	黒褐色焼土ブロックを含む。
	6	10YR4/3に似い黄褐色	粘土	黒褐色焼土ブロックを含む。
	7	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土ブロック、焼土粒を含む。
	8	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック、炭化物粒を含む。
	9	10YR3/3 暗褐色	粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	10	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック、炭化物粒を含む。
	11	10YR3/3に似い黄褐色	粘土質シルト	に似い黄褐色粘土、焼土粒、炭化物粒を含む。
	12	10YR4/3に似い黄褐色	粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	13	10YR4/4 褐色	粘土	に似い黄褐色粘土ブロックを含む。
	14	10YR4/3に似い黄褐色	粘土	黒褐色焼土ブロックを含む。
	15	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒、炭化物粒を含む。
	16	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色砂質シルトブロック、炭化物粒を含む。
	17	10YR4/4 褐色	粘土	下位は赤褐色に変色。
	18	10YR4/3に似い黄褐色	粘土	黒褐色焼土ブロックを含む。
	19	10YR3/3 暗褐色	粘土	黒褐色焼土ブロックを含む。
	20	10YR3/3 暗褐色	粘土	黒褐色焼土ブロック、炭化物粒を含む。
	21	10YR3/3 暗褐色	粘土	黒褐色焼土ブロック、炭化物粒を含む。
	22	10YR4/3に似い黄褐色	粘土	褐色粘土ブロック、焼土粒、炭化物粒を含む。
	23	10YR4/3に似い黄褐色	粘土	褐色粘土を含む。
	24	10YR4/3に似い黄褐色	粘土	褐色粘土ブロック、炭化物粒を含む。
SI74	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
P1	2	10YR3/2 黒褐色	粘土	炭化物粒を含む。
SI74	3	-	-	炭化物層。
P1	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物粒を含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
SI74 P2	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土	に似い黄褐色砂質シルトブロック、炭化物粒を含む。
SI74 P3	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
SI74 P4	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	褐色粘土ブロック、炭化物粒を含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土	黄褐色砂質シルトブロックを含む。
SI74 P5	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	に似い黄褐色粘土ブロックを含む。
SI74 P6	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色粘土ブロックを含む。
SI74 P7	3	10YR3/3 暗褐色	粘土	-
	4	10YR4/4 褐色	粘土	褐色砂質シルトブロックを含む。
SI74 P8	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色粘土ブロックを含む。
SI74 P9	-	-	-	註記なし。
SI74 P10	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	-
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘土	に似い黄褐色砂質シルトブロック、炭化物粒、焼土粒を含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土ブロック、炭化物粒を含む。



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-3	4A2	SI74	床面	土師器	壺	(13.4) × - × 現 6.6	ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ	ヘラナデ・ヘラミガキ	碗の可能性あり。	8-15
2	C-1	4A2	SI74	1	土師器	壺	(13.4) × - × 現 3.9	ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヘラミガキ		8-16
3	C-2	4A2	SI74	1	土師器	壺	- × (8.0) × 現 4.7	ヘラミガキ	ヘラミガキ		8-17
4	C-4	4A2	SI74	掘り方	土師器	鉢	(15.0) × - × 現 10.0	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ		8-18
5	C-5	4A2	SI74	1	土師器	甕	- × - × 現 7.1	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ヘラナデ		8-19

第23図 S I 74 穴住跡出土遺物（1）

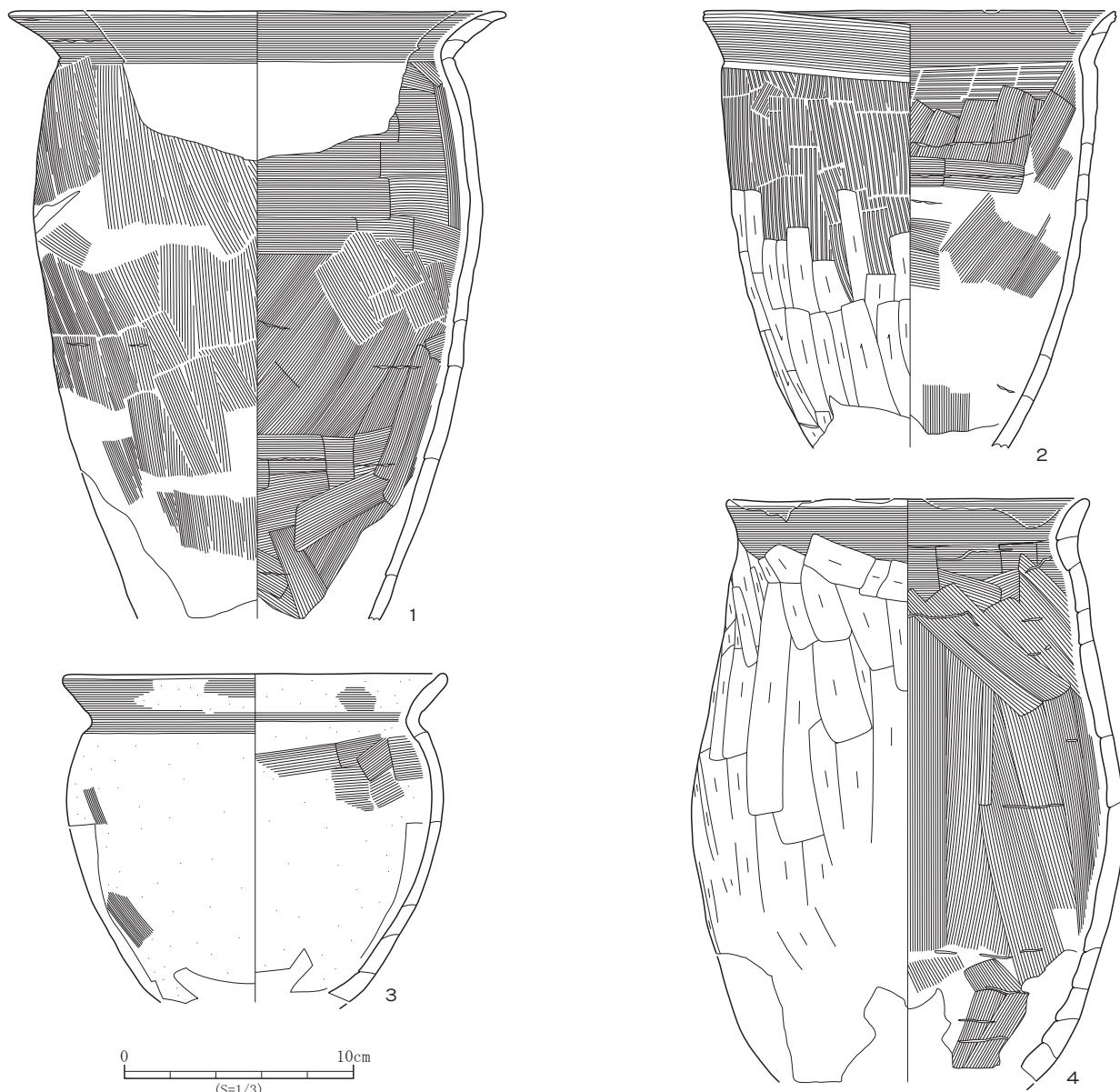
は外面にタタキ目、内面に当て具痕が観察される胴部片である。出土土器の特徴から、本住居跡の年代は8世紀前半～中頃と考えられる。

### 2) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係からI～Ⅲ群に分けられる。また、重複関係からⅢ群→Ⅱ群→I群の変遷がたどれる。

I群（第21・27図）E60～90・S420～440グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、17条の小溝で構成される。一部重複しており、掘り直しとみられる。方向はN-73～88°-Wで、検出長16cm～20.23m、幅13～52cm、深さ3～18cmである。小溝の間隔は、0～2.60mである。堆積土は単層である。遺物はI-9・11・12・14・16から土師器片が出土している。

II群（第21・27図）E60～90・S430～440グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、8条の小溝で



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-6	4A2	SI74	-	土師器	甕	(21.8) × - × 現 26.5	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ヘラナデ・ナデ		8-20
2	C-7	4A2	SI74-P3	-	土師器	甕	17.5 ~ (18.0) × - × 現 19.1	ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ	内外面被熱。	9-1
3	C-8	4A2	SI74	床面	土師器	甕	(15.8) × - × 現 25.4	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ	内外面被熱。	9-2
4	C-9	4A2	SI74-P10	-	土師器	甕	16.8 × - × 現 14.3	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	内外面摩滅。	9-3

第24図 SI 74 竪穴住居跡出土遺物（2）

構成される。方向は N-65 ~ 74°-W で、検出長 2.06 ~ 13.85m、幅 20 ~ 60cm、深さ 7 ~ 17cm である。小溝の間隔は、71cm ~ 2.35 m である。堆積土は单層である。遺物は II -3・5 ~ 7 から縄文土器片、打製石器（微細剥離痕のある剥片）、土師器片が出土している。

III群（第21・27図）E60 ~ 110・S420 ~ 460 グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群で、24条の小溝で構成される。方向は N-12 ~ 31°-W で、検出長 2.55 ~ 18.08 m、幅 13 ~ 47cm、深さ 8 ~ 30cm である。小溝の間隔は、3cm ~ 3.75 m である。堆積土は单層である。遺物は III -5 ~ 7・17・19・24 から縄文土器片、土師器片が出土している。

#### （4）V層検出の遺構（第28図）

##### 1) ピット（第28図）

6基のピット（P69 ~ 74）を検出した。調査区東側に偏在する。遺物は出土していない。